

平成23年度（平成22年度対象）

# 逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【目次】

○はじめに

1 趣旨	.....	1
2 点検・評価の対象等	.....	1
3 点検・評価の記載方法	.....	1
4 報告内容の構成	.....	2

○ 点検及び評価の結果

逗子市学校教育総合プラン 21世紀を生きる逗子の子どもの育成 「未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」		頁
自ら考え 心豊かに たくましく生きる子ども		
I 子どもたちの学力向上		3
1 個に応じた指導の充実		3
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み		3
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実		6
③ 「読解力」向上の取り組みの推進		10
④ 読書活動の推進		13
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進		16
〈教育委員会分析結果〉		20
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉		24
2 健やかな心と身体の育成		26
① 基本的な生活習慣の育成		26
② 豊かな心を育む道徳教育の推進		30
③ 豊かな体験活動の推進		33
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進		36
〈教育委員会分析結果〉		39
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉		41
II 課題に迅速に対応する学校づくり		43
1 多様な教育的課題への対応		43
① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～		43
② いじめ・不登校等への対応の推進		46
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進		49
④ 国際教育の推進		52
⑤ キャリア教育の推進		55
⑥ 福祉教育の推進		58
⑦ 環境教育の推進		61
⑧ 情報教育の推進		64
〈教育委員会分析結果〉		67
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉		71
2 地域に開かれた学校づくり		74
① 地域への情報発信と学校公開の工夫		74
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～		77
③ 学校評価を生かした学校の改善		80
〈教育委員会分析結果〉		83

			〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	85
		Ⅲ	教員の指導力向上	87
		1	教員研修・研究の充実	87
			① 授業研究の充実	87
			② 授業評価の活用	90
			③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	93
			④ 研修事業の充実	96
			〈教育委員会分析結果〉	99
			〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	101

○平成 20 年度～平成 22 年度 学校による点検及び評価の推移

逗子小学校	103
沼間小学校	108
久木小学校	114
小坪小学校	119
池子小学校	124
逗子中学校	129
久木中学校	134
沼間中学校	139

○参考資料

平成 22 年度の教育委員会の活動状況	145
逗子市学校教育総合プラン全体図	148
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	149
地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について （抜粋）	150

## 〇はじめに

### 1 趣旨

逗子市教育委員会では、「21世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成18年3月に策定しました。その際、変わり行く社会情勢や教育改革に対応できるよう、プランの期間を3年とし、2年経過後見直しを図ることとしたので、平成21年度中に改定作業を進め、「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅱ期）」を策定しました。

この第Ⅱ期のプランも第Ⅰ期同様、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとなっています。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点をおき、逗子の教育の一層の充実に取り組む必要があります。

このたび取りまとめた「平成23年度（平成22年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書」は、このような逗子の教育の特色ある施策の報告とともに、平成22年度逗子市教育委員会の活動状況についてもお知らせをするものです。

今後も広く市民の皆さんに本市の教育施策の実施状況をお知らせすることにより、学校と行政、そして保護者、地域と互いに携えあって「生きる力」を育み、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

### 2 点検・評価の対象等

点検・評価の対象は、「逗子市学校教育総合プラン」実施計画の平成22年度の取り組み状況としています。

\*本市の点検・評価に関する報告書については、予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成22年度における取り組みを点検・評価するものです。

### 3 点検・評価の記載方法

- (1)「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成22年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。

(2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。

意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです

高木 展郎 氏（横浜国立大学教育人間科学部付属教育デザインセンター長）

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

#### 4 報告内容の構成

##### (1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

ア 個に応じた指導の充実

イ 健やかな心と身体の育成

ウ 多様な教育的課題への対応

エ 地域に開かれた学校づくり

オ 教員研修・研究の充実

##### (2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

##### (3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成22年度の取り組み目標」を「達成した」かどうか、「達成した」とした場合、その判断をした状況、「達成できなかった」とした場合、その目標への取り組み状況や明らかになった課題を、「評価と課題」としてまとめています。

##### (4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取り組みの進捗状況（項目別達成率）などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

教育委員会の自己評価のうち評価は、市立全校の実践評価での項目別達成率が90%を超え、顕著な成果が見られるものをS、同じく実践評価での項目別達成率が80%を超え、多くの成果を挙げていると判断できるものをA、同じく実践評価での項目別達成率が70%を超え、一定の成果を挙げていると判断できるものをB、同じく実践評価での項目別達成率が60%を超えているものをC、同じく実践評価での項目別達成率が60%に満たないものをD、としています。

##### (5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

## ○ 点 検 及 び 評 価 の 結 果

# I 子どもたちの学力向上

## <目 標>

学校が、子ども達の学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実をはかり、指導法・評価活動の工夫をすすめるとともに、基本的な生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

## 1 個に応じた指導の充実

### ① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み

#### 【 目 標 】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養います。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校 【目標】

- ①新学習指導要領完全実施に向けた検討
- ②言語活動の充実に向けての研究推進
- ③外国語活動の取り組みに向けての検討

#### 【評価と課題】

- ①達成した（教務部・教育課題研究部とで検討し、学年末の懇談会で保護者に説明をした。新年度には全保護者に向けて説明会を持つ予定。）
- ②達成した（教育課題研究部を中心に授業研究等を進め2月に発表を行った。）
- ③達成した（担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。）

### 沼間小学校 【目標】

- ①移行に対応した教育課程の編成と実施
- ②外国語活動の教育課程編成
- ③地域の特性を生かした教育課程の編成

#### 【評価】

- ①達成した（移行措置に基づいた教育課程を編成した。）

- ②達成した（年間35時間分の外国語活動の教育課程を編成した。）
- ③達成した（地域学習を発達段階に応じて各学年に組み込んでいる。）

【課題】

教科書の採択替えによる見直しが必要である。また、外国語活動や総合的な学習は試行しながら見直していく必要がある。

久木小学校 【目標】

- ①移行措置2年目として、子どもたちの実態や地域の特性に応じた教育課程を編成する。
- ②小学校外国語活動の推進のため、実践研究を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（新指導要領完全実施に向け教育課程を編成できたが、実践による検証が課題である。）
- ②達成した（全学級で研究授業を実施し、研究を進めることができた。）

小坪小学校 【目標】

- ①「コミュニケーション力の向上」をめざした授業づくりをテーマとし言語活動の充実を図る。
- ②「聴く・話す」の段階指導に取り組む。

【評価】

- ①達成した（年間を通じて、どの学級でも継続的に課題を示し宿題として取り組みが定着した。）
- ②達成した（校内研究を継続し、聴いて考えつなげる授業の構築ができてきた。）

【課題】

先進校を視察した結果、学級ごとの取り組みに課題が残ることを認識した。チーム小坪として年度当初の取り組みを統一する。

池子小学校 【目標】

- ①新学習指導要領の完全実施に向け、言語活動の充実を目指した教育課程を編成する。
- ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、探求的な学習の充実を図る。

【評価】

- ①達成した（年間指導計画を見直し、新指導要領で求められている言語活動の充実を意識して改善に努めた）
- ②達成した（総合的な学習の時間の全体計画を見直し、教員の共通理解を図った）



【課題】今年度の実践を足跡カリキュラムとして残し改善を積み重ねていくよう  
に取り組む

**逗子中学校【目標】**

- ①教科毎、学年毎の年間指導計画・評価計画を作成する。
- ②単元や題材、単位時間毎の具体的な評価方法・場面を設定する。

**【評価】**

- ①達成した（新学習指導要領完全実施をふまえた年間指導計画、および評価計画を作成した）
- ②達成した（新学習指導要領完全実施にともなう、単元ごとの評価方法の検討など、教科会を中心に取り組むことができた）

**【課題】**

新指導要領実施に伴う、指導計画評価計画の変更を次年度中に行う。

**久木中学校【目標】**

- ①数学・理科に加え、他教科に関しても可能な範囲で授業時数を増加する。
- ②学習指導要領の総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動については新学習指導要領の規定を着実に実施する。

**【評価と課題】**

- ①達成した（英語・保健体育・社会も一部の学年で実施できた。）
- ②達成した（全職員で研修を行い認識・確認ができた。）

**沼間中学校【目標】**

- ①選択授業の時数の削減と数学・理科時数の拡大を図る。
- ②全教科における言語活動・体験活動のあり方を視野に入れた授業実践を行う。

**【評価と課題】**

- ①達成した（3年では選択授業時数を年間17時間削減する等、理科授業数年間35時間拡大した。）
- ②達成した（次年度も校内研究会で研究を進め、より日常的な授業実践に結びつけていくことが、課題である。）

## ② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実

### 【 目 標 】

学校が担う役割の一つは、子どもたちが他者との関わりの中で生きていく力、すなわち集団生活における社会性を身に付けることが挙げられます。その過程で、子どもたちは生きていくために必要な様々な力を習得していきます。しかし生活様式や価値観が多様化している現代において、画一的な一斉授業だけでは基礎学力を定着させることは難しい状況になってきています。

そこで本市では、学校の機能や教員の能力を最大限に活用し、子どもたち一人ひとりにあった学びに配慮し、指導の充実を図っていきます。具体的には教材や指導方法の工夫・改善に取り組み、発展的・補充的扱いを配慮した指導を行い、指導と評価の一体化を図ることで、学びの質の向上を目指します。

また、予習・復習を促し、子どもたちの学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図ります。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校 【目標】

- ①児童の学力把握のための取り組みの検討
- ②チームティーチングや少人数指導の充実
- ③オープンスペースの学習環境の課題検討
- ④長期休業期間中の学習支援の実施

#### 【評価と課題】

- ①達成した（1年を除く各学年、国語・算数で学習状況の調査を行い、実態把握と分析を行った。）
- ②達成した（教員だけでなく学生ボランティアを活用し、教員の指示のもとで行った。）
- ③達成した（支援教室を立ち上げたり、各教室にパーテーションを設置したりして取り組んだ。また、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。）
- ④達成した（1年生を除く各学年で取り組んだ。）

#### 沼間小学校 【目標】

- ①少人数指導、少人数学級の導入
- ②スキルタイムの有効活用で基礎学力定着の推進
- ③発達段階に応じた学習の仕方の指導

【評価】

- ①達成した（落ち着いた学習環境で授業が展開した。）
- ②達成した（全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。）
- ③達成した（発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。）

【課題】

低学年や多様な姿を見せる子どもたちに対してチームティーチング教諭の配置ができず、個に応じたきめ細かな取り組みには課題が残った。

久木小学校【目標】

- ①少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎基本の定着を図る。
- ②指導すべき内容等に応じた適切な教材の開発や繰り返し指導に努める。

【評価と課題】

- ①達成した（県および市の少人数指導教員を活用し、指導法の工夫・改善に取り組むことができたが、23年度は個に応じた指導の充実が課題である）
- ②達成した（継続的な課題であり、取り組み続ける。）

小坪小学校【目標】

- ①児童が課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する。
- ②家庭との連携をとりながら家庭学習の充実を図る。

【評価】

- ①達成した（全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。）
- ②達成した（毎日家庭で学習する習慣が身についた。）

【課題】

授業改善の取り組みの「一人学び」に通じる家庭学習にしていく必要がある。

池子小学校【目標】

- ①少人数指導やチームティーチング、小集団など多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る。
- ②指導方法の工夫・改善、ICTの活用を図り、学び合う中で活用し、探究する力を養う。

【評価と課題】

- ①達成した（多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図った）
- ②達成した（教材提示装置等を活用し、自分の考えを発表したり、友だちの考えと自分の考えをつなげて考えたりする学習活動を多く取り入れた）

### 逗子中学校【目標】

- ①指導法の工夫改善を図り、基礎・基本や自ら学び考える力、読解力を育成していく。
- ②学習支援シート（個人学習カルテ）を作成し、教科相談等の診断的支援体制を確立していく。

### 【評価】

- ①達成した（校内研究会や研究授業を通して、基礎・基本の深化や自ら学び考える力、読解力の育成を目指した授業の充実に取り組んだ）
- ②達成した（学習支援シートの更なる有効活用について、担当部会を中心に話し合いを進め、23年度は教科相談の充実を目指している）

### 【課題】

言語活動の充実について、さらなる研究を深めていく。

### 久木中学校【目標】

- ①指導法の工夫改善を図る。
- ②少人数指導での習熟度別指導の充実と成果の明確化
- ③個人カルテの利用の推進
- ④補習体制の充実＝長期休業中及び日常的な実施の工夫
- ⑤英検、数検、漢検等への積極的な支援

### 【評価と課題】

- ①達成した（授業のユニバーサル化を含めて更に推進していく。）
- ②達成した（授業のユニバーサル化を含めて更に推進していく。）
- ③達成した（支援教育と連携して更に推進していく。）
- ④達成した（実施方法を見直し推進していく。）
- ⑤達成した（補習を含め推進していく。）

### 沼間中学校【目標】

- ①生徒一人ひとりの能力に応じた補習を定期試験前や夏休み、さらに定期的に実施する。
- ②生徒一人ひとりの学習状況の把握とそれに対応する授業を工夫する。
- ③個人学習カルテの改善を行う。

### 【評価】

- ①達成した（支援部が中心となり、サマーチャレンジ10日間、テスト前補習年4回4日間を学校体制で実施することができた。）
- ②達成した（学習状況把握を校内研究会のテーマの1つに掲げ、研究授業を実施し、講師の助言を仰ぎ、日常の授業に生かした。）
- ③達成した（評定や観点別学習評価との違いが明確になるよう記号を変え、保護者・生徒の理解しやすいよう改善できた。）

【課題】

学習意欲の向上に努め工夫も重ねたが、生徒の理解力向上にややつながって  
いなかった。さらに努力が必要である。

### ③ 「読解力」向上の取り組みの推進

#### 【 目 標 】

学習活動を行っていく上で、テキスト（文章や資料）を読み解き、自分の意見を筋道を立てて述べることは大切です。このことは教科学習に限ったことではなく、社会生活を送っていく上でも、物事を考え、自分の考えを発信していく力が求められます。環境問題をはじめ様々な問題が山積している現代社会では、思考力や判断力を駆使して問題解決の方法を考え、それを自ら表現する力が不可欠になります。

これからの学習活動は、知識・技能を習得するとともに、知識・技能を活用することが求められます。一朝一夕に身に付く力ではありませんが、逗子市では、先に策定した『逗子市読解力向上プラン』をもとに、子どもたちの言葉の力の現状を把握し、必要な言語環境を整え、言語活動の充実を図ります。

#### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

##### 逗子小学校【目標】

- ①言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進
- ②発達段階に応じた課題図書を検討
- ③思考力、判断力、表現力の向上に向けての取り組みの検討

##### 【評価と課題】

- ①達成した（校内研究で取り組み、研究発表を行った。）
- ②達成できなかった（学校独自では課題図書を選定することはできなかった。）
- ③達成した（校内研究で取り組み、研究発表を行った。）

##### 沼間小学校【目標】

- ①各教科で言語活動の充実を目指す
- ②「自分の考えを表現できる」を指導目標
- ③「学び合い」を大切にした授業

##### 【評価】

- ①達成した（校内研究で全職員が取り組んだ。）
- ②達成した（校内研究でサブテーマとして取り組んだ。）
- ③達成した（発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。）

##### 【課題】

読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。

### 久木小学校【目標】

国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。

#### 【評価と課題】

達成した（言語活動の充実は教科・総合・道徳等、全教育活動に関わるもので、公開授業を行い研修を深めた。授業づくり研修会の実施・充実を通し継続して取り組み続ける。）

### 小坪小学校【目標】

「PISA型読解力」についての理解を深め、その育成に取り組む。

#### 【評価】

達成した（高木教授の指導の下、職員全体でPISA型読解力についての理解が深まった。高木教授により文部科学省の評価チームの検討結果を直接聞くことができた事により、正しい理解ができた。）

#### 【課題】

新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を変えていく必要がある。

### 池子小学校【目標】

①「逗子市読解力向上プラン」に基づき、各教科、総合的な学習の時間等を通じて言語活動の充実を図る。

②文章や資料を読む機会や自分の意見を述べる機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。

#### 【評価と課題】

①達成した（各教科、総合的な学習の時間等を通じて、自分の考えを伝えることができてきた。）

②達成した（資料活用を多く設定し、根拠を明確にして自分の意見をまとめる力の育成をめざした。）

### 逗子中学校【目標】

①文章や資料などを正しく理解し、自分で判断し、評価しながら読みとる力を高める取り組みを進めていく。

②文章や資料に基づいて論理的に考えを進めた後、自分の考えを書いたり、発信したりする力を高める取り組みを進めていく。

#### 【評価】

①達成した（各教科の中で言語活動の充実を図るために、特に文章や資料を正しく読み取り、課題解決型の授業実践を推進していくことができた。生徒はその到達度を、自分と他者とを評価することによって、お互いの理解力や判断力を高め合っていくことができた。）

②達成した（学年ごとの総合的な学習の取り組みの中で、行事の個人研究発表について、自己表現活動の充実につとめることができた）

【課題】

教科指導だけではなく、教科外での活動も含めて実施していく。

久木中学校【目標】

- ①国語科を始めとし各教科、総合的な学習の時間を通じて言語活動の充実を図る。
- ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。

【評価と課題】

- |                |   |  |
|----------------|---|--|
| ①達成した<br>②達成した | } | 道徳・総合的な学習の時間・各教科の学習の中にテーマについて班で話し合う環境作りを行った。 |
|----------------|---|--|

沼間中学校【目標】

- ①各教科における「読解力」とはどのような能力か周知を図る。
- ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。

【評価】

- ①達成した（今後は新学習指導要領における言語活動との整合性を図るところから再検討する必要がある。）
- ②達成できなかった（読解力に焦点を当てた校内研修会をもったが、「内容」の洗い出しには至らなかった。）

【課題】

事前の取り組みが不十分だった。逗子市の捉え方、新学習指導要領における捉え方の周知を図るとともに、沼間小学校での実践についても周知をはかるために研修会を設定する必要がある。



## ④ 読書活動の推進

### 【 目 標 】

子どもの活字離れが指摘されている今日ですが、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、「朝の読書」「読み聞かせ」など読書の習慣づけを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①学校図書館の整備と充実
- ②読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの整理
- ③市立図書館との連携に関する検討

### 【評価と課題】

- ①達成した（百科事典などの蔵書の追加を市教委の援助により行うことができた。また、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。）
- ②達成した（学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。）
- ③達成した（今年度より市立図書館との連携を始めた。）

### 沼間小学校【目標】

- ①読書活動の日常化
- ②読書環境の充実
- ③学習活動に読書活用を位置づける。

### 【評価】

- ①達成した（全職員が取り組んでいる。）
- ②達成した（読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。）

③達成した（学校図書館指導員と連携した指導が展開されている。）

【課題】司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。

#### 久木小学校【目標】

①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。

②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。

#### 【評価と課題】

①達成した（年間を通し図書ボランティアを活用した（毎週火・木）。図書館指導年間計画に基づき実施できた。）

②達成した（お話会による読み聞かせ等を計画通り（年間10回）実施した。お話会ボランティアと図書指導担当の打ち合わせを一層密にすることが課題である。）

#### 小坪小学校【目標】

①小坪小の特色であり、朝読書など日常活動を通して継続充実に努める。

②小坪選定図書の活用に取り組む。

③一人一人の読書量の増加や多様化をめざす取り組みをする。

#### 【評価】

①達成した } （学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組みを進めるこ  
②達成した } とができた。）

③達成できなかった（市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書館を活用したりするシステムを立ち上げることができなかった。）

#### 【課題】

学級担任による各学級の取り組みをいっそう進める必要がある。

#### 池子小学校【目標】

①学校図書館の機能向上のため、蔵書のよりよいデータベース化を調査する。

②保護者や地域との連携を図りながら、読み聞かせ等、子どもの発達段階に応じた読書活動を推進する。

#### 【評価と課題】

①達成した（データベース化の前段階として、蔵書の見直しを行い資料を新しいものに入れ替えるように努めた。理科や社会科・総合的な学習等の調べ学習にかつようできるよう、資料がより新しい本を購入したり、複本のある学校に譲ってもらったりし、整備に努めた。）

②達成した（ボランティアによる「お話会」を年間計画に位置づけ、読み聞かせの機会を確保した）

### 逗子中学校【目標】

- ①学校図書館指導員(司書免許所有者)の活用と連携の方法を検討していく。
- ②一人ひとりの読書量を増やすため、朝読書や教職員による読み聞かせを実践していく。

#### 【評価】

- ①達成した(学校図書館指導員、司書免許所有者が中心となって委員会活動の充実{特に意識調査としてアンケートをとった}を図り、読書の楽しさ有意義さを促した)
- ②達成した(朝読書期間に、CDを使った読み聞かせの工夫を実践してみた)

【課題】生徒の読書をサポートする活動を充実させていく。

### 久木中学校【目標】

- ①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。
- ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化する。
- ③朝の読書を推進する。(全職員による読み聞かせを取り入れる)

#### 【評価と課題】

- ①達成した(総合的な学習との連携を持ち生徒が調べ学習がしやすい環境作りを行った。)
- ②達成できなかった(学校支援ボランティアとの連携ができなかった。)
- ③達成した(担任以外の教職員がクラスを回り読み聞かせにも取り組んだ。)

### 沼間中学校【目標】

- ①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を検討する。
- ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を検討する。
- ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した(保護者・地域の協力を得て、県図書館教育研究会で本校の取り組みを発表し、図書委員会指導の課題を洗い出すことができた。)
- ②達成できなかった(「学校版子どもの読書活動推進計画」の検討はまだ中途なので、来年度も継続する。)
- ③達成した(学校支援ボランティアは試行できたので、来年度本格実施する。)

## ⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進

### 【 目 標 】

支援を必要としている子どもたちに対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が、今求められています。

それに応えるために、学校では校内組織の充実を図り、教育相談コーディネーターの活用を進めていくとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図る必要があります。

さらに、子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう、相談体制を充実させるとともに専門家や専門機関と連携し、協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」を活用し、子どもたちのライフステージを見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①校内支援の為の情報共有と組織的な取り組み推進
- ②保護者との密な連携による支援の実践
- ③スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の推進

### 【評価】

- ①達成した（児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。）
- ②達成した（支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図った。）
- ③達成した（心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また保護者の対応についても支援していただいた。）

### 【課題】

次年度に向けて教職員・巡回指導員・SC・スーパーバイザーを含めた組織的な対応について再度検討し、実践していく必要がある。

### 沼間小学校【目標】

- ①校内支援体制を現状にあわせて構築する。
- ②支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。
- ③児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実。

【評価】

- ①達成した（校内支援体制がようやく定着してきた。）
- ②達成した（担任から支援ニーズについての話が支援部が上がってくるようになった。）
- ③達成した（多様な姿を見せる子どもたちであるが、全職員で子どもを見る体制は定着し、毎月定例の支援部よりの報告で情報共有がなされている。）

【課題】

支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。

久木小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じ具体的支援を行う。
- ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。

【評価と課題】

- ①達成した（校内支援体制が整備され、様々なケースに対応することができたが、子どもたちのニーズも多様化している現状から一層の取り組みが必要である。）
- ②達成した（各機関との連携が進んだ。継続した取り組みを続ける。）

小坪小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターの活用を中心とした組織的対応に取り組み、体制を整える。
- ②対外機関との連携の在り方を検討する。
- ③校内支援シートの活用

【評価】

- ①達成した（小坪小学校としての支援体制が確立できた。）
- ②達成した（教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を進めることができた。）
- ③達成した（校内支援体制が定着してきている。それに伴って担任や保護者との連携も密になってきている。支援シートの活用について具体的な支援の在り方を進めている。）

【課題】

職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。

池子小学校【目標】

- ①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高め、また関係機関との連携を推進する。
- ②保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の

充実を図る。

【評価】

- ①達成した（何か問題が起きたとき、外部機関と関連しながら速やかに対処できた。）
- ②達成した（配慮を要する児童について職員で情報を共有するとともに、児童支援のあり方や保護者対応について事例に基づく研修を行った。そのことにより、保護者との連携のあり方を見直し、個人懇談等でより連携を深めることができた。）

【課題】6年間の学びの中での児童指導支援のあり方についてさらに研修を深め、学校全体での組織的な児童指導をより充実させていく

逗子中学校【目標】

- ①校内支援体制の構築に向けて、教育相談コーディネーター中心で個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。
- ②支援教育推進校として、市内での情報提供をしていく。

【評価】

- ①達成した（教育相談コーディネーターが全クラスの中から、支援を必要とする生徒に目を向け、個に応じた指導というものについて追究し、チームティーチングや取り出し授業等の方途を尽くした。）
- ②達成した（校内支援体制の基盤を確立し、個に応じた指導を追求していくことができた。具体的な成果を得たり、組織運営を進めたりしながら、その経過や結果について、教育相談コーディネーター担当者会を通じ、推進校として他校への情報提供を行ない、年度末には本校としてのまとめを発表することができた。）

【課題】

校内支援体制を確立させ、早い段階からの支援ができるようにしていく。

久木中学校【目標】

- ①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める。
- ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」と思える授業づくりを進める。
- ③ 学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。

【評価と課題】

- ①達成した（支援教育委員会を中心に全職員が支援を要する生徒を理解し支援できる体制作りをしている。）
- ②達成した（授業のユニバーサル化と連携して取り組んでいる。）
- ③達成した（地域の連携・協力により進めることができた。）

沼間中学校 【目標】

- ①生徒1人ひとりの状況把握に努め、その支援のあり方を共通理解する。
- ②教育相談コーディネーターが中心となり、校内支援体制の構築を図る。

【評価と課題】

- ①達成した
  - ②達成した
- （全教職員の意識が向上し生徒の支援のあり方を共有することができた。体制は概ね構築できたが、円滑に実働させていくことが課題であるので、来年度も継続したい。）

## 〈教育委員会分析結果〉

### 1 平成22年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

#### (1) 主な実施事業

- 少人数指導教員派遣事業（11人）
- 学校教育支援ボランティア(学校支援地域本部事業)(2,825人)
- 授業研究推進校委託
  - 逗子小学校⇒伝え合う心を育てよう
  - 沼間小学校⇒自分から進んで取り組む子を育てる
  - 久木小学校⇒協同的・創造的な学び合いを目指して
  - 小坪小学校⇒コミュニケーション力の向上を目指して
  - 池子小学校⇒生き生きと自主性のある子にするために
  - 逗子中学校⇒学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業
  - 久木中学校⇒授業のユニバーサル化
  - 沼間中学校⇒自ら学び考え、行動できる力を育てる
- 学校図書館指導員派遣事業（8人）
- 日本語指導講師派遣事業(7人)
- 特別支援教育充実事業  
(学習支援員44人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名)

#### (2) 主な指導内容

- ▲平成17年から平成21年までの逗子市学習状況調査の結果から逗子の子どもの学力傾向を把握し、個にかえる指導実践
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書館指導員等への研修会の実施

### 2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

#### (1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 94%）



## (2) 主な成果等

### 【基礎学力】

- ・チームティーチング及び少人数指導では、中学校は数学(3校)・英語(3校)を、小学校は、算数(5校)・国語(1校)を実施した。中学校の少人数指導ではいずれも習熟度別グループで実施した。小学校でも、算数で必要に応じて習熟度別グループでの指導を実施した。
- ・ほとんど全ての小・中学校で夏季休業中に児童・生徒の実態に応じた補充的学習の取り組みを、学校体制として実施した。
- ・全ての中学校で、学習カルテ作成の取り組みが行われた。

### 【読書】

- ・地域住民や保護者のボランティアとの連携で、読み聞かせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、学校図書館が子どもの学習環境として望ましい環境となるように整備や研修に努めた。

### 【支援教育】

- ・心理臨床の専門家を講師とした教育相談コーディネーター担当者会および学校訪問による研修を年間を通して行い、各学校の実態に合った支援のあり方を実践的に研修した。
- ・支援の必要な児童生徒の把握と情報共有を教職員間で行うことができた。
- ・外部の専門機関との連携を深めることができた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制を活用し、組織的取り組みをすすめた。
- ・外部ネットワークづくりと教育相談・ケース会議の充実を図った。

## 3 教育委員会の自己評価と主な成果等

### (1) 教育委員会の自己評価 [A]

コメント 新学習指導要領に対応した学力を育てる、個に対応した学習指導の充実を図ることができた

### (2) 主な成果等

#### 【基礎学力】

- ・平成21年度県学習状況調査(逗子市学習状況調査)の市の分析結果を6月に出せた。学校は客観的データに基づいて子どもの実態を把握し、分析結果が活かされる指導が行えた。また、併せて、逗子市学習状況調査の過去5年間の結果を分析し、逗子市の子

- どもの学力傾向を明らかにすることで、各学校における指導のあり方の検討に役立った。
- ・今年度も夏季休業中における補充学習の継続がほとんどの学校においてなされた。22年度中に、全普通教室へのエアコン設置が完了したので、学習環境の改善が図れた。

#### 【支援教育】

- ・特別支援教育充実事業において、校内支援体制の構築に向け、専門講師による年間13回の教育相談コーディネーター担当者会等及び各学校において（8校にて年間計37回）の学校の実態に合わせた研修を実施した。
- ・幼・保・小連携推進委員会における幼・保・小それぞれの授業・活動の参観、小学校・中学校教員による就学・進学前の児童観察、職員間での情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1プロブレムや中1ギャップ解消に向けて取り組んだ。

## 4 平成23年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

### （1）基礎学力

- ・平成22年度より、国の全国学力・学習状況調査が悉皆から抽出に変わり、県の学習状況調査も教科数の減・隔年実施と変化したことを受けて、本市では抽出校のみ参加とした。そこで、各学校においてそれぞれ児童・生徒の学力把握のための手法を工夫し、個に応じたきめ細かい指導がなされるよう、情報提供及び指導を行っていく。
- ・教職員の職務の合理化を図り、児童生徒に直接向き合う時間を確保する。

### （2）読書

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。

→学校図書室蔵書貸し出し数の推移

（H22年度 小学校 年間平均28冊／人、中学校7冊／人

H21年度 小学校 年間平均26冊／人、中学校6冊／人

H20年度 小学校 年間平均27冊／人、中学校7冊／人）

### （3）支援教育

- ・一人ひとりの教職員が共通理解を持ち、児童生徒・保護者に対し適切な対応を図るためにも、校内支援体制やフロー図が有機的に機能できるように、人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校9年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童生徒・保護者が安心して学校生活を過ごすことができるよう個に応じた支援や予防的な関わりを目指し、子育て支援課をはじめ

めとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い問題の未然防止を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「基礎学力定着のための個に応じた指導の充実」の評価と課題が、全体的に、少人数指導、チームティーチングに終始していることを残念に思います。授業形態を問い直し、授業改善を行って一人ひとりの子どもに対してどのような指導を行ったかがあれば、もっと具体的な記述となるのではないのでしょうか。先生方の意識が「普通の授業における個に応じた指導」というものに向いておらず、一斉学習の中での個に応じた指導の研究が足りていないのではないかと思います。少人数指導とくに習熟度別の少人数指導の効果についてのOECDの調査結果をよく踏まえて、再考することを望みます。

「校内支援体制」について、まず、小・中接続期の機関連携はとても大切なので、この点を支援教育で重視するのはいいことだと思います。今後の体制づくりの際に考えていただきたいのは、教育相談コーディネーターに任せるのではなく、先生方一人ひとりが、一人ひとりの子どもたちをどう見て、とらえていくかという体制づくりにしていかなければいけないということです。神奈川県教育委員会は、不登校対策の第一として「わかる授業」を求めています。そういった観点から、担任から支援ニーズが挙がる→学校全体でどう対応するか、という支援体制の構築を推進してもらいたいと思います。

教育委員会は、「子どもたちの学力向上」のために、人の面、設備の面でどのような支援をしたのか、という項目を起こして記述してもいいのではないのでしょうか。例えば一つの小学校から「チームティーチング教諭の配置ができず・・・」と出されていますが、それに対して、市としてはどういう取り組みをするのかを明確にすると、学校として困難なこと、取り組みの足りなかったことが多く出てくるようになってきて、学校の「評価と課題」に具体性が増してくるのではないのでしょうか。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

逗子市教育委員会教育総合プランが実施されて4年が経過しましたが、各学校における子ども一人ひとりの学力向上を目指した取り組みも年々充実してきており、素晴らしい成果を上げていることが伺えます。

これも、管理職を中心に教職員一人ひとりが達成目標をきちんと理解し、協働で歩んできた成果と言えるでしょう。前年も指摘したように、各学校が掲げた目標は、レベルの高いものであり、一朝一夕では成し得ないものばかりです。目標を短期・中期・長期に区分すると共に具体性を持たせ、評価の観点を明確にして、意図的・計画的・継続的に検証・分析し、発展・維持・補完に心掛けることが大切です。

新学習指導要領への対応も十分なされており、移行措置期間ながら、既に先取りした取り組みを行っている学校も見受けられます。大変大事なことであり、カリキュラムを編成するうえでご苦労があったかと思えます。今回の改訂では、「生きる力」の更なる充実、とりわけ、「確かな学力」の育成に重点を置いています。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力等「生きて働く学力」の形成を目指しています。

各学校共に、指導方法や指導形態はもとより、学習の個別化・個性化にも力を入れ、更に支援教育の充実を図るため、臨床心理士による教育相談コーディネーター担当者会の充実を図るなど、様々な取り組みを行っていることは特筆すべきことです。臨床心理士の指導の下、個別支援プログラムなどの作成にも取り組んでおり、大変充実してきていますが、これらの成果を踏まえて、校内の支援体制の整備を図ると共に、臨床心理士以外の教育の専門家の力も導入することによって、多角的・多面的な支援体制の充実を図る必要もあります。

また、「生きて働く学力」の形成のため、読解力に重点を置き、言語活動の推進や読書活動に力を入れてきたことは、大変大事なことです。ただ、言語活動は単に読解力のみではなく様々な要素を含んでいることも認識し、各教科等でどのように取り組んでいくかを明確にする必要もあります。併せて、新聞等を活用した教育活動にも力を入れ、より充実した学習の展開が求められます。

パソコン・携帯・電子ブック等の活用により、活字離れ・書字能力や文章表現力の低下が指摘されている中、全教育活動を通じて、いかに思考力・判断力・表現力等の育成を図るかが、これからの学校に求められる課題といえます。

## 2 健やかな心と身体の育成

### ① 基本的な生活習慣の育成

#### 【 目 標 】

子どもたちの心身の健康問題は、深刻かつ多様化してきており、気力や学習意欲の低下など学校生活全般への影響が指摘されています。

基本的な生活習慣を確立し、子どもたちが活力ある生活を送るためには健康3原則（食事・運動・休養及び睡眠）を意識しながら、自らの生活課題を改善させるとともに、学校・家庭・地域が連携した取り組みを進めることが大切です。

学校では、子どもたちが規則正しい生活習慣を身に付けるように学校全体で協力して子どもに関わることが求められています。

「食事をしっかり食べる」「外遊びを推進する」「睡眠時間を十分とる」をはじめ、「あいさつをする」「ルールや時間を守る」など、子どもたちの暮らしに関心を向けた取り組みを進めます。

### 各小中学校における平成22年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①あいさつ運動の推進
- ②基本的な生活習慣育成について学校から発信していく。
- ③学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（児童会中心に取り組みを進めた。）
- ②達成できなかった（日頃から児童には指導をしているものの、特に基本的な生活習慣について、保護者向けに情報発信を積極的にできなかった。）
- ③達成した（各クラスでできていた。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。
- ②学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。
- ③小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。

#### 【評価】

- ①達成した（あいさつや話の聞き方について全職員の一致した取り組みがで

き、落ち着いた学習環境が保たれた。)

②達成した(担当者が意識的に取り組みを進め保護者からの評判もよい。)

③達成した(小学校側から積極的に小中連携を投げかけ、今年度の取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。)

【課題】

「ていねいな言葉づかい」への取り組みはアンケートから実態を見るとまだ課題がある。場をわきまえた言葉づかいを目指したい。小中連携についてはさらに重点を絞って毎年ごとにPDCAを持って進めていきたい。

久木小学校【目標】

①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。

②学校・保健だより等を通して情報を発信する。

③学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める。

【評価と課題】

①達成した(日常的な指導の継続が必要である)

②達成した(学校・保健だよりは計画的に発行できた)

③達成した(継続的取り組みを行うが、保護者の理解に差があり、一層の努力が必要である)

小坪小学校【目標】

①行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う。

②健康3原則に沿った生活課題の改善に取り組む。

③めざす子ども像を共有し、発達段階に応じた指導のあり方を工夫する。

【評価】

①達成した(学校目標やめざす子ども像などが保護者に周知されている事が、学校評価アンケート結果から読み取れる。)

②達成した(日頃から児童には指導をしてきている。今後は保護者向けに情報発信を積極的に進めていきたい。)

③達成した(今年度の重点目標として、学校全体で取り組んだ結果目指す子ども像の姿に近づくことができた。さらに子どもの姿をしっかりととらえ、発達段階に応じた指導を続けていきたい。)

【課題】

保護者と学校目標の共有化が図られたが、生活習慣の定着に向け家庭とのいっそうの連携が必要である。

池子小学校【目標】

①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的生活習慣の向上を目指す。

②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立を目指す。

【評価と課題】

①達成した（あいさつ運動は浸透し、子どもたちもあいさつができるようになってきたので、今後も継続していく。）

②達成した（懇談会、PTAの会合等、折に触れ基本的な生活習慣の確立の重要性を保護者に伝え、協力を呼びかけてきた。）

逗子中学校【目標】

①学校でのきまりや暮らし方について、子どもたちの実態や発達段階に応じた計画的な指導をする。

②学校便り・保健便り・給食便り等で積極的に学校から、家庭に向けて情報発信する。

【評価】

①達成した（学級指導を基本とし、必要に応じて学年・学校の臨時集会を持つことにより、生徒の心身の安全保持や学校生活の充実が図れるようにつとめた。年間計画における学校・学年行事の中で、各ねらいに迫るための心構えや努力・工夫点などを、集団生活を営む中で培っていくべき生きる力として、年間を通じて取り扱うことができた。）

②達成した（学校だより、学年だより、学級だより等を通じて、保護者・地域への情報発信につとめたが、メール配信については、今後の課題とする必要がある。）

【課題】

学校から家庭に向けた情報が、家庭に届かないことが多い。この点を改善していきたい。

久木中学校【目標】

①家庭・学校・地域との連携の基に基本的な生活習慣の育成を図る。

②学校から情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。

【評価と課題】

①達成した（基本的な生活習慣の育成が図れた。）

②達成した（学校だより・メール配信サービス・各だよりにより共有化が図れた。）

沼間中学校【目標】

①学活、道徳の時間における教師による意識改革と呼びかけや、地域講師等の講演会を通しての指導の充実を図る。

②挨拶、言葉遣い等の日常的指導を継続する。



③生徒会活動としてのルールを守る呼びかけを行うよう助言していく。

【評価と課題】

①達成した（教師が朝会等あらゆる機会に規範意識の熟成を図るとともに、弁護士、客室乗務員をはじめ、多くの地域講師を招聘し指導の徹底を図った。）

②達成できなかった（挨拶については一定の指導の効果は得られたが、言葉遣いについてははたらきかけをしたものの、生徒の問題行動が多く意識向上への支援が難しかった。来年度はさらに組織的な取り組みをしたい。）

③達成できなかった（教職員の意識の熟成は図れたものの、生徒の自主的な活動を十分に引き出す指導にまでは至れなかった。）

## ② 豊かな心を育む道德教育の推進

### 【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が、大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやったり、相手の立場に立って考えたり、目上の人を敬い自分より小さい子を大切にすることを育てるとともに、規範意識や忍耐力や協調性などの社会性を身につけさせることは大切です。

学校では道德教育の重要性を教職員間で共通理解し、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度等の道徳性を養うように努めることが重要です。特に、道德教育の要となる道徳の時間においては、他の学習活動と連携を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳の実践力を育成するように取り組みを進めます。

「いのち」を大切にできる心、他人を思いやる心、規範意識など児童生徒一人ひとりの豊かな心を育てるために、学校・家庭・地域と連携を図りながら、様々な体験を通して心に響く教育を進めていくこと今まで以上に大切になってきています。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の関連を図る。
- ②児童会活動を活性化させていく。
- ③異年齢集団の交流を推進する。

### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。）
- ②達成した（児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい取り組みも行うことができた。）
- ③達成した（今後、内容を一層充実させていく必要がある。）

### 沼間小学校【目標】

- ①各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道德教育を進める。
- ②学校・家庭・地域が一体となった挨拶運動を推進する。
- ③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。

### 【評価】

- ①達成した（授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。）

- ②達成した（人間形成として根づいたものになるよう取り組みを継続したい。）
- ③達成した（発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。）

**【課題】**

あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続することが豊かな心を育てることにつながる。全職員で重点項目を絞って取り組みを継続していく。

**久木小学校【目標】**

- ①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。
- ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。

**【評価と課題】**

- ①達成した（新教育課程に向けて道徳教育全体計画の見直し・検討を行った。実践を通じた検討が課題である。）
- ②達成した（朝会、学級指導等を通し取り組んだ。保護者・地域へも協力を依頼した。継続した取り組みを行う。）

**小坪小学校【目標】**

- ①道徳を始めとする日常的な学習の中で、発達段階に応じた規範意識や人権意識の育成に取り組む。
- ②学校内における縦割り集団の活用や、学校外における体験活動により、異年齢交流を進める。

**【評価】**

- ①達成した（神奈川県の人権教育研究委託に取り組み、自己肯定感の育成に取り組み、一定の成果を見た。）
- ②達成した（学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。）

**【課題】**

QU調査により児童の意識を把握することができた。結果を分析し次年度の指導に生かす事ができるようにする。

**池子小学校【目標】**

- ①道徳教育を、道徳の時間を要として様々な学習活動の中で新学習指導要領の内容を計画的に推進する。
- ②体験活動の充実を図り、体験を通じた心に響く道徳授業の充実を図る。

**【評価と課題】**

- ①達成した（各教科の学習の中で、計画的に行うことができた。）
- ②達成した（様々な体験活動の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。）

### 逗子中学校【目標】

- ①全校道徳等、道徳の時間の工夫をする。
- ②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用の授業実践を進める。

#### 【評価】

- ①達成した（学校の特色の一つとして、全校道徳の存在と価値が定着してきている）
- ②達成できなかった（今後の大きな課題点として受けとめている）

#### 【課題】

学校支援地域本部の協力による、地域人材が学校のニーズと合わない場面があったので改善していきたい。

### 久木中学校【目標】

- ①道徳教育を道徳の時間を要した学校の教育活動全体で行う。
- ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い道徳推進教師を中心に全教師が協力して道徳教育を推進する。
- ③体験活動を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行う。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（全ての学校生活の中で取り組みを行った。）
- ②達成した（3年間という流れの中からの取り組みを行っている。）
- ③達成できなかった（準備不足であり課題を要する。）

### 沼間中学校【目標】

- ①道徳担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において推進する。
- ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用の授業を実践する。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（生徒指導に時間がかかり、道徳教育については学年ごとにばらつきがあったので、来年度は、教育課程部で計画的かつ組織的に進める必要がある。）
- ②達成した（心の教育としては、鎌倉ユネスコ、逗子葡萄の木等の協力を得て、3学年合わせて、10時間程度の実践ができた。）

### ③ 豊かな体験活動の推進

#### 【 目 標 】

少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない多くの人々との出会いや社会・自然・芸術などと直接触れ合う様々な体験が乏しくなっています。様々な体験活動を通して、人や社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、信頼感を高めるようにすることが大切です。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、他者、社会、自然、環境と直接的なかかわりを持ち、豊かな体験をすることが必要です。そして子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるように、体験活動を計画的に位置付け、その充実を図ることが大切です。

#### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

##### 逗子小学校【目標】

- ①優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める。
- ②校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う。
- ③宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める。

##### 【評価と課題】

- ①達成した（芸術体験事業を市の芸術鑑賞会を含めると3回行い、さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。）
- ②達成した（職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々の作品を展示した。）
- ③達成した（高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。）

##### 沼間小学校【目標】

- ①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。
- ②地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。
- ③校内において芸術鑑賞会を開催する。

##### 【評価】

- ①達成した（行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。）
- ②達成できなかった（体験学習等に取り組み、子どもたちが意識できるようになったことは成果である。）
- ③達成した（芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展示で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使って豊かな体験活動が展開され、

子どもたちの日常が充実しつつある。)

【課題】

豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直しながら、系統性ある取り組みを進めていきたい。また、奉仕活動等は学校内で完結することではないことから、地域・家庭との連携が必要である。

久木小学校【目標】

- ①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。
- ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。

【評価と課題】

- ①達成した（計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置づけ、活動の定着を図りたい。）
- ②達成した（次年度よりキャンプを行う場所を変更し、一層の活動充実を図る。）

小坪小学校【目標】

- ①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の見直しを図る。
- ②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。）
- ②達成した（計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置づけ、活動の定着を図りたい。）

池子小学校【目標】

- ①地域の特性を生かした自然体験や福祉体験学習、勤労体験を充実させ、社会性や協調性を養う。
- ②集団宿泊活動を通して、規範意識の向上と、思いやり、信頼関係を高める。

【評価と課題】

- ①達成した（地域の教育力を活用し、充実させることができた。）
- ②達成した（キャンプ、修学旅行での5、6年たてわり活動を通し、集団生活のマナーや役割意識を育て、異学年とのふれあいの中で思いやりや信頼関係を育むことができた。）

逗子中学校【目標】

- ①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ自然体験学習を実施していく。
- ②発達段階に応じた勤労体験(職業体験)に取り組み、働くことや学ぶことの意義についての学習を進めていく。

**【評価】**

- ①達成できなかった（逗子市内における自然体験については十分にできなかった。しかし、二年生における自然体験学習においては、年々、生徒の興味・関心を重んじた内容の充実と工夫が成されるようになってきた。その興味・関心の視点は、その地域ならではの自然の素晴らしさや価値として、課題解決型の取り組み方で進められている。それは事前調査（調べ学習）に始まって、実地調査といった学習経緯の末に、事後学習である実証結果として研究発表が行なわれ、充実した行事として定着してきている。）
- ②達成した（保護者・地域の協力により、選択幅の広い職業体験学習を行うことができた）

**【課題】** 体験的な学習の回数が、増やせるような工夫を行っていく。

**久木中学校【目標】**

- ①行事や生徒会活動の特別活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。
- ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。

**【評価と課題】**

- ①達成した（修学旅行・野外合宿・横浜めぐり等で進めることができた。）
- ②達成した（職業体験学習、進路学習等での協力を得ることができた。）

**沼間中学校【目標】**

- ①生徒の実態を把握し、さまざまな活動に取り組むことができるように体験活動を計画する。
- ②様々な活動に自主的に取り組めるように学習を進める。

**【評価と課題】**

- ①達成した（3年修学旅行・2年自然体験学習・1年ビーチコーミング等、発達段階に応じて実施できた。）
- ②達成した（しっかりできればシールを貼る等、自主的に取り組める工夫に努め、その結果、生徒の意欲を喚起することができた。）

## ④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進

### 【 目 標 】

社会状況の変化に伴い、子どもたちの健康を取り巻く問題が顕在化しています。基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など様々な健康に関する課題に対して、家庭や地域と連携した教育を推進することが必要です。

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向などが見られ、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが必要となっています。

学校においては、これらの課題に対する指導の充実を図り、子どもたちが実践力を身に付けられるように、体力づくりとともに、心身の健康に十分配慮した健康教育を進めます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく。
- ②健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく。
- ③早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく。

#### 【評価と課題】

- |       |                                |
|-------|--------------------------------|
| ①達成した | } 養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。 |
| ②達成した |                                |
| ③達成した |                                |

#### 沼間小学校【目標】

- ①健康教育を学校全体で推進する。
- ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。
- ③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。

#### 【評価】

- ①達成した（今年度の取り組みで体育や外遊びでの健康づくりが展開された。）
- ②達成できなかった（全学年で食の指導計画は示されているが、各学年とも計画的な取り組みが進んでいる段階とはまだいえない。）
- ③達成した（発達段階に応じた学習が実施されている。）



【課題】健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、組織的な動きを確立し教員間に共通認識を持って、家庭とも連携して取り組みを進めていきたい。

#### 久木小学校【目標】

- ①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。
- ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（計画通り実施した。食育に関する取り組みの充実が課題となる。）
- ②達成した（校庭全面芝生化により校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力向上へ効果があった。今後、芝生の維持が課題となる。）

#### 小坪小学校【目標】

- ①小坪小の食育全体計画の活用と改善を図る。
- ②小坪小の性教育全体計画の活用と改善を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（全学年で食の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。）
- ②達成した（全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。）

#### 池子小学校【目標】

- ①健康の基本である食生活をはじめとする食育や、スポーツを通じた体力づくりを計画的に推進する。
- ②家庭との連携のもと、発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（全校で食育に取り組むことができ、共通理解が図れた。今後は家庭と連携して行っていきたい。）
- ②達成した（性教育の全体計画をもとに、発達段階に応じた性教育を実施するとともに、6年生を対象に、薬物防止キャラバンカーでの学習を行った。養護教諭と担任が連携し、禁煙教育を推進した。）

#### 逗子中学校【目標】

- ①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践していく。
- ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用による食育の体系化を図る。

#### 【評価】

- ①達成した（学年ごとに健康教育のテーマを年間計画の中で設定していて、

具体的には一年生たばこの害、二年生薬物乱用防止、三年生エイズの正しい理解と予防につき、講師を招いて授業が行なわれている。）

②達成できなかった（食育の取り組みについては、総合的学習や特別活動の自然体験学習で行なうことが多いので、本校の学校支援地域本部との関連をつけるようにしていく。）

#### 久木中学校【目標】

- ①食育の推進のための特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき、久木中学校としての食教育について指導方針を明確にする。
- ②飲酒・喫煙・薬物乱用に関する問題などについても、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との連携により健康教育を積極的に進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（食育全体計画に基づいて各教科で取り組み、推進できた。）
- ②達成した（地域や外部機関との協力連携により進めることができた。今年度は水の安全や携帯電話教室・情報モラル等についても取り組みができた。）

#### 沼間中学校【目標】

- ①家庭、地域などとの連携により食べ物に興味関心を持ち、食事が社会生活においても重要であることを理解させる。
- ②運動そのものに対して自らの能力に応じて興味、関心を持てるようにする。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（地域協力者による調理実習等実践することができ、理解を促すことができた。）
- ②達成した（体育の授業では自己評価カードを有効に利用することにより、興味・関心を促すことができた。）

## 〈教育委員会分析結果〉

### 1 平成22年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

#### (1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業(小学校)
- 生徒健康管理事業(中学校)
- 自然教室推進事業
- 学校支援地域本部事業(学校支援ボランティア 2,825人)
- 授業研究を柱とした特色ある学校づくり
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

#### (2) 主な指導内容

- ▲道徳教育全体計画作成
- ▲特別活動全体計画作成
- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

### 2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

#### (1) 市立全校の実践評価(項目別達成率 87%)

#### (2) 主な成果等

##### 【基本的な生活習慣】

- ・家庭との連携を図ることにより一定の成果が見られた。今後とも、生活習慣改善のための努力を続ける必要がある。

##### 【豊かな心を育む】

- ・挨拶運動が児童・生徒に定着してきた。
- ・地域と一体となった取り組みの定着と広がりが見られる。
- ・異学年集団とのふれあい活動が活性化してきている。

##### 【豊かな体験活動】

- ・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した(1泊5校、2泊が3校)。

#### 【健康教育】

- ・喫煙防止、薬物乱用防止等について、関係機関と連携しての取り組みが定着した。

### 3 教育委員会の自己評価と主な成果等

#### (1) 教育委員会の自己評価 (B)

コメント 学校支援地域本部を軸にして家庭・地域との連携を一層強化し、関係諸機関と連携した取り組みも広がり定着が見られる。今後も多様化する社会の中で生じてくる新たな課題に常に対応できるよう、取り組みを継続する必要がある。

#### (2) 主な成果等

##### 【基本的な生活習慣】

- ・平成21年度に悉皆で実施した「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果分析から分かった本市の児童・生徒の体力に係る特徴を踏まえての取り組みを進める必要がある。
- ・家庭への啓発と連携により、9年間を見通しての習慣づけを進める必要がある。

##### 【豊かな体験活動】

- ・学年ごとに行われる体験学習のねらい、時期や期間の見直しを図り、特別活動全体計画の中でのそれぞれの活動の位置付けを確認して再構築する。

### 4 平成23年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

#### 豊かな心・体験活動・健康教育

- ・道徳の時間、体験活動及び健康教育において、これまで以上に地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る。
- ・児童・生徒の社会性育成につながる異年齢交流を進める。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

この項目については、全般的にどの学校も十分に取り組んでいることが伺えます。今後取り組みの一つひとつについて、学校が主になって担うべきことなのか、家庭が主になって担うべきことなのかを明確にして、保護者や地域との連携の下に継続して行って下さい。

「道徳教育」は、学校教育のみで担えないものです。学校が担うべき側面は、集団として及び集団の一員としての行動のあり方です。一方、一人ひとりの個としての道徳は家庭が担うべき側面です。また、社会の中で育成していく面もあります。道徳教育は、家庭・地域・社会との連携の中で成り立っていくものでしょう。

「体験活動」に係って一つ申し上げておきたいのは、新学習指導要領では小・中学校共に「総合的な学習の時間」の標準授業時数は減りましたが、その期待されている役割の重要性には変わりはなく、従前と同様に体験活動を行うことを重視し、積極的に学習活動に取り入れることとしている、という点です。各学校における評価と課題を見ると、特別活動における体験活動が主になっている印象を受けます。体験活動がそれだけで終わるのではなく、体験活動を行うことによって児童・生徒の学習が一層充実したものとなることを期待します。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

健やかな心身の育成は、「生きる力」を育む上で大事な要素です。子どもたちの学ぶ意欲や学習習慣や規範意識の低下、社会性や人間関係調整能力の不足等が指摘される今日、学校の果たす役割は極めて重要です。このことを踏まえて、各学校共に具体的な目標を掲げ、全教育活動の中で様々な取り組みを展開し、一定の成果を上げていることは、大変望ましいことです。今後も継続して実施していただきたいものです。

子どもたちの基本的な生活習慣の育成や心の教育は、学校・家庭・地域社会が連携しながら、それぞれが役割を担いながら取り組んでいくことが求められています。しかし、子どもを取り巻く環境は複雑化・多様化し、併せて地域や家庭の教育力が低下する中で、学校の役割がますます求められてきています。幼・保・小・中学校が連携を図りながら、子どもの育ちの姿を把握し、何を育てていけばよいかを把握し、子どもの発達段階に即して具体目標を掲げ、家庭や地域の教育力を活用しながら、全教育活動を通して、統一的・継続的・組織的に指導していくことが大切です。

健康教育は、小・中学校多少の違いはありますが、食育を始め、安全教育・危険防止教育・喫煙防止教育・薬物防止教育・性教育、体力づくり等に重点をおいて取り組んでおり、その内容は昨年度より充実しています。殆どの学校が目標達成ということですが、目標の中には、中・長期的なものもあり、今後とも、学年の発達段階に即して全体計画を作成し、全教育活動を通して意図的・計画的・継続的に取り組むことが大切です。

体力づくりについては、体力テストの結果を踏まえて、食育と関連させて指導に努めると共に、保護者に対しては、子どもの健康に配慮した食生活や休日には外遊びなどを心掛けさせるよう協力を求めることも必要です。

子どもを取り巻く社会環境や家庭環境が大きく変化している今日、とりわけ、離婚家庭や共働きの家庭が増えてきている今日、保護者と子どもの係る時間が減少し、十分なコミュニケーションが取れない家庭が増えて来ています。そのため、学校の子どもや保護者に対する支援がますます求められてきていることを十分認識し、子どもにとって学校が「楽しい憩いの場」であるよう、教師がカウンセリングマインドをもって子どもに接することが、心身ともに豊かな児童・生徒の育成につながると考えます。

## Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

### <目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域との連携や協働参画することによってさらに充実が図られます。

### 1 多様な教育的課題への対応

#### ① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～

##### 【 目 標 】

現在必要とされている教育環境として、子どもたちが安全・安心な質の高い空間で学び、生活できるということが求められています。

防災・防犯・不審者対応など、自らが安全意識を持つことや、学校や通学路等においても子どもたちが安全に過ごせるよう、学校と地域のボランティアや関係機関との連携により、地域ぐるみで子どもたちの環境を整備する必要があります。

子どもたちの安全・安心を確保し、質の高い教育環境を整備できるよう、放課後や週末に子どもたちが体験・交流活動をするための場づくりを進められるよう取り組みを進めます。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る。
- ②安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る。
- ③総合的な防災計画を作成する。

#### 【評価と課題】

- |       |   |  |
|-------|---|--|
| ①達成した | } | 〔PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等へおげた。また、シンボルロードの通行課題についても、他校や地域と連携し進めることができた。〕 |
| ②達成した |   |  |
| ③達成した |   | (保健安全給食部を中心に作成した。)   |

### 沼間小学校【目標】

- ①学校防災計画に基づいた安全体制の整備
- ②教職員、保護者による通学路の点検
- ③自転車教室等安全への啓蒙活動の実施

【評価】

- ①達成した（時間集約的に計画を進めることができた。）
- ②達成した（家庭訪問や夏休み等の機会を捉えて実施している。）
- ③達成した（3年生で自転車教室を開催し、児童の実態に合わせて学級指導を行っている。）

【課題】

今年度の取り組みとして逗葉高校生による防犯教室を開催したが、子どもたちの反応は良く、ボランティアとしての高校生との連携も活用していきたい。

久木小学校【目標】

- ①防犯教室・不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める。
- ②PTA・地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む。

【評価と課題】

- ①達成した（安全指導年間計画に基づき実施した。継続した取り組みが必要である。）
- ②達成した（地域の見守り隊を中心に登下校時の安全確保への取り組みができています。学校支援地域本部事業の一つと位置づけ、継続的取り組みを行う。）

小坪小学校【目標】

- ①PTA作成の地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける。
- ②地域と連携し、現地検証しながら児童自身が地域安全マップを作成する。

【評価】

- ①達成した（防犯教育については計画的重点的に指導ができた。）
- ②達成した（学校支援地域本部やPTAと連携しながら地域安全マップを作成した。作成したものを見守り隊や地域の方にも紹介できた。）

【課題】

防災教育については特に、地震対応について指導の改善を図る必要がある。

池子小学校【目標】

- ①保護者・地域と連携して、交通安全・不審者対応等の防犯に取り組み、また安全教室等を実施する。
- ②防災教育・防災訓練を計画的に実施し、また緊急避難所としての施設・備品を整備する。

【評価と課題】

- ①達成した（不審者対策は職員の役割分担を明確にし、訓練できた。来年度



は児童の安心安全教室を実施する。)

- ②達成しなかった。(消防署等関係機関と連携し、計画的な防災訓練を実施するとともに、職員で校内の防災設備が使えるように研修をすすめた。避難所としての施設・設備を見直し、整備をすすめるよう取り組んだが、予算的な裏付けがなかったため、具体的にはすすんでいない。)

#### 逗子中学校【目標】

- ①不審者対策・防災教育の強化を推進していく。
- ②地域連携による防災強化を図っていく。

#### 【評価】

- ①達成した (CAP、携帯電話教室など、入学時において情報モラルの基盤を培うことは、大変意義のある取り組みとして定着が図られてきている)
- ②達成した (従来の防災計画につき、津波対策を含めた訓練を実施し、火災・地震・津波・風水害を含めた避難所運営訓練への生徒参加が実現した。)

【課題】 池子地区避難所運営訓練に、生徒を参加させていきたい。

#### 久木中学校【目標】

- ①CAPをはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、パソコンに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく。
- ②従来の学校防災計画を見直し、市との連携を密接にする。
- ③校内の避難訓練を計画的に行うとともに、地域避難所訓練に積極的に参加する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した (CAP・携帯電話教室・情報モラル教室等実施した。)
- ②達成した (市防災計画に基づいた防災計画の手直しを図った。)
- ③達成した (火災・地震等を見据えた計画的訓練を行うことができた。)

#### 沼間中学校【目標】

- ①校舎危険か所、修繕か所等を複数職員体制で点検し、改善を図る。
- ②教職員の防災研修を実施し、地域の避難所運営訓練に生徒を参加させる。
- ③防災安全管理マニュアルを試作する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した (総務安全担当の下に、校舎内外の徹底的な危険箇所の洗い出しを行い、速やかに修繕等実施した。)
- ②達成した (生徒延べ、50人を参加させることができた。)
- ③達成した (教職員役割分担として住民対応・避難所支援班を新設し、試行できた。)

## ② いじめ・不登校等への対応の推進

### 【 目 標 】

いじめや不登校はどの子にも、どの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにもその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。

いじめについては「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場に立った親身な指導を行い、適切な対応を毅然とした態度で行き渡らせる必要があります。

不登校児童・生徒に対しても一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が望まれています。

支援を必要としている子どもたちに応えるために、学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①差別やいじめを許さない学級づくりを行う。
- ②教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる。
- ③外部専門機関との連携を密にしていく。

### 【評価と課題】

- ①達成した（毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。）
  - ②達成した
  - ③達成した
- （支援教育の推進と同様に考えている。）

### 沼間小学校【目標】

- ①校内支援体制を構築し組織的対応を図る。
- ②担任とのコミュニケーションを深めるとともに、校内児童相談活動を進める。
- ③子どもの思いをくみ取り、問題の未然防止に努める。

### 【評価】

- ①達成した（年を追うごとに支援教育の取り組みが教職員に定着してきている。今年度は個別支援も何人か進めた。）
- ②達成した（うるフレを活用して子どもの居場所づくりが進んでいる。）
- ③達成できなかった（問題を抱え込み、乗り越えることができない児童の存在が見られる。）

**【課題】**

成長過程で自己肯定感を育て、自分らしい集団との関わりがづくり切れない子どもたちが見られるが、10歳の壁を意識しながら自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を培う取り組みを進める。

**久木小学校【目標】**

- ①教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どものニーズに応じ具体的支援を行う。
- ②外部機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を深める。

**【評価と課題】**

- ①達成した（ケースごとに支援体制を検討し、具体的支援を行った。子どものニーズの多様化に対応する取り組みが課題である。）
- ②達成した（各機関等との連携を取り、ケースに応じた対応を行った。一層の連携強化が必要である。）

**小坪小学校【目標】**

- ①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の確立と改善
- ②いじめチェックリストの改善と継続的な活用に取り組む
- ③他機関やスクールカウンセラーの計画的活用

**【評価と課題】**

- ①達成した（小坪小の支援体制が確立できた。支援の必要な児童の対応に全校体制で取り組むことができた。）
- ②達成した（いじめチェックリストを活用し計画的に取り組んだ。）
- ③達成した（他機関やスクールカウンセラーを計画的活用して児童指導支援を進めることができた。）

**池子小学校【目標】**

- ①心の教育相談員と情報を共有し、素早い対応を可能にする校内相談体制の改善を図る。
- ②子どもたちの実態を正確に把握し、温かい人間関係と人権に配慮した学級・学年経営を目指す。

**【評価と課題】**

- ①達成した（校内の支援体制は充実してきている。今後は現状把握を行い児童理解を図る。）
- ②達成した（児童指導研修会を年3回実施し、配慮を要する児童への指導法を学び、日常の対応についても共通理解を図った。個々の児童の状況について実態の捉えにばらつきがあったが、研修を深めることでより、正確な捉えができるようになった）

**逗子中学校【目標】**

- ①スクールカウンセラー・うるおいフレンド（心の教室相談員）を活用し、

組織的に校内相談体制の確立を図る。

- ②保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を図り、協働して支援していく。

【評価】

- ①達成した（教育相談コーディネーター、SC、うるフレを中心とした校内相談・支援態勢が確立されている）
- ②達成した（生徒への支援態勢として、そのニーズに応えられるよう外部機関との連携も、組織的な機能を果たすようになってきた）

【課題】

外部機関とも積極的に連携していきたい。

久木中学校【目標】

- ①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識を高め、全職員がいじめを許さない姿勢で臨む。
- ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・学年と密な連携を取りながら、組織的な指導体制を確立する。

【評価と課題】

- ①達成した（学校全体での取り組みにより生徒・教職員の意識改革が図れた。）
- ②達成した（毎日の打ち合わせの中に生徒支援について連絡し全教職員で問題解決にあたることができた。）

沼間中学校【目標】

- ①生徒本人、家庭との相談、連絡を密にとることにより、学校との信頼関係を構築する。
- ②道徳、学活などの授業を通して自己肯定感の啓発を図る。
- ③生徒間の問題解決能力を培える方法を模索する。

【評価と課題】

- ①達成した（教師の情報交換、保護者との連絡はよくとれたが、生徒の理解がやや深まらなかった。さらに来年度は学級づくりを基盤とし、取り組みの強化をはかりたい。
- ②達成した（校内研究会等で、リフレーミングの視点やコミュニケーションを取り入れた研究授業を行うなど、生徒の自己肯定感啓発を行った。）
- ③達成できなかった（授業の中で生徒が互いに高めあい、問題解決に向かって論理的な筋道を立てて説明しあうことができる場面を、多く設定していくことが課題である。）

### ③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

#### 【 目 標 】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していく必要があります。

これらの問題を解決するため、幼稚園・保育園と小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるよう、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

#### 各小中学校における平成22年度の取り組み目標及び評価と課題

##### 逗子小学校【目標】

- ①幼稚園・保育園との情報交換を密にしていく。
- ②幼稚園・保育園との交歓行事を実施していく。
- ③中学校との交流行事を検討する。

##### 【評価と課題】

- ①達成した（就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行った。）
- ②達成できなかった（一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事はまだ行っていない。）
- ③達成した（サマーコンサートを実施した。今後の交流についても検討をしている。）

##### 沼間小学校【目標】

- ①小・中連携については担当者が年間計画を立てて進める。
- ②子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。
- ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。

##### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（年間計画については小学校側からの働きかけにより中学校との連携事業が進み、話し合う土壌ができたが、小中連携について、課題をしっかりと共有して取り組む必要がある。次年度はかながわ学びづくりで小中連携をさらに強化していく。
- ②達成した（情報共有の場面が充実した。）
- ③達成した（年間計画の中で充実した交流ができた。）

### 久木小学校【目標】

- ①小中の連携を目指し、協議しながら取り組む内容を明確にする。
- ②幼稚園・保育園と連携し、情報収集を続ける。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（中学生を招き合唱等を通じた交流をはじめとする取り組みを行った。また、外国語活動の授業参観により小中相互理解の場を設定した。一層の連携を図りたい。）
- ②達成した（幼保小連携推進委員会の活動を受け、交流と情報交換を行った）

### 小坪小学校【目標】

- ①生活科を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。
- ②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有に取り組む。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（ようこそ小坪小集會に幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。）
- ②達成した（幼稚園、保育園児による授業参観、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図られた。）

### 池子小学校【目標】

- ①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る。
- ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（入学予定の児童が在園する幼稚園・保育園をほぼ全園訪問し、児童観察や保育士との情報交換を行い、指導の継続を図った。）
- ②達成した（6年生の中学校訪問を実施し、授業や部活の見学を行った。）

### 逗子中学校【目標】

- ①小学校と中学校間では、「体育」や「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」などを活用した授業や行事などの交流を推進していく。
- ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。

#### 【評価】

- ①達成した（小学校との連携は出前授業や授業参観を通じて行なわれてきているが、情報提供という観点や年間計画の中での計画的実施という点では、今後の課題点の一つとして考えていく必要がある）
- ②達成できなかった（学区の小学校との、教職員の交流や共同研修については、時期的な接点というものを見出して調整していく必要がある）

**【課題】**

各学校との連絡会を年間計画の中に入れて計画的に実施する。

**久木中学校【目標】**

- ①小学校から入学してくる生徒が、スムーズに中学校生活のスタートがきれ、安心して学校生活が送れる。また、一人一人の生徒の成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に図る。
- ②義務教育9年間を見通したカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験など体験活動などを進め、小中学校の密な連携のもと、児童生徒の成長を図る。

**【評価と課題】**

- ①達成した（教育相談コーディネーターが学区小学校を巡回し6年生の情報提供を行い、中学校での指導に役立させている。）
- ②達成できなかった（学区小学校が3校係わるために3校一貫した連携ができず、3小学校一緒に調整が必要。）

**沼間中学校【目標】**

- ①小中合同研究会を設定し、できるだけ多くの教職員が参加する。
- ②全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での体育・英語の交流授業や新入生対象体験学習を実践する。

**【評価と課題】**

- ①達成した（逗子市の研究を受けていたので、小中職員の合同情報交換会を新たに実施した。）
- ②達成できなかった（小学校の交流授業はできなかったが、今年度新入生対象体験学習は実施した。）

## ④ 国際教育の推進

### 【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で異文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

これからの国際教育は、異文化や外国の生活様式を知るにとどまらず、多文化との共生に向けて、国際社会においても自らの力を発揮できる資質や能力を育てることが必要であると考えています。

自分たちが生活している日本と世界の国々の現状について、自分たちの思いや考えをもち、それらを自ら発信し、かつ様々な文化的背景をもった人々を理解しようと努める態度の育成とコミュニケーション能力の向上に努めます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①外国語活動の在り方について職員研修を行う。
- ② I E A との連携について検討を進める。
- ③評価等について検討を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した
  - ②達成した
  - ③達成できなかった（今年度はまだその段階にまで至っていない。）
- （研修を校内で行い、また、I E A が週5日の勤務になって打ち合わせもしやすくなり、担当者を中心として行うことができた。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①英語活動のカリキュラムの検討
- ②英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施
- ③IEA と協力して日常的な交流や教材開発を進める。

#### 【評価】

- ①達成した（指導要領に従って授業づくりに取り組み、カリキュラムを編成した。）
- ②達成した（校内研究に位置づけて取り組み、成果が見える。）
- ③達成した（英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。）

#### 【課題】

授業者がねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を深めていく必要がある。



### 久木小学校【目標】

- ①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ②国際教育指導助手の効果的な活用を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（委託研究推進校として小学校外国語活動を中心とした研究に取り組んだ。次年度の研究発表会に向けて研究の充実を図る。）
- ②達成した（研究と関連させ効果的な活用に取り組んだ。一層の効果的な活用に取り組む。）

### 小坪小学校【目標】

- ①授業実践を通して外国語活動の年間計画を作成する。
- ②「IEA」の効果的な活用を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（授業研究はできたが、70時間分のカリキュラム作成には至らなかった。）
- ②達成した（国際教室を設置し、休み時間にもIEAと子ども達との交流が図れるようにした。）

### 池子小学校【目標】

- ①異文化の理解では、外国語活動の授業の充実や池子ヒルズとの交流等を推進する。
- ②IEAの活用を広げ、また学校行事等に地域の外国の方や海外生活経験のある方との交流を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（池子ヒルズのフィールドデーに参加するなど、交流の推進を図ることができた。）
- ②達成できなかった（IEAの活用を広げ、各学年での国際理解の学習を充実させることができた。総合的な学習の中で、保護者に海外生活経験の豊富な方から情報を提供していただくことはできたが、交流までには広げることができなかった。）

### 逗子中学校【目標】

- ①異文化を理解し、多文化と共生するために、英語科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- ②IEAの効果的な活用を図っていく。

#### 【評価】

- ①達成した（英語科を中心に異文化理解の浸透を図り、豊かなコミュニケーション活動のもとに、プレゼン能力の向上につとめることができた）
- ②達成した（様々な資料提示のもとに、IEAによる異文化理解への効果的な

働きかけが顕著に行なわれた)

**【課題】**

国際教育の推進のために、他教科でも活用が図れるようにする。

**久木中学校【目標】**

- ①国際社会に生きる日本人として資質の向上を目指し、現在派遣されている IEA の様々な教育活動において積極的な活用を進める。
- ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体との交流を行う。

**【評価と課題】**

- ①達成した（英語の授業だけでなく普段の生活から IEA を活用した。）
- ②達成した（韓国人留学生等を活用した国際理解教育を行った。）

**沼間中学校【目標】**

- ①小学校外国活動を受けるにあたって、IEA の積極的な活用方法を課題として掲げ、その改善方法を模索する。
- ②修学旅行において、日本文化を理解するとともに、様々な国からの旅行者との交流を促し、生きた国際理解教育を推進する。

**【評価と課題】**

- ①達成した（IEA が積極的に生徒たちと会話する機会を多く設ける工夫を行った。）
- ②達成できなかった（修学旅行での総合的な学習の時間における課題設定を再検討する必要がある。）

## ⑤ キャリア教育の推進

### 【 目 標 】

文部科学省が打ち出したキャリア教育に関する方針を踏まえ、子どもたちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方について自覚するよう、関係機関の協力を得て取り組んでいきます。子どもたちそれぞれの発達段階に応じて、学校・家庭・地域などが協働してキャリア教育を進めていきます。

キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

小学校では将来の生き方や職業への夢や期待を膨らませ、将来への明るい展望や自己の可能性への期待を広げることも含まれています。

中学校では、すでに地域・保護者による講師を活用した授業、さらに地域での職業体験活動の実施などに取り組んでいます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う。
- ②2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（今年度研修を持つことはできなかった。）
- ②達成した（各学年、児童の発達段階に応じてどのような学習がふさわしいか検討した。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。
- ②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。
- ③キャリア教育への保護者の理解を促す。

#### 【評価】

- ①達成した（学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。）
- ②達成した（学校生活全般を意図的に活用している。）
- ③達成できなかった（担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。）

【課題】教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示していく必要がある。

**久木小学校【目標】**

子どもの発達段階に応じたキャリア教育のあり方について検討する。

【評価と課題】

達成できなかった（キャリア教育について学校全体での検討が十分できなかった。検討・研修等の時間確保が課題である）

**小坪小学校【目標】**

日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。

【評価と課題】

達成できなかった（小学校におけるキャリア教育の視点を作ることは出来たが、カリキュラム作成には至らなかった。）

**池子小学校【目標】**

①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方についての学習を、体験活動を取り入れる等、改善を図る。

②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習の改善を図る。

【評価と課題】

①達成した（4年での「二分の一成人式」、5年での「高齢者との関わり」、6年での「卒業」等の体験的活動を通して自己の生き方について考えることができた。）

②達成した（理科ハウス、ゆめクラブ、高齢者センター等、地域で活躍している方々の協力を得て、調べ学習や体験学習が充実した。）

**逗子中学校【目標】**

①職業体験学習を実施することで、将来のビジョンを描かせる。

②学校行事・生徒会活動を利用し、社会性や集団性を育成していく。

【評価】

①達成した（二年生で職業体験学習を行うことにより、自己の将来について見つめる機会を得ることができた）

②達成できなかった（集団形成の意義や価値は、学校生活や生徒会活動を通じて得られるものの、社会性を身につけさせるためには、三年間をより見通した立案が必要だと考える）

【課題】公立高校選抜改革についても、早めの対応を図れるようにしたい。

### 久木中学校【目標】

- ①職業の選択を始めとし、自分の未来ビジョンを描いたり、有意義な人生のあり方を自ら体験的に学ぶために、3年間の指導計画を作成する。
- ②既に、地域・保護者による講師を活用した授業、地域での職業体験学習を行っているが、更に充実したものにしていく。

### 【評価と課題】

- ①達成した（総合的な学習の時間の中で3年間を見通した進路指導計画を作成している。）
- ②達成した（職業体験学習や進路学習を地域保護者・卒業生を活用した取り組みを図っている。）

### 沼間中学校【目標】

- ①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。
- ②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。

### 【評価と課題】

- ①達成した（ふれあいディの地域講師を迎えての授業では2・3年でキャリア教育の地域講師を招聘して授業を行った。延べ15人を導入できた。）
- ②達成した（2年において、2日間受け入れ事業所30箇所を探し、2日間実施できた。）

## ⑥ 福祉教育の推進

### 【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ方や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと子どもたちはとらえがちです。しかし、福祉は特別な人の、誰かのためのものという限定されたものではなく、一人ひとりの

「 ふだんの くらしの あわせ 」

を願うものという観点で福祉教育を進める必要があります。

年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、誰もが住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが、これからの社会において大切です。

## 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

### 逗子小学校【目標】

- ①地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う。
- ②児童の生活に根ざした福祉教育について検討する。

### 【評価と課題】

- ①達成した（外部講師を活用し実施した。）
- ②達成した（福祉教育担当者会で言われている「ふつうの・くらしの・あわせを」を踏まえて検討を進めている。）

### 沼間小学校【目標】

- ①日常的な人を思いやる教育から始める。
- ②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。
- ③社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。

### 【評価】

- ①達成した（教職員が重点を絞って取り組むことで成果が見える。）
- ②達成した（社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。）
- ③達成した（十分に活用できている。）

### 【課題】

総合的な時間の時数が減少することから、本校の福祉学習として学年連携を深めて教育課程をつくる必要が出ている。

### 久木小学校【目標】

- ①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習に取り組む。
- ②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。実践の内容充実が課題となる）
- ②達成した（福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。今後も連携を続ける）

### 小坪小学校【目標】

- ①小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年の発達段階を生かした取り組みを行う。
- ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。）
- ②達成した（福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。）

### 池子小学校【目標】

- ①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する。
- ②NPOなどの外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（社会福祉協議会に相談し、高齢者福祉に視点を当てた単元開発を行うことができた。）
- ②達成した（福祉教育のねらいに沿って発達段階に応じた体験的活動が実践できた。来年度は低・中・高2学年ずつのスパンで系統立てた教育活動ができるよう、方向を持たせていきたい。）

### 逗子中学校【目標】

- ①福祉体験学習を実施する。
- ②福祉の理解を深め、思いやりの心の育成していく。

#### 【評価】

- ①達成した（三年生の卒業前に計画され、点字、手話、車いす、その他の福祉疑似体験学習が生徒の興味・関心を中心に、分野別選択で取り組むことができた。系統的に三年間を見通して、どこの学年でどんな体験学習が望ましいか、そのところを検討していくことが今後の課題である）

{例…1年 高齢者介護体験、2年 視覚・聴覚障がい者の介護体験、3年疑似体験など}

- ②達成した(ねらいに即した取り組みができているものの、その心の一般化、および実践化というねらいの深化を求めると、更なる内容の工夫と充実が求められる)

【課題】体験を通して、考えて行動する力を生徒に育成したい。

#### 久木中学校【目標】

- ①社会福祉について理解を深める。
- ②思いやりの心、社会奉仕の精神などの育成をする。

#### 【評価と課題】

- ①達成した(理解・関心を深めるための福祉体験学習を開催した。)
- ②達成した(生徒会を中心とした地域清掃活動や募金活動を通して意識向上を図った。)

#### 沼間中学校【目標】

- ①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。
- ②地域講師を迎えての授業実践を推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した(小学校との授業の重なりを避け、本校では、キャリア教育を視点に据えた福祉教育を定着させることになり、その一環として、サービス業より地域講師を招聘し、マナー講習会等実施することができた。)
- ②達成した(小学校カリキュラムとの重複をさけるため、今年度は福祉を勤労や法秩序という観点まで拡大し、実践することができた。)



## ⑦ 環境教育の推進

### 【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立の小・中学校においても、一人の市民である子どもたちの明るい未来のために、身近な環境について自ら考え取り組んで行こうとする態度を育て、子どもたちが自然に環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して、環境教育に取り組んでいきます。

環境教育の取り組みが、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指しています。地域・保護者の方にとっても、子どもたちとともに活動できるような具体的な取り組みを推進してきます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する。
- ②家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みを行っている。）
- ②達成できなかった（家庭との連携について特に進めてこなかった。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。
- ②発達段階に応じた実践を取り入れる。
- ③学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。

#### 【評価】

- ①達成した
  - ②達成した
  - ③達成した
- （各学年の取り組みを引き継いでいる。）

【課題】 児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。

#### 久木小学校【目標】

- ①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組む。
- ②逗子市の施策（グリーンカーテン等）を環境教育に活かす。

【評価と課題】

- ①達成した（総合的な学習全体計画に基づき実施した。全学年を通じた環境意識の向上に一層努めたい。）
- ②達成した（グリーンカーテン、サンパチェンス栽培等の活動を行い、環境教育推進を図った。次年度へも活動をつなげたい。）

小坪小学校【目標】

- ①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。
- ②地域の人と連携し多様な環境教育に取り組む。

【評価】

- ①達成した（教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組んだ。）
- ②達成できなかった

【課題】

環境に関する授業を教育課程上に位置づけることができなかった。

池子小学校【目標】

- ①教職員が環境について研修し、共通理解を持ち、児童の発達段階に応じて計画的に環境教育を推進する。
- ②環境に関係する外部機関とも連携し、体験的な環境教育を目指す。

【評価と課題】

- ①達成した
- ②達成した

（4年生での環境に関わる調べ学習や発表等を中心に組み込むことが学校全体で共有され、継続されている。また、4年生の環境学習に教員も参加し、研修を深めることができた。）

逗子中学校【目標】

- ①生徒会活動でホテルの里づくりの推進
- ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を明確化

【評価と課題】

- ①達成した（まだまだ受け身的ではあるが、生態系の縮図について理解できるようになり、次に果たすべきことに興味・関心が持てるようになった）
- ②達成できなかった（牛乳パックのリサイクルについては、リサイクルに関する情報提供が少なく、なかなか意識が高まっていない）

久木中学校【目標】

- ①環境に対する意識、熱意、見識を育てる。
- ②指導計画に基づく環境学習を充実する。
- ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。

【評価と課題】

- ①達成した（水質検査を通して環境意識を育てることができた。）

- ②達成した（理科・保健体育の教科での取り組みの中で逗子市環境会議に講師をお願いし充実を図った。）
- ③達成できなかった（データの活用が活かされていない。）

#### 沼間中学校【目標】

- ①地域の環境改善の取り組み（ビーチコーミング・地域清掃等）を実施する。
- ②地域・保護者との共同参画による企画も導入する。

#### 【評価】

- ①達成した（地域・保護者の協力を得た全校生徒参加の年2回の地域清掃を始めとして、1年では地域講師の指導の下にビーチコーミングを行い、調べた結果を発表することができた）
- ②達成した（学校支援地域本部の協力を得て、美術部・環境局の生徒が中心となって昇降口前の花壇をレンガで造り、メダカの飼育を始める準備をした。）

#### 【課題】

少し保護者や地域への呼びかけが弱かった。来年度は地域清掃以外にも地域・保護者との共同参画による企画を増やしていきたい。

## ⑧ 情報教育の推進

### 【 目 標 】

情報機器の急速な進歩により、インターネットが普及し、携帯電話を持つ小中学生が増加してきたことにより、様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。

情報機器を活用する力は、現代では必要不可欠であり、その能力の育成を図ることは重要です。情報が氾濫する情報社会においては、ネット上の情報に惑わされず、自分自身に必要な情報を正しく取捨選択する力を自らが身に付けること（なおかつ自分の考えや情報を発信する情報リテラシーを学び）、ネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育を図ることが求められてきています。

### 1 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標

#### 逗子小学校【目標】

- ①これまでの取組状況の整理を行う。
- ②発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う。
- ③必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した
  - ②達成した
  - ③達成できなかった（6年生の携帯電話教室しか実施しなかった。）
- （情報教育担当者を中心に取り組んでいる。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①情報機器活用能力の育成に努める。
- ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。
- ③各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。

#### 【評価】

- ①達成した
  - ②達成した
  - ③達成した
- （情報教育については表現活動とも関連させて取り組むことができている。）

#### 【課題】

情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。

#### 久木小学校【目標】

発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。

**【評価と課題】**

達成した（全普通教室にプロジェクターが設置されたことにより活用が効果的に行われるようになった。PC ルームでの機器活用も進んでいる。継続して活用能力育成を図る。）

**小坪小学校【目標】**

- ①「ICT」を活用した授業を積極的に行う。
- ②情報の発信者としてのモラルの育成を図る。

**【評価と課題】**

- ①達成した（外部講師の出前授業でより専門性の高い授業を行うことができた。）
- ②達成した（情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を図った。）

**池子小学校【目標】**

- ①あふれる情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る。
- ②情報リテラシーの育成とともに、教員も積極的にICTを活用した授業に取り組む。

**【評価と課題】**

- ①達成した（児童の発達段階に応じたICTの活用をすすめ、情報活用のモラルについても指導している。）
- ②達成できなかった（ICT活用にばらつきがあるので、研修をさらに充実させることと、授業で活用しやすい環境の整備が課題である。ハード面では充実してきたが、校内LANが未整備のため、教室での活用がしにくく、その面での改善は学校単位では困難であった。）

**逗子中学校【目標】**

映像を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を実践し、情報活用能力の育成を図っていく。

**【評価と課題】**

達成した（発達段階に応じて、プレゼンテーション能力を育成し、深化させることができた）

**久木中学校【目標】**

- ①情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成する。
- ②情報モラルの育成を図る。

**【評価と課題】**

- ①達成した（指導計画上及び普段の生活の中で指導を図った。）

②達成した（携帯電話教室や情報モラル教室の実施を行った。）

#### 沼間中学校【目標】

- ①授業でICTを活用できるよう環境整備する。
- ②小学校と連携し、情報機器の活用状況を知る。
- ③ネット、メールなどの被害事例を知り、対策を考える。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（ICT支援員を活用した校内研修を3回設定し、教職員のスキルアップを図り、その結果、プロジェクター等多くの授業で活用された。）
- ②達成した（沼間小学校との授業参観を共有し、発達段階にあった使用法を共有した。）
- ③達成した（地域講師を招いて保護者・地域にも呼びかけ研修会をもつことができた。）

## 〈教育委員会分析結果〉

### 1 平成22年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

#### (1) 主な事業

- CAP（子どもへの暴力防止）プログラム事業
- 教育相談事業  
（非常勤職員6人、スーパーバイザー4人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員2人）
- 心の相談・援助事業（うるおいフレンド各校1人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（国際教育指導助手8人）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）
- 学校施設生ごみ処理機設置事業（池子小）

#### (2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした解決に向けた校内体制づくり
- ▲小学校外国語活動の授業案づくり
- ▲「逗子市学校防災計画」に基づく各学校の防災計画の作成

### 2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

#### (1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 82%）

#### (2) 主な成果等

##### 【子どもの安全・安心】

- ・保護者、地域、外部関係機関との連携の下に子どもの安全確保に取り組んだ。
- ・小学校3年と中学校1年の市内全クラスにおいてCAPワークショップを実施した。
- ・防災訓練や地域防災（避難所訓練）の取り組みを行った。

##### 【いじめ・不登校】

- ・未然防止・早期発見のために、全校が、児童・生徒の生活実態について、聞き取り調査や質問紙調査を行うなど、きめ細かく把握に努めた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制構築し、組織的な対応をはかることができた。
- ・外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

##### 【幼・保・小・中の連携】

- ・小学校…幼・保・小連携推進委員会において、幼・保・小それぞれの授業や活動を参観し理解を深めた。また、年度末に関係幼稚園・保育園・中学校との情報交換を実施し、学

びの連続性を意識した情報連携を図った。

- ・中学校・・・小・中の連携を図るため、合同研修会や情報交換、出前授業や部活体験（クラブ指導）等を実施した。

#### 【国際教育】

- ・各校に1名ずつのIEAを配置されたことで、教職員との連携や児童・生徒との交流をより深めることができた。
- ・次年度からの新学習指導要領完全実施に向けて、教職員の研修やカリキュラム作成に取り組んだ。
- ・単なる語学の指導に終わることなく、コミュニケーションや人権、異文化理解に発展させることができた。

#### 【キャリア教育】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。（1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校）

#### 【福祉教育】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践が行われた。
- ・社会福祉協議会（地域の教育力）との連携が定着しており、各校ごと児童・生徒の実態に応じた取り組みが行われた。

#### 【環境教育】

- ・総合的な学習の時間、生徒会・児童会活動の中で計画的に実践が行われた。
- ・地域教育力を活用した環境学習授業を行い、子どもたちの環境に対する意識を高めることができた。

#### 【情報教育】

- ・小学校2校、中学校2校が、外部関係機関と連携しての携帯電話教室を実施した。
- ・プロジェクターが全普通教室に設置されたことで、ICTを活用した授業実践が増えた。

### 3 教育委員会の自己評価と主な成果等

#### （1）教育委員会の自己評価〔B〕

コメント それぞれの学校が創意工夫により課題を明らかにし、それぞれの学校ごとに課題への対応に力を入れているが、成果としてはなかなか表れにくいというのが現状である。とくに、「いじめ・不登校」については、委員会としても継続的な支援を行っている。

#### （2）主な成果等

##### 【安全・安心】

- ・各学校で逗子市学校防災計画に基づいて安全体制の整備を図るよう働きかけた。



- ・交通安全・不審者対応等の防犯に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。

#### 【いじめ・不登校】

- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。
- ・各学校において早期発見・早期対応の取り組みを進めるよう働きかけた。

#### 【幼・保・小・中の連携】

- ・幼・保・小連携の取り組みを進めるために、連携推進会議を年間3回開催した他、公開保育、公開授業の参観を年間3回実施した。
- ・小・中連携の取り組みを進めるために、年間5回開催された教育課程担当者会でそのあり方や方向性について話し合った。

#### 【国際教育】

- ・逗子市小学校外国語活動ガイドラインを示し、指導のあり方について共通理解を図ったり、年間10回の小学校外国語活動指導者研修会を開催したりして、次年度からの小学校外国語活動完全実施に向けた取り組みを推進した。
- ・IEAの配置を1校1名として時間数を増やし、教職員との連携や児童・生徒との交流を深めることで、国際教育のより一層の推進を図った。

#### 【環境教育】

- ・環境教育に係る諸機関との連携を密に行うことができた。

#### 【情報教育】

- ・逗子市立小中学校ICT支援員派遣事業において、教員に対する学校ICTに係る操作や学校ICTを活用した授業等の企画や準備の技術的サポートを実施した。
- ・新たに導入したICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における活用を、情報教育担当者会等を通じて推進を図った。
- ・情報セキュリティの研修会を実施し、情報モラル等に関する意識向上に取り組んだ。

## 4 平成23年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

### (1) 子どもの安心・安全

- ・3月11日の東日本大震災の教訓を生かし、大規模地震及び津波の発生に備えて「逗子市学校防災計画」を見直す。

### (2) いじめ・不登校

- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築するため、特別支援教育充実事業（教育相談コーディネーター担当者会および各学校での研修）を充実させる。
- ・各校における教育研究所や児童相談所等の関係諸機関との有機的連携を進める。

- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率の低下に努めるため、各学校の教育相談体制を充実させる。

### (3) 幼・保・小・中の連携

- ・小・中の教職員間に顔が見える関係を構築し、互いの教育への理解を深める。
- ・小・中9年間を通して育てる「逗子の子ども像」について、教職員間の話し合いを深める。
- ・幼・保・小・中統一した書式の支援シートを作成する。

### (4) 国際教育

- ・小学校外国語活動の試行期間での実践から得られた成果と課題を明確にして、本格実施に臨む。
- ・国際社会に生きる日本人としての資質向上のための IEA の活用を推進する。

### (5) 情報教育

- ・ICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における活用を推進する。
- ・「情報モラル」についての一貫性を持った指導が必要である。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

五項目のうち、それぞれの学校の工夫点や課題が最も顕著に表れているのが、この項目における取り組みです。

「いじめ・不登校への対応」については、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー等が前面に出過ぎてはいないかという懸念を抱きます。日々の学校生活の中で、一人ひとりの子どもに向き合う教師との関わりとして対応していくのが基本なのではないでしょうか。問題が出てから対症療法的に課題を解決するよりも、本質に立ち返って、子どもたちが来たくくなるような学校の環境をどうやって作っていくかが重要で、先生方が、子どもと日々向き合う場である授業の中でどうするか、という意味で先生方を支援する制度を充実させた方が効果的なのではないでしょうか。多忙化している先生方が、毎日教室に行った時に一人ひとりの子どもたちの様子に気を配り、子ども間の関係をつかめるゆとりがある教室づくり、学校づくりに重点を置くべきだと私は思っております。いじめ・不登校は学校教育の今日的な大きな課題であり、ゼロにしていく努力を継続することが重要です。

「幼・保・小・中の連携」に欠かせないのは情報交換だと思います。特に、幼・保と小、小と中の接続期においては大変重要です。9年間を見通したカリキュラムでは、教育内容ではなく学び方のカリキュラム作成に取り組んでほしいと思います。中学校でリセットしたいと思っている子どももいるので、子どもの逃げ場がなくなってしまうような小中一貫ではなく、小中接続という観点から小中連携に取り組むのがいいのではないのでしょうか。

「キャリア教育」についての評価と課題からは、小学校が苦勞している様子が伺われます。〇〇教育と名付けられたものが、時代の流れの中でどんどん入ってきますが、小学校でキャリア教育と銘打った教育が本当に必要なのか、「生き方教育」とするならば、道徳教育との兼ね合いをどうとらえるか、等、次のプラン改定では何らかの形での見直しが必要なのではないのでしょうか。中学校では3校とも職場体験が行われているようですが、キャリア教育が一番必要なのは「進路の選択」に直面した時でしょう。神奈川県立高校はそれぞれ求める生徒像を明らかにしていますので、進路指導を含めて、自分はということがやりたいのかを見つめさせることが、職業選択にもつながると思います。また、高校の学校公開も盛んになって

いますので、そういった機会も活用して進路指導に重点を置いたキャリア教育ということも考えられると思います。生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育のあり方を探して下さい。

「福祉教育」とは、すなわち「人間理解」だと私は思っておりますので、「いろいろな人がいることを知る」ことが重要だと思います。その意味で、養護学校や高齢者施設等との「交流」を主にした福祉教育はできないでしょうか。行動プランの目標にも「お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり」とあります。年齢の低い時期からの取り組みが理想ですので、小学校低学年での実現を探ってみて下さい。

情報教育については、財政状況が厳しい中で、機器の進歩に学校がついていけない現状があると思います。しかし、情報リテラシーとは、あるものを使う力ではなく、それを使って自分は何をするかが考えられる力のことです。機器の使い方が主となっている情報教育から、これだけの情報機器が発達している中で、人がすべきことは何か、情報機器を使って何ができるか、という情報教育へと発想の転換が必要だと思います。また、環境整備にどれだけ市として取り組めるかも重要な要素です。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

子どもを取り巻く環境が年々複雑化・多様化し、教育課題が山積している今日、それらに対応すべく、各学校共に具体目標を掲げ、達成に向けて取り組み成果をあげていることは大変評価できます。

危機管理対応、とりわけ東日本大地震の教訓を踏まえて、児童・生徒の安全の確保、地域住民の受け入れ拠点対応を含めて防災マニュアルを見直し、教育委員会・学校・地域等関係諸機関が緊密な連携を図り、より質の高いものを作り上げる必要があります。

また、急増する不審者や児童虐待への対応も急務です。CAPをはじめとする防犯教室や安全教育に積極的に取り組んでおり、高く評価しますが、教師一人ひとりが、問題意識を持ち、児童虐待等を見抜く眼を養うことも必要です。

いじめ・不登校への対応については、以前から近隣の市町よりも十分な取り組みを行っており、一定の成果をあげて来ています。今後とも教師自身が教育相談技術の向上を目指して、研修会等の充実を図ることも必要です。また、教師自身が総合的な人間力を磨き、子どもとの信頼関係を構築した学級経営や子ども一人ひとりを大切にした教科経営等に当たり、いじめ・不登校の減少に繋げていただきたいものです。

幼・保・小・中学校の連携・交流については、徐々には進んではいますが、きちんとした教育理念の下での全体計画の整備がなされていない現状が見受けられます。幼・保一元化、中・高一貫教育が進められている中で、少なくとも、小・中一貫教育の整備に努める必要があります。そのためにも、教育委員会が幼・保・小・中学校一貫教育をどう推進するのか明確な考えを示すことも必要です。

国際教育、福祉教育、環境教育、キャリア教育、情報教育の取り組みについては、従来から充実しており、全ての学校が質の高い実践に取り組んでいます。今後は、総合的な学習の時間の時間数が減少した中、どのようなカリキュラムを構成するかが課題ですが、大事なことは全教育活動に位置付けて取り組むことです。また、人権・同和教育にも積極的に取り組み、心豊かな子ども育成に努めて頂きたいものです。なお、国際教育の内容について見直すことも必要です。

## 2 地域に開かれた学校づくり

### ① 地域への情報発信と学校公開の工夫

#### 【 目 標 】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。

学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営に努めることや、地域保護者への学校説明会や授業公開日の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ、学校から積極的に情報発信をすることにより、地域と学校とが適切な相互理解を深めていくことを目指します。

#### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

##### 逗子小学校【目標】

- ①学校ホームページの全面改定を行う。
- ②学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信
- ③保護者だけでなく地域への情報発信（掲示版等の活用）

##### 【評価と課題】

- ①達成した（担当を中心に取り組んだ。）
- ②達成した（学校・学年・学級の便りは充実していた。）
- ③達成した（市民交流センターの掲示板等の活用を始めた。）

##### 沼間小学校【目標】

- ①年間通した学校状況の適切な公開を進める。
- ②HPの更新を月1回程度とする。
- ③地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。

##### 【評価】

- ①達成した（PTA 総会前に時間をとって学校説明会を行う、学校だよりで情報提供する等学校状況の公開を進めている。）
- ②達成した（担当部署が定期的に取り組み、月1回更新した。）
- ③達成した（PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会等とのコミュニケーションが深まっている。）

【課題】学校だより等を地域に発信できるよう、新たに町内会組織等を活用していく。

### 久木小学校【目標】

- ①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める。
- ②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部事業と関連して学校運営へ理解と協力をいただいた。次年度も重点的に取り組んでいく。）
- ②達成した（学校だより、校長室だより、ホームページ等を通し多くの情報を発信できた。一層の充実を図りたい。）

### 小坪小学校【目標】

- ①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。
- ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（個人情報の保護に十分配慮しつつ、ホームページにおいて情報の発信ができた。ホームページの更新は2週間に1回行うことができた。）
- ②達成した（保護者の授業研究会への参加により学校教育への理解が図られた。）

### 池子小学校【目標】

- ①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る。
- ②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（「学校へ行こう週間」に学校説明会を実施し、地域や保護者に対して、学校の教育活動を知らせる機会を増やした。）
- ②達成した（さらに、情報の内容の充実を図っていく。）

### 逗子中学校【目標】

- ①毎月初日の「学校公開日」を設定し、家庭・地域との連携を図っていく。
- ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。
- ③情報を積極的に発信していくために学校便りの工夫：目で見える教育活動の実施に努めていく。

#### 【評価】

- ①達成できなかった（以前から、その定着は十分に図られているものの、実際の来校者がいない状態が続いているため、その数を増やしたり実働を働きかけたりする、具体的な手立ての工夫は必要だと考える）
- ②達成できなかった（学校・学年だより等を通じて発信は試みているものの、実際の来校数となると極めて限られた数や顔ぶれとなっているのが現状で

ある。)

- ③達成した(学校・学年だよりはもとより、メール配信も利用したりする中で、教育活動の公開や広報活動について、リアルタイムに発信できる体制作りができています)

【課題】学校公開日の参加者を、増やすようにしたい。

#### 久木中学校【目標】

- ①学校だよりを地域へ配布する。またホームページの構成を見直すとともに更新を積極的に行う。
- ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深めていただく。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった(更新は行う事ができたが構成については見直しが遅れている。)
- ②達成した(青少年育成推進の会が3地区、体育会が4地区に参加でき関係が深められた。)

#### 沼間中学校【目標】

- ①P&Tのあり方を検討(PTAへの移行の提言)していく。
- ②学校公開等におけるあらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図る。
- ③情報発信(学校だより、HP、メール配信等)の充実に向けた計画を作成する。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった(P&T活動の活性化を図ることはできたが、PTAへの移行を検討課題として視野に入れるまで進めることができたものの、具体的な検討に至るには時期尚早であった。)
- ②達成した(6月には地域・保護者・教職員の茶話会、9月に臨時保護者・教職員の懇親会を学年ごとに開き、学校の現状の課題とその解決策を話し合った。)
- ③達成した(メール配信制度を導入・HPでの情報の拡大等工夫し、有効な活用方法の施行に至った。)



## ② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～

### 【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行は、地域の連帯感を希薄にし、地域の教育力を低下させる要因の一つとなっています。しかし、本来、地域には多彩な人的・物的なリソース（資源）があり、それを教育に生かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、教育活動の充実を図ること、また、地域の中で子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えています。

これまで、市としてボランティアによる学校支援システムを立ち上げ、学校支援ボランティア登録制度を充実させてきました。既に各学校では、このボランティアを「総合的な学習の時間」や読書活動の推進などの教育活動の中で活用していますが、さらに、2009年度（平成21年度）に、市立小中学校全校で立ち上げた学校支援地域本部を、日常的な学習の場面や各種の行事、クラブ・部活動などでも、有効に活用していきます。

### 各小中学校における平成22年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①これまでの学校支援地域本部事業の整理
- ②サポート通信の発行
- ③地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み

#### 【評価と課題】

- |                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
| ①達成した<br>②達成した<br>③達成した | } | 【学校支援地域本部事業のなかで実施できた。次年度はさらに検討を進めていきたい。】 |
|-------------------------|---|--|

#### 沼間小学校【目標】

- ①学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。
- ②ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。
- ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。

#### 【評価】

- ①達成した（コーディネーターが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。）
- ②達成した（学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。）
- ③達成した（コーディネーターとの連携もスムーズになってきている。）

【課題】学習支援アシスタント型の学校支援ボランティアの活用に向けて取り組

んでいきたい。

#### 久木小学校【目標】

- ①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援・学校環境整備支援活動を進める。
- ②校庭芝生化検討委員会を設置し、芝生化に取り組む。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（学校支援地域本部事業の一環として学習支援、環境整備の活動が進んだ。事業の一層の充実が課題である。）
- ②達成した（校庭全面芝生化により子どもにとってよい環境となった。今後、芝生の維持が課題である。）

#### 小坪小学校【目標】

- ①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を進める。
- ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に取り組む。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（サマースクールや生活科等では、小坪地域の特色を生かした人材活用を進めることができた。さらに事業の一層の充実を図りたい。）
- ②達成した（小坪音頭、昔遊び、お話し会の方々との交流を深めることができた。今後は担当学年の幅を広げ、内容の充実を図りたい。）

#### 池子小学校【目標】

- ①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実を目指す。
- ②保護者や地域にボランティア登録をすすめ、学校支援地域本部のネットワークづくりを推進する。

#### 【評価】

- ①達成した（学校支援地域本部で、草刈り、塗装など学校の環境整備に積極的に協力していただいた。）
- ②達成した（学校支援地域本部の呼びかけで、地域の人材活用がすすんだ。）

#### 【課題】

学校支援地域本部の実働化を図る。

#### 逗子中学校【目標】

- ①地域の担い手としての生徒の育成を図っていく。
- ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA・役員との連携を強化させる。
- ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割の明確化していく。

**【評価と課題】**

- ①達成した（地域に根ざす存在感や、地域の担い手を意識した学校生活を送らせてきた。）
- ②達成した（いずれの会もその充実を図る中で、学校の教育活動の中に活かされていた。）
- ③達成できなかった（池子地区の青少年育成団体が解散してしまったので、池子地区に根付いたコーディネーターをお願いできるようにしたい）

**久木中学校【目標】**

- ①学校評議員会を学校支援地域本部の組織に整理統合し、地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。
- ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、保護者・地域個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映する。

**【評価と課題】**

- ①達成した（整理統合し体制づくりができた。）
- ②達成した（委員会を年3回計画し実施した。反省・意見は次年度に反映できるようにした。）

**沼間中学校【目標】**

- ①地域講師を迎えての授業のあり方を提示し、共通理解の下に実践する。
- ②地域教育協議会（評議員会）の一体化を視野に入れながら、より機能的な運営を行うことで、学校支援地域本部の活動を軌道に乗せる。

**【評価と課題】**

- ①達成した（地域コーディネーターが教職員と密な打ち合わせを持つことで、学校のニーズを的確に把握し、生徒に有意義となる授業実践ができた。）
- ②達成した（生徒を地域行事に参加させることで、学ばせる機会も積極的に提供できた。）

### ③ 学校評価を生かした学校の改善

#### 【 目 標 】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析、改善することで、教育の質を向上させていくことが求められています。そのため、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に情報を発信し、説明責任を果たして、社会の期待と信頼に応える学校づくりを目指していかなければなりません。

さらに、学校の自己評価に基づいた学校関係者評価に取り組み、評価の視点や重点をしぼり、児童生徒・保護者・地域の方々による適切な評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組みます。

#### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

##### 逗子小学校【目標】

- ①学校評価の場面、内容、項目等についての再検討
- ②学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し
- ③学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進

##### 【評価と課題】

- ①達成した（担当を中心に評価項目の検討を行い、整理して実施した。）
- ②達成した（行事等の場面でアンケート調査を行い、その後の活動に役立てた。）
- ③達成した（サマースクール・サマーコンサート等で行った。）

##### 沼間小学校【目標】

- ①重点を絞った目標設定をして取り組む。
- ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。
- ③学校評議員、関係者評価員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る。

##### 【成果】

- ①達成した
  - ②達成した
  - ③達成した
- （職員の意識変容が進み、学校評価の理解が深まってきた。）

【課題】学校評議員、関係者評価員が学校をよく理解いただいているが、学校改善への具体的な意見反映となるとまだ難しいところもある。

##### 久木小学校【目標】

学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。

**【評価と課題】**

達成した（年間3回の学校関係者評価委員会を開催した。評価委員会の助言を受け、よりよい学校運営を考えることができた。次年度も今年度同様の教育委員会の支援を期待する。）

**小坪小学校【目標】**

- ①視点を明らかにし、重点をしばった学校評価に取り組む。
- ②評価の結果を次年度の活動に生かす。

**【評価】**

- ①達成した（今までの学校評価を生かし、重点的に行うことができた。）
- ②達成した（児童と保護者のアンケートに記述部分を設けたことで、職員全体でそれらの意見を把握することができた。）

**【課題】** 評価結果を見るだけでなく学校全体で学校評価に取り組む必要がある。

**池子小学校【目標】**

- ①学校評価の項目や方法を改善し、自校の分析を行い、学校改善の効果を高める。
- ②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく。

**【評価と課題】**

- ①達成した（アンケートの項目や評価方法を検討し、改善を加えた。まだ分析が不十分であるので、さらに精度の高いアンケートの内容を検討していく。）
- ②達成した（評価の結果をもとに、職員間で今後の課題を共有すると共に、学校だよりで地域・保護者にも周知した。今年度より、地域のアンケートも実施し、その結果を学校支援地域本部等を通して発信し、主に環境整備面で地域の協力を得ることができた。）

**逗子中学校【目標】**

学校目標との関連を明確にしつつ、評価項目を設定して評価のポイントを絞り、自己評価に基づいた学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進を図っていく。

**【評価と課題】**

達成できた（学校目標と評価項目との関連で、学校運営の中へ具体的に活かし、開かれた学校づくりを目指すことができた）

**久木中学校【目標】**

- ①生徒・保護者にアンケートを実施し、自己評価に取り入れる。
- ②自己評価に対する保護者、学校評価委員会、学校評議委員会、地域等から

改善の指摘を、次年度の学習運営に反映する。

【評価と課題】

- ①達成した（行事ごとに生徒・保護者・地域の方々に実施している。）
- ②達成した（意見について精査し次年度に反映していく。）

沼間中学校【目標】

- ①学校の実態の把握・分析と評価活動とのつながりについての具体的検討を行う。
- ②学校評価に基づいた改善・支援・公開等の整備・基盤づくりを行う。

【評価と課題】

- ①達成した（学校評価の質問項目を再検討し、学校経営方針との整合性を図った。）
- ②達成した（学校経営方針に沿った学校評価集計結果であったため、学校関係者評価委員会での評価を、的確な改善案として学校経営方針に反映させることができた。さらに、年間行事では予定していなかった保護者懇談会を設定し、学校運営についての生の声としての要望を聞く機会を持って学校運営に反映させた。）

## 〈教育委員会分析結果〉

### 1 平成22年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

#### (1) 主な事業

##### ●学校支援地域本部事業

逗子小学校⇒サマースクール・工作サポート・お掃除ボランティアなど

沼間小学校⇒米作り・学習支援ボランティア・校内緑化活動など

久木小学校⇒芝生手入れサポート・稲作・久小わくわくフェスティバルなど

小坪小学校⇒学習支援ボランティア・サマースクール（地域講師による授業）など

池子小学校⇒お話し会・学習支援ボランティア・清掃ボランティアなど

逗子中学校⇒地域講師による授業、竹炭づくり、虫飼育、美化活動など

久木中学校⇒地域講師による授業・地域清掃など

沼間中学校⇒授業支援（木工実習、栽培実習、調理実習、ダンス授業）・美化活動など

##### ●学校支援ボランティア(2825人)

##### ●学校評議員事業

##### ●学校関係者評価事業

#### (2) 主な指導内容

▲学校評議員会報告書の提出

▲学校関係者評価の報告書の提出

▲学校支援地域本部実行委員会の開催

▲地域教育協議会の設置

▲ホームページの充実

### 2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

#### (1) 市立全校の実践評価（項目別達成率 93%）

#### (2) 主な成果等

##### 【情報発信】

- ・ホームページや学校だより、学校説明会等、情報発信に努めた。

##### 【地域教育力の活用】

- ・各学校に学校支援地域本部で地域教育協議会を立ち上げた。
- ・学校支援ボランティアを活用した学習の取り組みが進み、ボランティアの延べ人数が前年度に比べて大幅に増えた。
- ・実行委員会を年間3回開催し、情報交換や方向性の確認を行った。

#### 【学校評価】

- ・学校評価から見えてきた課題を、23年度の学校教育総合プラン実施計画に反映し学校運営の改善を図った。
- ・学校関係者評価を活用して学識経験を有する評価委員等の意見を自己評価の結果に加味して改善策を打ち立て、次年度の具体的な改善につなげることが出来た。

### 3 教育委員会の自己評価と主な成果等

#### (1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 全学校の学校支援地域本部で地域教育協議会を立ち上げた。

#### (2) 主な成果等

##### 【情報発信】

- ・一部の学校におけるホームページの更新がまだ十分ではないことが課題である。

##### 【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部事業が活性化し、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組みが増えた。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行った。
- ・学校のスリム化を図る方向での、学校支援地域本部の活動のあり方の模索が課題である。

##### 【学校評価】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅱ期）」で学校評価の整理を行った。

### 4 平成23年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

#### (1) 地域教育力の活用

- ・地域教育協議会のメンバーに地域コーディネーターの役割を分担してもらう方向で、学校支援地域本部が自立的な組織となることを目指す。
- ・各学校がもっている情報やネットワークを共有化（市内の人材リストの作成）する。
- ・地域コーディネーターのスキルアップを図る。

#### (2) 学校評価

- ・より一層評価の具体化を図り、学校改善により良く生かす学校評価を推進していく。



〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「地域への情報発信」に係って、ホームページの更新はこまめにし、情報発信をすることは大事ですが、学校にそれだけの人的な保障があるか疑問を感じました。委員会として本当にこれが必要だと言うならば、予算的な措置も考えてはいかがでしょうか。

「地域教育力の活用」については、我が子が学齢の間は保護者として学校に関わっても、学齢を外れれば関わらなくなるというのが普通という時代にあっては、地域としてシステムを作るしかないでしょう。地域本部は地域の方々が活躍する場で、地域を考え、地域の課題を解決していくということに関しては中心となって学校を支えていくという位置付けを明確にし、保護者と学校をつなぐ組織で、先生だけではできないことを共に行って学校を支えていく PTA 組織とは住み分けが必要だと思います。地域の人が、地域をどう育てたいかというビジョンがないと一過性のものになってしまうので、その点はよく話し合う必要があります。

『学校評価ガイドライン』（文部科学省、平成 22 年 7 月改訂版）で、「自己評価は、学校評価の最も基本となるものであり、学校長のリーダーシップの下で、当該学校の全教職員が参加し、設定した目標か具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。」としています。

また、「学校関係者評価は、保護者、学校評議員、地域住民、青少年健全育成関係団体の関係者、接続する学校（小学校に接続する中学校など）の教職員その他の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。」としていることに留意する必要があります。

学校評価は、学校が行った自己評価の結果について、学校関係者が行う評価です。「学校評価」は、学校への要望ではなく、一緒にどういうふうに学校を良くしていくかという意識で取り組むべきです。「エバリュエーション（値踏み）」ではなく「アセスメント」としての評価に取り組んで下さい。評価する者がそれぞれに、自分が学校に対して何ができたかを書いていく評価ができるといいと思います。そうでないと評価が疲弊していきます。

## 〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

地域に根差した学校運営の充実を図るためには、学校からの情報発信の充実はもとより、日々の学校公開、保護者を含め地域住民の学校運営への参画、地域の教育リソースを活用した教育活動の充実等が極めて重要です。

各学校の取組を拝見しますと、全ての学校が形こそ異なっていますが、昨年度より質的に充実した取り組みを行っていることが伺えます。

各学校のホームページを拝見しますと、毎月発行される学校便りを始め、月ごとの教科指導、児童生徒指導等学校運営の重点目標が掲げられ、また、運動会・体育祭・合唱祭等の学校行事の報告など盛り沢山の内容が掲載されており、普段なかなか学校に行かれない保護者や地域住民に十分配慮がなされています。更新が遅れている学校もありますが、その時々タイムリーな情報を発信することが、より学校運営理解につながるものと考えられます。学校によっては、非常災害に対するマニュアルを掲載しているところもあり、大変印象深く感じました。すべての保護者や地域住民がホームページ閲覧可能とはいかない現状を踏まえ、様々な機会を通じて、分かりやすく、親しみやすい情報発信を心掛けることが必要です。

また、学校公開については、特定の日やある週間だけではなく、いつでも気軽に授業等が参観できるような組織体制が必要です。

また、保護者や地域住民の学校運営への参画について、学校関係者評価委員会、学校評議員会、地域教育協議会に加えて多数の学校教育支援ボランティアが学校を支えており、近隣市町の諸学校には見られない素晴らしい取り組みです。こうした方々の声は学校評価につながるものであり、学校運営の質的な改善に大いに役立つものです。日々の教育活動を充実・深化させるためにも、今後とも活かしていただききたいものです。

学校評価は、学校運営の質的な改善を図るための一方策です。学校教育目標の達成に向けて、何をどのように改善すべきかを図るための物差しであり、短・中・長期目標の達成に向けてどのような手立てを講じていくかを探るものです。そのためには、全教職員の共通理解と参加のもと、児童・生徒の声はもとより保護者や地域住民の声を真摯に受け止め、十分活かした分かりやすい評価項目の作成に努めるとともに、その結果を分析し、学校運営の改善に努めていく必要があります。

今後とも、管理職の学校運営に対する明確な理念の下、教職員一人ひとりが学校運営の基本方針を理解し、学校運営への参画意識を高めていくことを期待します。

### Ⅲ 教員の指導力向上

#### <目 標>

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、ひいては学校全体の信頼を高めることにつながります。

#### 1 教員研修・研究の充実

##### ① 授業研究の充実

###### 【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。授業は、教育の専門家である教員の計画により、子どもの自発的な探究活動を重視して展開される学習活動です。授業を行う教員には、優れた授業計画と実践力が求められます。

学習指導の充実に向けた校内研究は多岐にわたりますが、その支柱をなすものは授業研究です。その中心となる研究授業では、視点を明確にし、提案性のあることが重要なポイントとなります。

また、授業者だけでなく全員が積極的にかかわり研究を推進し、成果を共有することに大きな意義があります。

授業研究の活性化を図り、質の高い授業づくりを推進するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業や研究発表への積極的参加が必要となります。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う。
- ②外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（研究推進の中で授業公開・授業研究を行った）
- ②達成した（研究全体会等で指導講評をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。）

### 沼間小学校【目標】

- ①授業研究の日常化を目指す。
- ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める。
- ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。

#### 【評価】

- ①達成した（校内研究については全職員で取り組み、充実した。）
- ②達成した（算数・国語・児童理解について、専門の外部講師を招聘した。）
- ③達成した（校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。）

【課題】次年度はかながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。

### 久木小学校【目標】

研究的視点から掲げたテーマに迫るため、授業研究を中心とした校内研究を進める。

#### 【評価と課題】

達成した（学級担任全員が小学校外国語活動を中心とした公開授業を行い、研究を深めることができた。次年度の委託研究推進校研究発表に向けて研究を進める。）

### 小坪小学校【目標】

- ①校内研究に引き続き取り組み、コミュニケーション力の向上が図られているかどうかの検証する。
- ②人権教育の指定研究に取り組む。
- ③外部講師の活用を積極的に行う。

#### 【評価】

- ①達成した（授業公開を通し、校内研究における成果が見られた。）
- ②達成した（校内研修を行い、児童に人権感覚を身につけることができるよう授業研究を行い指定研究のねらいに向けて具体的な取り組みができた。）
- ③達成した（外部講師を招聘し他校の様子や研究の進め方について学んだ。）

#### 【課題】

コミュニケーション力を育むために、学級を共同体として創り上げる学級経営の工夫にいっそう取り組む事が必要。

### 池子小学校【目標】

- ①学習指導案の事前研究、研究授業を実施、研究協議の方法の改善など、校内研究の充実を図る。
- ②外部講師を招いて校内研究の内容の向上を図り、教員の授業力の向上を目指す。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（課題が明確になった）

- ②達成した（ブロックでの研究体制が充実し、各学年とも年1回の研究②授業を実施し、講師の指導を受けながら授業力の向上をめざした）

#### 逗子中学校【目標】

- ①研究授業の積極的実践（1人年2回）を実施していく。
- ②保護者・外部者による授業評価を実施していく。
- ③教科会の充実を図っていく。

#### 【評価】

- ①達成した（前期・後期で各一回の研究授業において、指導案に自分が授業者としての考えをまとめることは、とても深い意義を感じている）
- ②達成した（授業参観や学校公開日が中心となるが、授業評価についてその項目内容を精選していけると、今後に更に活かせるものになっていくものとする）
- ③達成した（毎週一時間の教科会が時間割の中で保証されており、それぞれが目的意識をもった会の運営がなされると、有効で能率的な授業改善につながっていくものとする）

【課題】 授業評価を通じて、授業改善につなげていきたい。

#### 久木中学校【目標】

- ①研究授業の積極的な実践・課題研修レポートの作成。
- ②指導助言に適切な講師を依頼し、研究会における研修の充実を図る。
- ③教科会を充実する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（年2回の研究授業とレポート提出の義務化）
- ②達成した（外部講師を招いての研修会が4回、実施された）
- ③達成した（授業のユニバーサル化や新指導要領の取り組みで充実した）

#### 沼間中学校【目標】

- ①授業改善のための校内研究組織の強化と研究時間の確保を実行する。
- ②小学校カリキュラムの研究を取り入れ、生徒の関心・意欲を高める。
- ③校内研究会充実のために適切な講師を招き、授業力向上を図る。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（教育課程部と総務部の連携の下、年間10回の校内研究会を実施できた。）
- ②達成できなかった（小学校との連携が不十分だったが、来年度は県学びづくりの研究指定を柱に、強かに推進を図る必要がある。）
- ③達成した（講師を年間6回招聘し、学級づくりを礎とした学力向上の方法を研究・研修した。）

## ② 授業評価の活用

### 【 目 標 】

子どもが「自ら取り組む」「わかりやすい」授業を実現するためには、日々の授業改善が必要です。そのために多くの教員が、よりよい授業づくりに向けて、絶え間ない努力や研鑽を重ね、教員一人ひとりの力量を高める必要があります。

学校の自己評価がよりよい学校づくりに資するために行われるように、授業についても他の教育活動と同様にねらいを明確に示し、実践を積み重ね、評価を行い、改善を進めていくことが大切です。

授業評価は、「よりよい授業づくり」を目指して行われ、その結果が次の計画や授業実践に生かされるとともに、子どもたちの「確かな学力」を育むための一つの方法です。

日常の授業を質的・量的（数值的）に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教員の意識改革を進めます。

## 1 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標

### 逗子小学校【目標】

- ①学校評価に関連した授業評価を実施する。
- ②外部講師による授業評価を活用する。
- ③児童の学力把握の調査を活用する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（授業参観や学校へ行く週間などの際に、授業に関しての評価を保護者にしてもらった。）
- ②達成した（研究授業の際に指導講評の中でしていただいた。）
- ③達成した（今年度実施し、活用を図った。）

### 沼間小学校【目標】

- ①学習状況調査の分析を活用する。
- ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。
- ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いでいる。）
- ②達成した（教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。）
- ③達成できなかった（授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組みたい。）

### 久木小学校【目標】

作成された評価規準を活かした授業実践に取り組む。

#### 【評価と課題】

達成した（評価規準を活かした授業づくりに努めた。今年度の実践を踏まえ、規準の見直し、検討を行うことが課題である。）

### 小坪小学校【目標】

①参観の視点や協議の観点を明確にした授業研究を行う。

②児童相互の授業参観を行い、教師と児童が一体となった授業改善に取り組む。

③外部講師による授業評価の計画的な実施

#### 【評価と課題】

①達成した（年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実が図られた。）

②達成した（児童相互の授業参観などを通して、児童の主体的な活動を重視する授業づくりが図られた。）

③達成した（研究授業の際に指導講評の中でしていただいた。）

### 池子小学校【目標】

①授業評価を教員同士だけでなく保護者・地域にも依頼し、数値化して分析する等により授業改善を図る。

②授業評価に対する教員の共通理解を深め、また評価項目・方法も改善していくことで、精度の向上を図る。

#### 【評価と課題】

①達成できなかった }  
②達成できなかった } （授業評価に対する共通理解が不十分だった。）

### 逗子中学校【目標】

①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の向上を図っていく。

②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、視点や観点を明確にし、授業研究の充実を図っていく。

#### 【評価】

①達成した（各教科とも三人体制が主流であるが、特に少人数担当者同士では、授業案の検討や実践例の工夫を話し合うことができている）

②達成した（授業は、授業者と生徒の双方の協力により創られ、その充実が図れることをお互いが十分な認識のもとに、授業評価結果を活かそうとしている）

#### 【課題】

教科会を通じて、研究授業の事前研究会事後研究会を実施させていきたい。

### 久木中学校【目標】

- ①校内研究における授業を中心として授業評価を進める。
- ②学校評価の重要な部分として、生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、よりよい授業づくりに学校全体として取り組む。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（全教員が意識を持って取り組むことができた。）
- ②達成した（評価をして頂き次年度に生かしていきたい。）

### 沼間中学校【目標】

- ①教師相互の授業評価、及び、生徒による授業評価を行う。
- ②評価結果を考察し、自らの授業の弱点を認識する。

#### 【評価と課題】

- |       |   |  |
|-------|---|--|
| ①達成した | } | （自ら考察し認識するに留まらず、校内研究会で発表し、共有することができた。） |
| ②達成した |   |  |



### ③ 地域教材の積極的活用・開発の促進

#### 【 目 標 】

市立小・中学校は、地域に根ざした学校であり、地域には学習に生かせる多くの素材・教材があります。子どもたちに身近な素材・教材ということから、観察や見学という体験的学習ができる授業となり、より具体的な、深い学習となっていきます。

また、これらの地域の素材・教材をもとに作成されたデジタル教材の活用が「わかる授業づくり」の一つとしてあげられます。デジタル化した教育用コンテンツを充実させることにより、教師の指導力の向上につながり、子どもたちにとっても、楽しくわかりやすい授業になります。

さらに、開かれた学校づくりの視点から、外部人材を積極的に活用し、地域社会の教育力の向上が図れるような環境づくりを進めます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①新学習指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。
- ②他校との情報交換や実践交流に努める。
- ③様々な研修の報告を行い、情報の収集に努める。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（個人レベルにとどまっており、学年・学校全体にまでは至っていない。）
- ②達成できなかった（逗教研の部会程度でしか取り組めなかった。）
- ③達成した（復命を回覧することを意識づけるよう取り組んだ。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会を開催する。
- ②地域の郷土資料館を積極的に活用する。
- ③身近な人材発掘を行い、授業に役立てる。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（夏季研修等では校内で講師を務める人材がいて研修会ができたが、さらに広げることができなかったことは課題である。）
  - ②達成した
  - ③達成した
- （郷土資料館の積極的な活用や身近な人材発掘ができ、授業に役立てることができた。）

#### 久木小学校【目標】

- ①地域素材を取り入れた授業づくりを進める。
- ②研修会等の機会を利用し、地域素材の開発を進める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（中学年の地域学習、6年の歴史学習・総合的な学習の時間において地域素材を活用した。）
- ②達成した（校内研修や教育研究所研修を通し地域素材開発に努めた。継続した取り組みが必要である。）

#### 小坪小学校【目標】

- ①地域素材活用のために講師を招き研修会を行う。
- ②地域教材を使った単元開発に取り組む。
- ③わたしたちの小坪風土記を積極的に活用する。

#### 【評価と課題】

- ①達成できなかった（地域素材活用のための地域講師による研修を実施できなかった。）
- ②達成した（地域の特色を生かした新たな単元開発ができた。（矢の根井戸））
- ③達成した（4年生では、副読本として積極的に活用した。）

#### 池子小学校【目標】

- ①地域素材・教材を取り入れた授業を推進する。
- ②郷土資料室・地域の郷土資料館、児童用副読本を活用した授業を推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（地域の公園での学習活動を計画したり、地域の高齢者施設を訪ねたりするなど、地域の素材を活用した単元開発をすすめた。）
- ②達成した（池子資料館の見学や、本校の郷土資料室を活用した授業を実施した。）

#### 逗子中学校【目標】

- ①地域教材のデジタル化を推進していく。
- ②地域素材発掘のため、講師を招き研修会の実施していく。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（豊かな自然環境に囲まれた立地条件下にある本校では、一年生の理科教材作りとして、植物や虫の生息状況や生態系の変化を観察してきた経緯がある。その結果、「ホタルの里づくり」と「珍しい野鳥」についてのデジタル資料づくりが始まっている。）
- ②達成できなかった（地域素材の講師を招いての研修を行えなかった。なかなか適した講師を見つけることができない。）

#### 久木中学校【目標】

保護者・地域の外部人材の積極的な活用を推進する。

#### 【評価と課題】

達成した（地域団体を積極的に活用できた。）

#### 沼間中学校【目標】

①小学校との連携を利用し、教科・学年などで、地域素材の活用の工夫について検討する。

②保護者・地域講師の活用について、学校としての経過をまとめ、今後の課題を提示する。

#### 【評価と課題】

①達成できなかった（小学校との連携については、より具体的実践につながるよう検討していくことが必要である。）

②達成した（学校支援地域本部が組織として動き始め、それぞれの教科・部活動・委員会活動が積極的に地域講師導入に動き出した。また、本校では地域活動そのものを教材と捕らえ、休日も生徒を地域ボランティアとして、送り出す体制もできた。）

## ④ 研修事業の充実

### 【 目 標 】

一人ひとりの教職員がより一層専門性を高め、その力を最大限に発揮しながら学校の組織力を高めることが益々重要になってきています。そのため、校内においても様々な研修活動が計画され、教育研究所においても教職員のニーズに応える研修を進めています。教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業づくりを進めています。

また、現在、教員の大量退職と大量採用の時代にあって、ここ 10 年の間に多くの教員が入れ替わります。そのため、教員の人材育成を着実に進めていくために、学校内において OJT を組織的に推進していきます。OJT は、職務を通じた研修であり、すべての教員を対象として、身に付けるべき力を、意識的・計画的・継続的に高めていく取り組みです。教員一人ひとりが職務遂行能力の向上を図ることで、学校全体として質の高い教育を提供することができます。

### 各小中学校における平成 22 年度の取り組み目標及び評価と課題

#### 逗子小学校【目標】

- ①各自が積極的に授業公開を行う。
- ②自己研修の目的を明確にして研修を受ける。
- ③初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（校内研究推進において授業公開を行った。）
- ②達成できなかった（自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに応じて研修を積極的に受けるまでには至らなかった。）
- ③達成した（初任者の育成には学校全体で取り組んだ。）

#### 沼間小学校【目標】

- ①OJT を主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。
- ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。
- ③市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。

#### 【評価と課題】

- ①達成した
  - ②達成した
- （意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。）
- ③達成した（研究会・研修会を大事にして、今、必要な研修をリアルタイムに設定していきたい。）

### 久木小学校【目標】

- ①初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる。
- ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する。
- ③逗子市教育指導員を積極的に活用する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（計画的な研修が実施できた。）
- ②達成した（積極的に研修会・研究会に参加し、成果を校内に還元することができた。）
- ③達成した（臨任・非常勤教員の授業力向上に役立った。）

### 小坪小学校【目標】

- ①校外の研修への参加を促し、専門的力量的向上を図る。
- ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。
- ③引き続き児童指導に関する研修を行う。

#### 【評価】

- ①達成した（計画的な研修が実施できた。）
  - ②達成した
  - ③達成した
- （長年に渡り継続的に指導を受けている講師による研修は、職員  
の意欲を喚起する研修になっている。）

【課題】ニーズを把握した研修をいかに実施するかが課題である。

### 池子小学校【目標】

- ①自主的な教員研修が行われるよう、時間の確保や機材等、環境の整備を図る。
- ②学校内において、OJTを組織的に推進する。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（研修時間を確保できた。充実に向け、さらに環境整備を図る。）
- ②達成した（初任者に対し、学校全体で指導、支援していく体制がとられている。）

### 逗子中学校【目標】

- ①校内研修会を通して、研修参加時の報告の共有化を図っていく。
- ②研修・研究会・担当者会等へ積極的に参加するよう、教職員の意識の高揚を図っていく。

#### 【評価】

- ①達成した（月一度の顔合わせであるが、全体主題を達成させるために、四つの分野に分かれて基盤になる研究がすすめられ、実践的な方途が話し合われている）
- ②達成した（希望参加の研究会については、グループウェアを使って能率よく紹介・提示をすることになっている）

【課題】グループウェアを利用して、研修会などで配られた資料を共有化し素材

として利用できるようにする。

#### 久木中学校【目標】

学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進める。

#### 【評価と課題】

達成した（授業のユニバーサル化と係わって計画的に研修を行うことができた。）

#### 沼間中学校【目標】

- ①小中合同研修会を実施し、相互理解を深める。
- ②支援教育等、生徒理解・人権に関する研修を積極的に計画する。
- ③ICT研修に積極的に参加し、技術の向上に努める。

#### 【評価と課題】

- ①達成した（研究会相互乗り入れや合同研修会等実施し、小学校・中学校の違いや共通点等明らかにすることができ、その結果、教職員の相互理解が深まった。）
- ②達成した（支援教育研修会及び全体会を全教職員参加で5回以上もつことができた。）
- ③達成した（全職員参加での、ICT研修会を3回実施できた。）

## 〈教育委員会分析結果〉

### 1 平成22年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

#### (1) 主な事業

- 研究推進校委託事業
- 校内研究事業
- 教育講演会

「学校支援地域本部の可能性」

日本大学 文理学部 教授 佐藤 晴雄 氏

- 教育指導教員派遣事業
- 学校教職員研修資料費

#### (2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

### 2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

#### (1) 市立全校の実践評価 (項目別達成率 90%)

#### (2) 主な成果等

##### 【授業研究】

- ・授業研究のテーマに、「言語活動」「コミュニケーション力」「自ら学び考える力」「学びあい」「人のかかわりあい」「自分の考えを表現できる子ども」といった内容を設定し、各学校において新学習指導要領完全実施に向けた研究に取り組んだ。

##### 【授業評価】

- ・外部講師、保護者等の第三者からの視点を加味する等、多様な観点からの授業評価を行い、精度の向上を図っている。

##### 【地域教材の積極的活用・開発】

- ・地域の人材や地域素材・教材を活用した授業実践や、そのための教職員の研修の実施が見られた。

### 3 教育委員会の自己評価と主な成果等

#### (1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教員の授業力向上のために、教育指導教員の各学校への派遣や、市内全小・中学校への授業研究委託をした。

#### (2) 主な成果等

##### 【授業研究】

- ・各学校におけるOJT、特に若手教員に対する組織的・計画的なベテラン教員からの指導に取り組んだ。
- ・教育指導教員派遣事業による臨時的任用教員及び非常勤講師（19名）に対する研修を、合計627回実施できた。

##### 【地域教材の積極的活用・開発】

- ・各学校が地域教材を活用できるように、地域めぐりの研修会や「逗子の自然」「わたしたちの逗子」などによって支援することができた。

### 4 平成23年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

#### 研修事業

- ・初任者研修のより効果的なあり方を考える。また、校内OJTの一層の推進を図る必要がある。
- ・夏季研修、授業力向上研修の一層の充実を図り、教職員のニーズに基づいた、研修の質的向上を図る。



〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「教員の指導力向上」全般に渡って言えば、まず求められるのは、学校全体がチームとしてグランドデザインを立てながら学校としての方向性を明確にした上で、全職員一人ひとりが目標に向けてそれぞれ何をしているかが明確になっていることです。以前のように自分の学級だけ、自分の教科だけの内容を抑えておけばいいという、一人ひとりの指導力だけが問われる時代ではなくなってきました。一人ひとりの教員が、学校での自分の役割、何をしたらいいか、どういうポジションにいるのか、そういったことを自覚していて、それぞれに得意分野がある先生がトータルとして存在する学校全体をどういうふうに運用していくかということが一番問われています。それが指導力の向上です。

「授業評価の活用」については、1 時間 1 時間の授業の評価ではなく、年間を通してつけたい力（学力）をどうするか、授業をどうするか、という視点が問われてきます。観点別評価とはそれをやろうとすることです。また、生徒による授業評価も大事ですが、ああしてくれ、こうしてくれという要求ではなく、一緒に良くしていこうという観点が無いといけません。例えば事後研に生徒を呼んで、生徒と一緒に授業をどう作っていくかを考えていくといった方法が考えられます。

「研修事業の充実」については、まずは、若い先生のキャリアアップをどう図っていくかという点で、OJT のあり方が重要です。例えば横浜のチューター制度などが参考になるのではないのでしょうか。先生たちの悩みや課題の相談に身近なところで応じられる年齢の近い人たちの存在を大切にしたいですね。また、教育委員会に求めたいのは、予算的な措置です。逗子の先生たちが市内だけを見ても逗子の教育力は向上しません。見聞を広めるためには他県・他市に出張に行ったりすることが必要で、それが保障されないことには、自分たちのやっていることを相対化することができません。この 10 年で教員が入れ替わるという時期に目を外に広げ、逗子の教育を見つめ直すということをしていけば、逗子の教育により良い結果をもたらすと思います。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

全体を通して、各学校ともに短期、中・長期的な目標を掲げ、その取り組みの成果は、ほぼ目標に達成したと回答していますが、これも、管理職を中心に全教職員が目標の達成に向けて、意図的・計画的・継続的に取り組んできた成果と伺えます。今後も更なる充実した取り組みを期待します。

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」において示された「教師のあるべき姿」の中で、いつの時代においても求められる教師の資質能力として①「教職に対する強い情熱」②「教育の専門家としての確かな力量」③「総合的な人間力」等が示されています。具体的には、子ども一人ひとりとの信頼関係を築き、ニーズを把握し、学習意欲を引き出し、分かりやすい授業を展開することが求められています。

そのためにも、教師一人ひとりが、教育の目的や使命感、教育の果たす役割等を十分理解し、教育の専門家として、教師力・人間力を高めるよう、日々研鑽に努めることが大切です。とりわけ、「授業研究」は重要であり、子どもにとって「わかる、楽しい授業」に向けて、地域教材を含めた教材・教具の開発、指導方法・形態の工夫・改善、授業・学習評価の充実に取り組むことは、子どもたちの学習意欲の向上や学力向上に繋がるものと言えます。特に、新学習指導要領の理念である「生きる力」を育成するためにも、なお一層きめの細かな「授業研究」「授業実践」等が求められています。

既に、すべての学校において、新学習指導要領への取り組みがなされており、十分と思われませんが、今後ともあらゆる機会を通じて、校内研修の充実を図ると共に、教師一人ひとりが自己研修の充実を努めることが大切であり、そのための環境づくりを教育委員会や管理職は、十分配慮する必要があります。

世代交代が加速化し、若い教員が増えていく中、OJTによる研修は有効な手段であり、今後とも積極的に進めていく必要があります。そのことによって、教師自身が育っていくことが伺えます。併せて、退職教員を含めた外部講師の力も活用するなどしながら、更なる教師力の向上を図るよう、教育委員会としての施策を充実させ、学校をバックアップすることを期待します。

○平成 20 年度～平成 22 年度 学校による点検及び評価の推移

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			① 新学習指導要領完全実施に向けた検討 ② 言語活動の充実に向けての研究推進 ③ 外国語活動の取り組みに向けての検討
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
			成果と課題 ①については、教務部・教育課題研究部とで検討し、学年末の懇談会で保護者に説明をした。新年度には全保護者に向けて説明会を持つ予定。 ②については、教育課題研究部を中心に授業研究等を進め2月に発表を行った。 ③については、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	○確かな学びを身につける ・少人数指導やチームティーチングの指導法を改善する。 ・繰り返し指導や補習等に取り組む。 ・家庭学習の習慣を育てる。 ・評価規準を明確するとともに指導の一体化を図る。	○確かな学びを身につける。 ・少人数指導やチームティーチングの工夫・改善を進める。 ・反復学習や補充指導に取り組む。 ☆確実な習得を図るための家庭学習に取り組む。 ☆保護者に学習状況を丁寧に伝える。	① 児童の学力把握のための取り組みの検討 ② チームティーチングや少人数指導の充実 ③ オープンスペースの学習環境の課題検討 ④ 長期休業期間中の学習支援の実施
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した
	課題:各学年で放課後や夏休みに補充指導を実施した。家庭学習の取り組みは手立ての共通理解が不十分だった。学習状況を丁寧に伝える必要がある。	課題:モジュールの時間を漢字の読み書きに絞って繰り返し取り組み成果を得た。◆算数についても取り組む必要がある。	成果と課題 ①については、1年を除く各学年、国語・算数で学習状況の調査を行い、実態把握と分析を行った。 ②については、教員だけでなく学生ボランティアを活用し、教員の指示のもとで行った。また、③についても支援教室を立ち上げたり、各教室にパーテーションを設置したりして取り組んだ。③については、担当を中心に研修会を行い、取り組んだ。 ④については、1年生を除く各学年で取り組んだ。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	○確かな学びを身につける ・読解力向上プランを参考に取る。 ・一人ひとりの学習状況を把握して改善する。 ・各学年で共通した手立てで取り組む。 ・本校の読解力の状況を把握する。	○確かな学びを身につける。 ☆音読を通して言語の情報の正しい理解を図る。 ☆資料の意図や意味を理解する活動を充実させる。 ☆要約・説明・報告などの論理的な文章作成技術の取得を図る。	① 言語活動・コミュニケーション力向上に関する研究推進 ② 発達段階に応じた課題図書の見直し ③ 思考力、判断力、表現力の向上に向けての取り組みの検討
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題:国語を中心に文章や資料を読み取るなど活動し、効果があった。今後は言語活動を充実し、文章や資料を理解・熟考する能力を高める必要がある。	課題:授業研究に言語活動を取り入れた結果、要旨をとらえる力に向上が見られた。◆学年の系統性を持った取り組みが必要である。	成果と課題 ①と③については、校内研究で取り組み、研究発表を行った。 ②については、学校独自では課題図書を選定することはできなかった。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 読書活動の推進	○確かな学びを身につける ・全校で本に触れ合う取り組みや行事の推進、家庭との協力により、読書活動を進める。 ・ボランティアの活用を一層進める。 ・図書館教育計画に基づき取り組む。	○確かな学びを身につける。 ☆全学年で一斉に読書にふれあう時間を設ける。 ☆読書推進計画の見直しを行う。 ・市立図書館を活用した読書活動を進める。 ・ボランティアの活用を一層進める。	① 学校図書館の整備と充実 ② 読み聞かせボランティア、図書館ボランティアの整理 ③ 市立図書館との連携に関する検討
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:ボランティア(保護者)の方の積極的な活動もあり、読書意欲が高まったが、学校としての図書館教育の計画や読書推進計画が有効に活用されるよう改善する必要がある。	課題:ボランティアの取り組みや担任の読み聞かせなど全校的な取り組みとなった。◆読書推進計画に基づく取り組みが必要である。	成果と課題 ①については、百科事典などの蔵書の追加を市教委の援助により行うことができた。また、学校図書館指導員の指示のもとで図書委員・図書館ボランティアにより、図書室は常に使いやすいように整理整頓されていた。 ②については、学校支援地域本部事業の中で整理をし、市民活動ポイントの対象とした。 ③については、今年度より市立図書館との連携を始めた。

## 【逗子小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の充実	<b>○支援の継続を図る支援シートの活用</b> ・支援シートを活用し、一人ひとりの支援を体制を構築する。 ・定期的に支援教育研修を実施する。 ・ケース会議を実効性のあるものにする。	<b>○保護者への周知と支援対応の充実</b> ☆支援シートに基づく学習支援の実施 ☆全教職員による支援体制の構築 ☆中学校と支援シートに基づく連携を進める。 ☆具体的なプログラムを示した保護者との面談	① 校内支援の為に情報共有と組織的な取り組みを推進 ② 保護者との密な連携による支援の実践 ③ スクールカウンセラーなど外部専門機関との連携の推進
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題: 支援部に関わっている保護者には感謝されるが、まだまだ支援部の活動や内容が理解されていない。学習について直接支援する方法が課題である。	課題: 保護者の満足度が上昇してきた。◆具体的な人的な学習支援が必要である。	成果と課題 ①については、児童理解研修会を行うとともに、職員会議では支援の必要な児童についての情報交換を行った。また、校内支援委員会では教育相談コーディネーターを中心に具体的な支援の手立てを検討し、実施した。 ②については、支援が必要な児童の保護者と心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容について共通理解を図った。 ③については、心理の専門家や外部機関と連携を取り、支援の方法や内容についてアドバイスをいただいた。また、保護者の対応についても支援していただいた。

## I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<b>○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。</b> ・系統的な目標や手立てを作成し、全職員一丸となって取り組む。 ・基本的な生活習慣に関わる啓発資料を作成し、保護者との連携を図った指導を実施する。	<b>○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。</b> ・系統的な目標と手立てに基づき、全学年で取り組む。 ☆家庭の協力を得るために、各家庭に「学習の約束」を作成し、配布する。	① あいさつ運動の推進 ② 基本的な生活習慣育成について学校から発信していく ③ 学級懇談、個人面談等の機会を利用して保護者との連携を深める
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題: 学習態度の育成については一定の成果が見られたが、系統的な目標等の共通理解が不十分であり、啓発資料も作成されなかった。家庭との協力が必要である。	課題: 基本的な学習態度は学年や学級の取り組みにより、概ね達成したと評価した保護者は83%、教職員は95%であった。	成果と課題 ①については、児童会中心に取り組みを進めた。 ②については、日頃から児童には指導をしているものの、特に基本的な生活習慣について、保護者向けに情報発信を積極的にできなかった。 ③については、各クラスでできていた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<b>○異年齢の関わり、あいさつなどの重点化</b> ・逗子子どもまつりのねらいを明確にして、異学年交流を進める。 ・学校全体であいさつを広めるため、学年集会、学級指導、児童会などの場面を活用する。	<b>○異年齢の関わり・あいさつなどの重点化。</b> ☆逗子子どもまつりの内容の充実 ☆全校でのあいさつを広げるため、学級や児童会で取り上げ行動する。	① 各教科や総合的な学習の時間、特別活動などと内容の関連を図る ② 児童会活動を活性化させていく ③ 異年齢集団の交流を推進する
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した ③ 達成した
	課題: 異年齢の関わりは意識的に取り組み、児童の関わりが充実してきたが、あいさつなどについては、地域の方からも不十分であると指摘されている。	課題: 概ね達成したと評価した保護者は76%、教職員は55%であった。昨年より向上した。	成果と課題 ①については、各担任レベルでの取り組みで行っていることが多く、学年として学校として進めていく必要がある。 ②については、児童会担当教員がよく児童を指導し、新しい取り組みも行うことができた。 ③については、今後、内容を一層充実させていく必要がある。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	・教科の特性を生かした豊かな体験活動となっているかを検証するとともに、深化を図る。 ・教科横断的な体験学習にも取り組む。	<b>○系統性のある体験学習を研究する。</b> ☆事前学習→体験→事後学習を通して価値付けや意味づけを明確にする。 ☆活動の成果や結果について話し合いや発表を通して体験を共有しあう。	① 優れた芸術体験事業など芸術鑑賞事業を進める ② 校内に作品等を展示し、文化的要素を高めた掲示を行う ③ 宿泊行事などを通じて児童の人間関係を深める
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題: 各教科の特性を生かして体験に取り組んだが、系統性やねらいを明確にして効果的な体験学習とする必要がある。	課題: 体験学習の教職員評価は87%の達成率であった。 ◆発表等の表現力を身につける指導の充実が必要である。	成果と課題 ①については、今年度芸術体験事業を市の芸術鑑賞会を含めると3回行い、さらに学年独自で邦楽鑑賞なども行った。 ②については、職員室前の廊下を「逗子小美術館」として、児童の作品や地域の方々作品を展示した。 ③については、高学年で行った宿泊行事は成果を上げた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<b>○健康教育や安全教育等の全体計画を作成する</b> ・全体計画に従って、各学年で取り組む ・教科や特別活動において健康教育を進める。 ・健康教育の全体計画を作成し、本校としての取り組みを明確にする。	<b>○遊びや体育での安全指導を徹底する。</b> ・遊びのルールや決まりの作成や児童会での取り組みなど全校で事故を防ぐ機運を醸成する。	① 保健便り等を発行して健康について積極的に啓発していく ② 健康教育の全体計画に従い健康教育について学校として推進していく ③ 早寝・早起き・朝ご飯等、家庭生活の充実について保護者に働きかけていく
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題: 休み時間の遊びでのけがが多く、校庭の狭さやオープンという開放感という要素はあるものの、工夫改善の必要がある。食育では実践検証をすることができ今後につながる。	課題: けがの防止については児童会や学級活動で取り組み、昨年度より半減してきた。	成果と課題 ①、②、③とも養護教諭や担任を中心に、学校として取り組むことができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	○保護者や地域との連携を図る ・1年、3年生の安全体験学習を実施する。 ・全校で不審者対応訓練を実施する。 ・地域と連携し、登下校の安全に取り組む。	○学校支援地域本部事業に取り組む ・1・3年生の交通安全体験学習に取り組む。 ・全校での不審者対応訓練を実施する。 ☆学校支援地域本部を立ち上げ取り組む	① 学校、PTA校外委員会、外部関係諸機関との連携の充実を図る ② 安全点検、危険箇所の修理などの早期対応を図る ③ 総合的な防災計画を作成する
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:交通安全教室や不審者対応訓練など実施することができた。ただ、校外での安全は地域の関わりが薄いため、今後の課題として重点的に取り上げる必要がある。	課題:これまでの安全教室の取り組みは進められた。◆地域本部事業は、継続的・計画的な取り組みが必要である。	成果と課題 ①、②については、PTA校外委員と連携し、危険箇所の点検をし、改善要望を市等にあげた。また、シンボルロードの通行問題についても、他校や地域と連携し進めることができた。 ③については、保健安全給食部を中心に作成した。
② いじめ・不登校等への対応の推進	○差別やいじめを許さない学級づくりを推進する。 ・安心できる学級、解決できる学級にする。 ・いじめの早期発見早期解決に努める ○児童支援体制を充実する。 ・学年や支援部組織が機動的な対応を図る。	○差別やいじめを許さない学級づくりを進める。 ☆児童との信頼関係を強める学級経営に努める。 ・いじめの早期発見早期解決を組織的に行う。 ・保護者と連携した取り組みをすすめる。	① 差別やいじめを許さない学級づくりを行う ② 教育相談コーディネーターを中心とする組織的な対応をはかる ③ 外部専門機関との連携を密にしてい
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:いじめや問題行動等には担任と学年が支援教育部と連携し、早期解決を図った。児童との信頼関係に基づく学級経営を進める必要がある。	課題:いじめ等の取り組みは各学級で学級指導や各教科の中でも取り上げて指導したが、計画的な人権教育という観点では不十分であった。	成果と課題 ①については、毎月の校務分掌会議や職員会議の中で確認し合った。 ②、③については、支援教育の推進と同様に考えている。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	○保育園や幼稚園、中学校との連携内容を検討する。 ・園との交流や情報交換のねらいを明確にした連携を図り、支援シート等を活用する。 ・中学校と連携内容や方法を具体的に協議する。	○保育園や幼稚園との連携を充実する。 ☆園と児童や職員の交流を進める。 ☆支援シートを活用した連携を進める。 ・担当者及び教頭を中心として中学校との具体的な連携を進める。	① 幼稚園・保育園との情報交換を密にしてい ② 幼稚園・保育園との交歓行事を実施してい ③ 中学校との交流行事を検討する
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題:ようこそ集会での園との交流が、教職員との交流となった。今後はさらに中学校との連携をテーマを決めて連携する必要がある。	課題:年度当初に計画し、園との連携により進めてきた。◆支援シートを活用した対応の情報交換が必要である。	成果と課題 ①、③については、就学予定園児についての情報交換を幼稚園・保育園と行っており、中学との交流についても、今年度サマーコンサートを実施し、今後の交流についても検討をしている。 ②については、一年生が次年度就学予定の園児との交流を行っているが、こちらから出かけていく交歓行事はまだ行っていない。
④ 国際教育の推進	○指導要領の改訂内容を意識して取り組む。 ・小学校英語活動の研修・研究に取り組む。 ・授業研究を通して本校の英語活動を検討する。 ・IEAの活用のある方を研究する。 ・本校の英語活動の年間計画を作成する。	○指導要領本格実施に向け、研究を充実する。 ☆英語活動中核教員を中心に実践研究を進める。 ☆英語活動の評価と指導の検討を進める。 ☆中学校英語教員や外部指導者も活用し、英語活動の年間計画を整備する。	① 外国語活動の在り方について職員研修を行う ② IEAとの連携について検討を進める ③ 評価等について検討を進める
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題:英語活動の導入について、事前の準備や職員への周知など、組織的に行い移行期への対応ができた。	課題:中核教諭を中心にして年間の研修時間を確保した。英語活動の内容や方法を検討し、指導計画の内容について一定程度の成果があった。	成果と課題 ①、②については、研修を校内で行い、また、IEAが週5日の勤務になって打ち合わせもしやすくなり、担当者を中心として行うことができた。 ③については、今年度はまだその段階にまで至っていない
⑤ キャリア教育の推進	○外部講師の指導のもと実践研究を進める ・キャリア教育の意義について研修会を実施する。 ・全体計画を検討作成する。 ・各学年の取り組み案を検討し、実施する。 ・担当分掌を明確にして取り組む。	○地域の教育力を活用した実践研究の実施 ☆資料等を積極的に配布しその意義を周知する。 ☆全体計画を作成し、関連する教科で試行する。	① 小学校におけるキャリア教育の在り方について職員の研修を行う ② 2分の1成人式など、生き方を見通した学習等について検討する
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	課題:担当分掌を明確にしたが、今年度は研修への参加程度しかできず、本校の考え方や取り組みが不十分であった。	課題:担当部が職員会議で取り組みの必要性や具体的な取り組みを資料を基にして職員に周知した。	成果と課題 ①については、今年度研修を持つことはできなかった。 ②については、各学年、児童の発達段階に応じてどのような学習がふさわしいか検討した。

## 【逗子小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	○本校の福祉教育の全体計画を作成する ・指導要領のねらいや位置づけを明確にした全体計画や年間指導計画を検討・作成し、実施する。	○全体計画・指導計画に基づき実践する ☆低学年では福祉に関わる読書を進める。 ☆3年生以上は総合的な学習において取り扱う。 ☆地域との関わりを大切に福祉活動を実施する。	① 地域講師やボランティアを活用し、福祉教育の実践を行う ② 児童の生活に根ざした福祉教育について検討する
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題:昨年と同様に4年が教育課程に位置づけて取り組んだ。学校としての目標やねらいを明確にして取り組む必要がある。	課題:福祉学習は学校・学年のねらいを明確にして取り組み、本校の進め方について共通理解を図った。	成果と課題 ・児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みを行っている。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	○全体計画及び目標を設定し取り組む ・各学年での取組を明確にする。 ・児童会活動の中で取り組む ・家庭との連携を図り、子どもの活動を充実する。 ・市の認定獲得に向け取り組む。	○新たな目標を設定し、全校を挙げて取り組む ☆全学年で環境保護の大切さを取り上げた学習や活動を行う。 ☆児童会活動(環境委員会)でも取り組む。 ☆3年生以上は総合的な学習で取り扱う。	① 授業だけでなく、児童会活動等に盛り込み、学校生活全体で取り組める内容を検討する ② 家庭との連携を図り児童の活動の充実を図る
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題:今年度が環境委員会を立ち上げ、児童会組織として取り組むことができた。さらに活動を充実し、全校的な取り組みが求められる。	課題:環境委員会が継続的に取り組み、児童朝会でその成果を発表した。学校全体としての広がりを模索しつつある。	成果と課題 ・児童会の「ミックスペーパー回収」など児童が参加する取り組みを行っている。 ②については、家庭との連携について特に進めてこなかった。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	○パソコンについて職員のスキル向上を図る ・授業研究に取り組む ・校務に活用する研究を進める ・情報モラルの研究授業の実施 ・情報管理を徹底する。	○パソコンについてのスキルの向上を図ると共に、情報モラルの育成に取り組む。 ☆情報教育の指導法についての研修を実施する。 ☆系統性を踏まえた情報教育の活用を図る。 ☆情報モラルの指導計画を作成し取り組む。	① これまでの取組状況の整理を行う ② 発達段階に応じた系統性のある学習計画の検討を行う ③ 必要に応じて情報モラルについて外部機関との連携を進める
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題:各学年の活用指針を作成し取り組むことができた。情報モラルについてのねらいや指導方法などが不十分であった。	課題:活用方針について取り組みは進められた。◆モラルに関する研修や具体的な実践が必要である。	成果と課題 ①、②については、情報教育担当者を中心に取り組んでいる。 ③については、6年生の携帯電話教室しか実施しなかった。

## II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・学校だよりの月2回発行したり、保護者のニーズを踏まえた内容の充実に取り組む。 ・校長との懇談会を生かし、学校の説明責任を果たす。 ・ホームページの内容を更新し、充実する。 ・保護者や地域からの声を生かした情報発信に努める。	○説明責任を明確にして、開かれた学校づくりを一層進める ☆学校経営方針を全家庭に配布する。 ☆学校だよりを必要な地域に配布する。 ☆担当者を位置づけホームページの改善に努める。	① 学校ホームページの全面改定を行う ② 学校便り・学年便り・学級便り等による保護者への情報発信 ③ 保護者だけでなく地域への情報発信(掲示版等の活用)
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:情報提供については保護者からも理解を得られたが、内容の分かりやすさや充実などさらに工夫すべき点がある。	課題:年度当初に全家庭に経営方針のパンフレットを配布すると共に校長との懇談会で経営方針を説明し、年度末には学校評価に基づく改善点を説明した。	成果と課題 ①については、担当を中心に取り組んだ ②については、学校・学年・学級の便りは充実していた ③については、市民交流センターの掲示版等の活用を始めた

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部の設置～	○地域の教育力の一層の活用を図る ・要項を作成し、年間指導計画に位置づける。 ・保護者や地域の方がボランティアを取りまとめる組織(逗子小センター)づくりを推進する。	○学校支援地域本部事業を立ち上げ取り組む。 ☆6月を目安に第1回の開催を実現する。 ☆地域連携のビジョンを作成する。	① これまでの学校支援地域本部事業の整理 ② サポート通信の発行 ③ 地域コーディネーターを中心とした学校や児童のための支援についての検討と取り組み
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題:要項作成などの取り組みがほとんどできなかった。地域講師などは学習活動では各学年積極的に取り組み成果が得られた。	課題:地域本部事業の立ち上げなどプランに基づき進めた。◆継続的・計画的な取り組みが必要である。	成果と課題 ①、②、③とも学校支援地域本部事業のなかで実施できた。次年度はさらに検討を進めていきたい。

## 【逗子小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>○学校評価を充実し、学校の改善に役立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者回答の回収率を高めるため、授業参観や懇談会を活用する。</li> <li>・評価項目や評価者の対象を検討する。</li> <li>・学校評価結果の生かし方を検討する。</li> </ul>	<p>○学校評価を改善に生かす取り組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆評価項目の見直しを図り、具体的な改善につなげる。</li> <li>☆評価委員会の役割や内容を充実する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校評価の場面、内容、項目等についての再検討</li> <li>② 学校評価アンケートの結果を活用した教育活動の見直し</li> <li>③ 学校・保護者・地域の三者協働による教育活動の推進</li> </ol>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	<p>課題:今年度は前期評価を実施したり、全教職員を対象に自己評価をしたりして改善を図った。評価項目などの改善や評価委員の活動をさらに充実する必要がある。</p>	<p>課題:年2回の学校評価を実施し、評議員会や評価委員会、校長との懇談会、学校だよりで周知した。</p>	<p>成果と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①については、担当を中心に評価項目の検討を行い、整理して実施した</li> <li>②については、行事等の場面でアンケート調査を行い、その後の活動に役立てた</li> <li>③については、サマースクール・サマーコンサート等で行った</li> </ol>

### Ⅲ 教員の指導力向上

#### 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック研究を授業を中心に進める。</li> <li>・一人ひとりが授業実践をし、公開する。</li> <li>・外部講師による授業評価を参考にした研究を進める。</li> <li>・新指導要領を意識した授業実践を進める。</li> </ul>	<p>○一人ひとりの授業改善につながる実践及び研究となるよう、授業研究を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆新しい指導要領の趣旨や先行実施の内容を加えた授業実践を行う。</li> <li>・一人ひとりの公開授業を実施する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本校の研究テーマを踏まえた授業実践、又は、文化教育ゾーンの中にあるという立地条件を生かした授業実践を行う</li> <li>② 外部講師による授業評価等を参考にした取り組みを進める</li> </ol>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	<p>課題:指導案を作成した授業研究を実施して一定の成果が得られた。いっそう全体会の話合いが活発になり、授業の改善につながる論議となるよう工夫が必要である。</p>	<p>課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業づくりに取り組みで、82%が役立ったとの自己評価であった。</p>	<p>成果と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①については、研究推進の中で授業公開・授業研究を行った</li> <li>②については、研究全体会等で指導講評をいただき、その後の授業に活かすよう心がけた。</li> </ol>

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	<p>○子どもの変容に重点を置いた授業研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究時に特定の児童の学習状況を把握する。</li> <li>・一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。</li> <li>・新指導要領の内容を意識した授業案を試行す</li> </ul>	<p>○子どもの変容を観点に授業改善をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究時に児童の変容を把握する。</li> <li>・一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。</li> <li>・新指導要領のねらいに基づいた授業研究を行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校評価に関連した授業評価を実施する</li> <li>② 外部講師による授業評価を活用する</li> <li>③ 児童の学力把握の調査を活用する</li> </ol>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	<p>課題:指導案や「授業観察の視点」を参考に授業研究を行い、その結果について話し合うことができた。新指導要領の教科のねらいを踏まえた実践をすることができた。</p>	<p>課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業だけでなく、一人ひとりの学びの保障という観点から個々の児童の状況を把握して、研究を進めた。</p>	<p>成果と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①については授業参観や学校へ行こう週間などの際に、授業に関しての評価を保護者にしてもらった</li> <li>②については、研究授業の際に指導講評の中でいただいた</li> <li>③については、今年度実施し、活用を図った。</li> </ol>

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<p>○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領の内容を意識した教材開発に努める。</li> <li>・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。</li> <li>・長期休業中の研修の報告会・情報交換会を行う。</li> </ul>	<p>○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。</li> <li>・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。</li> <li>・様々な研修の報告会・情報交換を行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 新学習指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める</li> <li>② 他校との情報交換や実践交流に努める</li> <li>③ 様々な研修の報告を行い、情報の収集に努める</li> </ol>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成できなかった ③ 達成した
	<p>課題:新指導要領の内容に応じた教材の購入に組織的に取り組んだ。他校との情報交換や研修報告会など体制作りができなかった。</p>	<p>課題:新しい指導要領における教材の開発までには至らなかった。◆指導要領の学習の必要性がある。</p>	<p>成果と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①については、個人レベルにとどまっており、学年・学校全体にまでは至っていない。</li> <li>②については、逗教研の部会程度でしか取り組めなかった</li> <li>③については、復命を回覧することを意識づけるよう取り組んだ。</li> </ol>

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	<p>○初任研や経験者研修の機会を生かして、切磋琢磨する全校体制を作り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業を公開し、意見交換をする。</li> <li>・自己の研修目標を明確にして、研修に臨む。</li> <li>・管理職が積極的に観察し、レベルアップを図る。</li> </ul>	<p>○初任研・経験者研修を全校体制で支援し、レベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業実践を公開する</li> <li>・自己の研修目標を明確にして取り組む</li> <li>・管理職が積極的に授業参観をし、レベルアップを図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各自が積極的に授業公開を行う</li> <li>② 自己研修の目的を明確にして研修を受ける</li> <li>③ 初任者や経験の少ない教員を学校全体で育てる</li> </ol>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	<p>課題:学年やブロックが中心となって、本人の授業研究を進め、レベルアップを図ることができた。また、学級指導にも積極的に関わり、学級経営の基盤づくりに寄与した。</p>	<p>課題:授業の参観だけでなく、授業後の検討会等で先輩教師からの話や情報交換など、初任研や経験者研修の機会を生かしたレベルアップを目指した。</p>	<p>成果と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①については、校内研究推進において授業公開を行い、③については、初任者の育成には学校全体で取り組んだ。</li> <li>②については、自己観察書を書く段階で自分の課題を各自が把握していたが、それに依って研修を積極的に受けるまでには至らなかった</li> </ol>



平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①: 移行に対応した教育課程の編成と実施 ②: 外国語活動の教育課程編成 ③: 地域の特性を生かした教育課程の編成
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
			成果: 移行措置に基づいた教育課程を編成した。 ・年間35時間分の外国語活動の教育課程を編成した。 ・地域学習を発達段階に応じて各学年に組み込んでいる。 課題: 教科書の採択替えによる見直しが必要である。また、外国語活動や総合的な学習は試行しながら見直していく必要がある。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H20(2008)年度取組内容 ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・学習評価の工夫改善を図る。 ・確実な学力の定着を図るため、少人数指導の充実を図る。	H21(2009)年度取組内容 ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・家庭と連携を図り家庭学習の充実を図る。 ☆学年ごとの到達目標を明確化して取り組む。	H22(2010)年度取組内容 ①: 少人数指導、少人数学級の導入 ②: スキルタイムの有効活用で基礎学力定着の推進 ③: 発達段階に応じた学習の仕方の指導
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 学年毎の具体的な到達目標を明確に取り組む必要がある。	課題 学力を育む基本は授業であることを大切に教育実践を進める ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。	成果: 落ち着いた学習環境で授業が展開した。 ・全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 低学年や多様な姿を見せる子どもたちに対してチームティーチング教諭の配置ができず、個に応じたきめ細かな取り組みには課題が残った。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H20(2008)年度取組内容 ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・県学習状況調査の客観的なデータ分析を行う。	H21(2009)年度取組内容 ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・国・県学習状況調査の客観的なデータ分析に基づいた授業改善を図る。 ☆上記調査データの活用の工夫を図る。	H22(2010)年度取組内容 ①: 各教科で言語活動の充実を目指す。 ②: 「自分の考えを表現できる」を指導目標 ③: 「学び合い」を大切に授業
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 県学習状況のデータ分析は行ったが活用において工夫が必要である。	課題 ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。	成果: 校内研究で全職員が取り組んだ。 ・校内研究でサブテーマとして取り組んだ。 ・発達段階に応じた学習形態の工夫をしている。 課題: 読解力の向上・定着に向け、取り組みの継続が必要である。
④ 読書活動の推進	H20(2008)年度取組内容 ・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。 ・市立図書館との連携を進めるための検討をする	H21(2009)年度取組内容 ・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。 ・市立図書館との連携を進める。	H22(2010)年度取組内容 ①: 読書活動の日常化 ②: 読書環境の充実 ③: 学習活動に読書活用を位置づける
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 二つの読み聞かせボランティアを1つにするなど活用を図る上で成果が見られたが、市立図書館との連携の在り方は、保護者側の連携は図られたが、教職員側は充分ではなかった。	課題 今後もさらに市立図書館との連携を進める。	成果: 全職員が取り組んでいる。 ・読み聞かせや図書館ボランティアの活用等、地域支援も有効に機能している。 ・学校図書館指導員と連携した指導が展開されている。 司書教諭・学校学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H20(2008)年度取組内容 ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。 ・外部機関等の専門機関と連携を進める。	H21(2009)年度取組内容 ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。 ・外部機関等の専門機関と連携を進める。 ・支援教育を推進するための教育ボランティアの活用を図る。 ☆校内支援教育部中心の支援教育体制の充実を図る。	H22(2010)年度取組内容 ①: 校内支援体制を現状にあわせて構築する。 ②: 支援ニーズの把握と指導の充実を目指す。 ③: 児童理解に基づいたきめ細やかな支援の充実
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ◆支援を必要としている児童への共通理解、支援について組織的な援助等について職員の理解が深まった。児童相談所、教育研究所などの専門機関との連携・強化が図られたが、校内支援教育部中心の体制づくりをさらに進める。	課題 今後も体制づくりや研修等を充実させていく	成果: 校内支援体制がようやく定着してきた。 ・担任から支援ニーズについての話が支援部へ上がってくるようになった。 ・多様な姿を見せる子どもたちであるが、全職員で子どもを見る体制は定着し、毎月定例の支援部よりの報告で情報共有がなされている。 課題: 支援シートを活用した保護者との連携、他機関との連携をしっかりと進め、個に応じたきめ細かな取り組みをさらに工夫する必要がある。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</li> <li>・小・中間における、児童・生徒の指導上必要な情報の連携と研修会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</li> <li>・かぐのみ幼稚園、沼間愛児園も含めた連携と研修会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める。</li> <li>②: 学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。</li> <li>③: 小・中間における必要な情報の共有と連携を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 定期的なたよりの発行にとどまることなく必要に応じてお便りの発行をした。そのため、家庭の周知が図られた面もある。	課題 ◆保護者との連携を意識的に進める(懇談会の工夫、家庭訪問等を有効に活用した保護者とのコミュニケーションの充実)	成果: あいさつや話の聞き方について全職員の一貫した取り組みができ、落ち着いた学習環境が保たれた。 ・担当者が意識的に取り組みを進め保護者からの評判もよい。 ・小学校側から積極的に小中連携を投げかけ、今年度の取り組みを進めたことで、互いの理解が深まってきた。 課題: 「ていねいな言葉づかい」への取り組みはアンケートから実態を見るとまだ課題がある。場をわきまえた言葉づかいを目指したい。小中連携についてはさらに重点を絞って毎年ごとにPDCAを持って進めていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年児童のリーダーシップを発揮した縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</li> <li>・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。</li> <li>・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</li> <li>・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。</li> <li>・中学校・地域と連携した奉仕活動の取り組み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 各教科、総合、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める。</li> <li>②: 学校・家庭・地域が一体となった挨拶運動を推進する。</li> <li>③: 学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ◆通年を通しての縦割り活動を実施することができた。小学校・中学校が一貫として挨拶に取り組むことができたが一層の徹底を図る。	課題 家庭・沼間中学校・地域での挨拶運動を定着させる。	成果: 授業研究の日常化を目指す取り組みが進み、学年ごとに意識的に授業づくりが進められた。 ・人間形成として根づいたものになるよう取り組みを継続したい。 ・発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。 課題: あいさつ運動等、日常的な取り組みを継続することが豊かな心を育てることにつながる。全職員で重点項目を絞って取り組みを継続していく。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。</li> <li>・沼小祭りを通して地域の伝承遊びを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。</li> <li>・校内において芸術鑑賞会を開催する。</li> <li>・沼小祭りを通して地域の伝承遊びを知る。</li> <li>☆学校支援地域本部を立ち上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める。</li> <li>②: 地域の行事を大切に、社会奉仕活動に自ら参加して社会性を育むよう促す。</li> <li>③: 校内において芸術鑑賞会を開催する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成できなかった ③: 達成した
	課題 ・地域の盆踊り会場の灯籠の製作、ふれあい市場へのジオラマ展示など地域への間接参加の機会が増えた。・沼小祭りの地域の伝承遊びに参加する児童・地域の方の参加が増えた。学校支援地域本部を立ち上げる。	課題 学校支援地域本部を立ち上げ、地域、保護者、子どもたちを巻きこみ豊かな体験活動を進める。	成果: 行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。 ・体験学習等に取り組み、子どもたちが意識できるようになったことは成果である。 ・芸術鑑賞会の継続開催や図工作品展で互いの作品のよさを味わう工夫等により、学校環境を有効に使う豊かな体験活動が展開され、子どもたちの日常が充実しつつある。  課題: 豊かな体験活動を推進するために、学年間の教育課程を見直ししながら、系統性ある取り組みを進めていきたい。また、奉仕活動等は学校内で完結することではないことから、地域・家庭との連携が必要である。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携を図り、健康教育の推進に向けた研修会を設定する。</li> <li>・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携を図り、性教育、健康教育を推進する。</li> <li>・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。</li> <li>☆食育全体計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 健康教育を学校全体で推進する。</li> <li>②: 食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する。</li> <li>③: 薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成できなかった ③: 達成した
	課題 ・健康教育を家庭と連携を図り進めるため、食をテーマに講習会を開催した。 ・食育の推進を図るため、給食便りを中心に保護者・児童への啓発に努めた。HP上に給食献立の写真を毎日更新した。 ・食育全体計画を作成する必要がある。	課題 ◆子ども向けアンケートを活用して子どもたちの状況把握を適切に行う。	成果: 今年度の取り組みで体育や外遊びでの健康づくりが展開された。 ・全学年で食の指導計画は示されているが、各学年とも計画的な取り組みが進んでいる段階とはまだいえない。 ・発達段階に応じた学習が実施されている。  課題: 健康教育や食育を意識して取り組もうという機運は高まってきているので、組織的な動きを確立し教員間に共通認識を持って、家庭とも連携して取り組みを進めていきたい。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAP(子ども暴力防止プログラム)による防犯教室の実施・民間警備会社による防犯教室の実施</li> <li>・保護者・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動</li> <li>・校舎内外の安全点検を実施</li> <li>・警察との連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAP(子ども暴力防止プログラム)プログラムによる防犯教室の実施</li> <li>・民間警備会社による防犯教室の実施</li> <li>・保護者による通学路の点検</li> <li>・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動</li> <li>・校舎内外の安全点検を実施☆町内会・自治会との連携を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 学校防災計画に基づいた安全体制の整備</li> <li>②: 教職員、保護者による通学路の点検</li> <li>③: 自転車教室等安全への啓蒙活動の実施</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・CAP(子ども暴力防止プログラム)の他、民間警備会社による防犯教室の実施をした。・通学路パトロールは学区全域に渡っているが、町内会・自治会の組織化がされていないところもあり町内会・自治会との連携には至っていないところもある。	課題 学年や発達段階に応じた安全指導を推進する。	成果: 時間集約的に計画を進めることができた。 ・家庭訪問や夏休み等の機会を捉えて実施している。 ・3年生で自転車教室を開催し、児童の実態に合わせて学級指導を行っている。 課題: 今年度の取り組みとして逗葉高校生による防犯教室を開催したが、子どもたちの反応は良く、ボランティアとしての高校生との連携も活用していきたい。
② いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流担当者会、支援委員会を中心に、組織的な対応を図る。</li> <li>・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の支援ニーズに対する共通理解を図るための研修会を実施する。</li> <li>・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 校内支援体制を構築し組織的対応を図る。</li> <li>②: 担任とのコミュニケーションを深めるとともに、校内児童相談活動を進める。</li> <li>③: 子どもの思いをくみ取り、問題の未然防止に努める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成できなかった
	課題 ・支援委員会において、不登校児童や児童指導上の問題について組織的に対応・改善に努めた。・沼間中学校と情報交換をするとともにスクールカウンセラーを講師に研修会を実施した。	課題 児童理解の充実と問題への迅速な対応をさらに進めていく。	成果: 年を追うごとに支援教育の取り組みが教職員に定着してきている。今年度は個別支援も何人か進めた。 ・うるフレを活用して子どもの居場所づくりが進んでいる。 ・問題を抱え込み、乗り越えることができない児童の存在が見られる。 課題: 成長過程で自己肯定感を育て、自分らしい集団との関わりが切り切れない子どもたちが見られるが、10歳の壁を意識しながら自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を培う取り組みを進める。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中の授業交流を実施する。</li> <li>・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける。</li> <li>・部活体験をさせていただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中の授業交流を実施する。</li> <li>・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける</li> <li>・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園、沼間小・中との指導上必要な情報共有と連携に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 小・中連携については担当者が年間計画を立てて進める。</li> <li>②: 子どもの姿を持って語り合い、情報交流を進める。</li> <li>③: 幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成できなかった ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・沼間中学校の校長をはじめ教員による授業を実施した。・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園との授業交流を実施した。・沼間中学校の部活体験を6年全員に実施した。	課題 ◆幼・保・小・中の連携では引き継ぎに関わる連携だけでなく、その後の育ち等について交流場面があるとよい。	成果: 年間計画については小学校側からの働きかけにより中学校との連携事業が進み、話し合う土壌ができた。 ・情報共有の場面が充実した。 ・年間計画の中で充実した交流ができた。 課題: 小中連携について、課題をしっかりと共有して取り組む必要がある。次年度はかながわ学びづくりで小中連携をさらに強化していく。
④ 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語活動の授業のための授業研究を実施</li> <li>・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語活動の授業を実施</li> <li>・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 英語活動のカリキュラムの検討</li> <li>②: 英語活動の授業の充実に向け、授業研究や研修会を実施</li> <li>③: IEAと協力して日常的な交流や教材開発を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・英語活動(外国語活動)のために研修会を19時間分計画実施した。併せて、授業研究を実施した。・異文化理解を推進するため、外国人の体験入学を受け入れたがこれらの体験を生かしていきたい。	課題 国際理解教育の視点を持って外国語活動を充実させていく。	成果: 指導要領に従って授業づくりに取り組みカリキュラムを編成した。 ・校内研究に位置づけて取り組み、成果が見える。 ・英語を活用した掲示や教材づくりに積極的に取り組んだ。 課題: 授業者がねらいに沿った活動を実施していくにはまだまだ研究・研修を深めていく必要がある。

## 【沼間小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもによる沼小祭りにおけるショップ出店により、職業体験をさせる。</li> <li>勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもによる沼小祭りにおけるショップ出店を増やし職業体験をさせ、さらに取り組みを発展させる。</li> <li>「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの再検討に努める。</li> <li>勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①:子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実践する。</li> <li>②:子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する。</li> <li>③:キャリア教育への保護者の理解を促す。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①:達成した ②:達成した ③:達成できなかった
	課題 沼小祭りに於ける子どもショップ出店を前年の倍に増やすことはできたが、全校的な取り組みには至らなかった。	課題 キャリア教育の共通理解を図るために、キャリア教育の研修を進める。	成果:学校内や地域支援での関わりをキャリア教育の視点で捉えて子どもたちに提示できた。 ・学校生活全般を意図的に活用している。 ・担任から保護者に積極的に情報提供しているとはいえない。 課題:教員がキャリア教育を十分に理解した後、子どもたちに生き方を提示していく必要がある。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の高齢者を招き、温かい関係作りを推進するための体験活動を進める。</li> <li>総合学習の時間等を活用し福祉教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育を推進するために、社会福祉協議会の協力を得て、体験活動を進める。</li> <li>総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①:日常的な人を思いやる教育から始める。</li> <li>②:外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る。</li> <li>③:社会福祉協議会と連携し、体験的学習活動を推進する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①:達成した ②:達成した ③:達成した
	課題 ・運動会・音楽会等の学校行事に地域の高齢者を招待した。福祉教育は4年、5年生が総合学習を中心に実施した。社会福祉協議会等の関係機関との連携も図られたがさらに充実させたい。	課題 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、教育課程を充実させる。	成果:教職員が重点を絞って取り組むことで成果が見える。 ・社会福祉協議会や各種団体を有効活用することができ、授業では具体的な場面を用意して成果を上げた。 ・十分に活用できている。 課題:総合的な時間の時数が減少することから、本校の福祉学習として学年連携を深めて教育課程をつくる必要が出ている。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。</li> <li>田んぼの改修をする。</li> <li>ビオトープ作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。</li> <li>田んぼ、ビオトープの維持管理をする。</li> <li>☆「特色ある学校づくり」の市委託を受け、実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①:環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。</li> <li>②:発達段階に応じた実践を取り入れる。</li> <li>③:学校内で行われている環境に関わる取り組みを交流する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①:達成した ②:達成した ③:達成した
	課題 ・グリーンカーテンの取り組みはできたが、田んぼの改修は現況でも活用できたため、次年度の計画とした。ビオトープの計画は田んぼの改修と一体として進めていく。	課題 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を充実させる。	成果:各学年の取り組みを引き継いでいる。 課題:児童会でも取り組んでいるが、いろんな場を活用して広げていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器の活用能力の育成に努める。</li> <li>情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。</li> <li>機器更新を機会に、情報教育の授業に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器更新を機会に、校内LANの研究に着手する。</li> <li>情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。</li> <li>☆個人情報保護の周知徹底を図り、事故防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①:情報機器活用能力の育成に努める。</li> <li>②:情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める。</li> <li>③:各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①:達成した ②:達成した ③:達成した
	課題 ・機器更新に伴い、校内研修会を実施した。情報教育の授業研究に取り組んだ。USBの保管・管理も含め情報モラルの育成、個人情報の保護について周知した。	課題 各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。	成果:情報教育については表現活動とも関連させて取り組むことができています。 課題:情報ツールを授業に有効活用することについて、さらに工夫を進める。

## Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

## 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事へ、作品による参加とともに人的参加の検討をする。</li> <li>HPの毎週更新をする。</li> <li>HPにPTAの参加を得て、情報の発信をする。</li> <li>授業参観等を活用して家庭との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事へ、作品による参加とともに人的参加をする。</li> <li>ホームページの毎週更新をする。</li> <li>授業参観を活用して家庭と連携を図る。</li> <li>☆ホームページを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①:年間通した学校状況の適切な公開を進める。</li> <li>②:HPの更新を月1回程度とする。</li> <li>③:地域と学校の相互理解が進むようにコミュニケーションをとる。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①:達成した ②:達成した ③:達成した
	課題 ・地域イベントへの作品参加は推進できたが、人的な参加には至っていない。HPの更新は食育面では達成したが、他は不十分であった。	課題 学校評価の公開や説明会を実施していく。	成果:PTA総会前に時間をとって学校説明会を行う、学校だよりで情報提供する等学校状況の公開を進めている。 担当部署が定期的に取り組み、月1回更新した。PTA運営委員会だけでなく、青少年育成の会、避難所運営委員会とのコミュニケーションが深まっている。 課題:学校だより等を地域に発信できるよう、新たな町内会組織等を活用していく。

## 【沼間小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育ボランティア活動(支援教育も含め)への参加依頼を進める。</li> <li>・読み聞かせボランティア活用の充実を図る。</li> <li>・クラブ活動への地域教育力の活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育ボランティア活動(支援教育も含め)への参加依頼を進める。</li> <li>・読み聞かせボランティア活用の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 学校支援に関わるコーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する。</li> <li>②: ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める。</li> <li>③: 学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・福祉教育や地域学習さらには鎌倉学習など保護者を中心とした教育ボランティアの活用を図った。・読み聞かせボランティアの一層の活用が図られたがさらなる充実を目指したい。	課題 学校支援地域本部事業を有効に機能させ、活用していく。	成果: COが積極的に動き、活動が根づくものになってきている。 学校も積極的に準備段階から関わりをもって進めている。COとの連携もスムーズになってきている。  課題: 学習支援アシスタント型の学校支援ボランティアの活用に向けて取り組んでいきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の検討・自己、外部評価実施。</li> <li>・学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の内容検討。</li> <li>・自己評価と併せた学校関係者評価の実施。</li> <li>☆学校評価のホームページ上での公開を検討する。</li> <li>・学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。</li> <li>・学校評議員会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 重点を絞った目標設定をして取り組む。</li> <li>②: 子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める。</li> <li>③: 学校評議員、関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・自己評価、学校関係者評価を実施し、公表をした。学校説明会において、評価の一部を公表した。ホームページ上に工夫して公開する。	課題 自己評価と併せた学校関係者評価を実施し、学校評価を充実させる。	成果: 職員の意識変容が進み、学校評価について理解が深まってきた。  課題: 学校評議員、関係者評価委員には学校をよく理解していただいているが、学校改善への具体的な意見反映となるとまだ難しいところもある。

### Ⅲ 教員の指導力向上

#### 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。</li> <li>・外部講師を招聘し授業研究をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。</li> <li>・外部講師を招聘し授業研究をする。</li> <li>・教育研究所や他機関に教員を派遣し、本校の授業研究に資する資料収集・教材研究に努める。</li> <li>☆日常の授業に成果を生かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 授業研究の日常化を目指す。</li> <li>②: 外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める。</li> <li>③: 授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 ・逗子教育研究会、研究所の研究会主催の授業研究に積極的に参加し授業公開に努めた。・市教育委員会委託研究における授業研究は3教科アプローチとし、外部講師の招聘もすめたので授業に生かしたい。	課題 授業研究の日常化で質の高い授業づくりを進めていく。	成果: 校内研究については全職員で取り組み、充実した。 算数・国語・児童理解について、専門の外部講師を招聘した。校内研究会や研修会を公開し、本校以外の方も参加した。  課題: 次年度はかながわ学びづくり研究推進校としてさらに研究を深めていく。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価シートの活用。</li> <li>・学習状況調査の分析。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による授業評価も含めたような観点から授業評価を行う</li> <li>・学習状況調査の分析結果を日常の指導に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 学習状況調査の分析を活用する。</li> <li>②: 研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る。</li> <li>③: 子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成できなかった
	課題 ・学習状況調査の分析は進めたが活用には課題が残った。	課題 学力向上に向け、授業評価を活かしていく。	成果: 基礎的基本的な内容の定着にさらに力を注いでいる。 教員相互による授業評価に取り組み、職員の意識改革が進んだ。  課題: 授業評価の視点を絞って取り組むこと、子どもによる授業評価を活用することに取り組むたい。

## 【沼間小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催。</li> <li>・地域素材を活用した小・中学校の連携授業。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催。</li> <li>・地域素材を活用した小・中学校の連携授業の実践を進める。</li> <li>・地域の郷土資料館を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: 地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会を開催する。</li> <li>②: 地域の郷土資料館を積極的に活用する。</li> <li>③: 身近な人材発掘を行い、授業に役立てる。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成できなかった ②: 達成した ③: 達成した
	課題 地域教材の活用は図ることができたが、講師を招聘しての研修会は開催できなかった。	課題 地域素材活用のための研修会を開催し、教材を開発する。	成果: 郷土資料館の積極的な活用や身近な人材発掘ができ、授業に役立てることができた。  課題: 夏季研修等では校内で講師を務める人材がいて、研修会ができたが、さらに広げることができなかったことは課題である。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。</li> <li>・自主的な教員研修を支援する体制を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。</li> <li>・校内で相互に教員研修を実施する。</li> <li>・経験年数に応じた職能開発の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①: OJTを主とした校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める。</li> <li>②: 児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく。</li> <li>③: 市学校教育課、県教育委員会主催の研修を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	①: 達成した ②: 達成した ③: 達成した
	課題 校内研究にとどまることなく、様々な研修の機会を活用して授業力向上に向けて、組織的に取り組んだが経験年数に応じた職能開発も必要である。	課題 校内での教員研修を充実を図る。	成果: 意図的に教職員全員で取り組んでいることから、成果が見える。  課題: 研究会・研修会を大事にして、今、必要な研修をリアルタイムに設定していきたい。

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①移行措置2年目として、子どもたちの実態や地域の特性に応じた教育課程を編成する。 ②小学校外国語活動の推進のため、実践研究を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
			成果と課題 ①新指導要領完全実施に向け教育課程を編成できたが、実践による検証が課題である。 ②全学級で研究授業を実施し、研究を進めることができた。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やチームティーチング、小集団など多様な学習形態を工夫	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やチームティーチング、小集団など多様な学習形態を充実	①少人数指導、チームティーチング、小集団等、多様な学習形態を活用し、基礎基本の定着を図る。 ②指導すべき内容等に応じた適切な教材の開発や繰り返し指導に努める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・今年度は教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に担当学年で連携を図り取り組むことができた	課題・担当学年で連携を図り、教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に計画的に取り組むことができた。	成果と課題 ①県及び市の少人数指導教員を活用し、指導法の工夫・改善に取り組むことができたが、23年度は個に応じた指導の充実が課題である。 ②継続的な課題であり、取り組み続ける。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	様々な文章、資料を読む機会や意見を述べる機会を日常的に充実させる	自分の考えを述べてたりする機会を充実し、コミュニケーション能力を高める	①国語科・各教科・道徳・総合的な学習の時間を通して言語活動の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	課題・聞いたり読んだりするという受信の活動と共に、書いたり話したりという発信の活動を充実させ、総合的にコミュニケーション能力を高めた	課題・研究会や外部からの講師を招き、言語活動の充実を図り、総合的にコミュニケーション能力を高めた	成果と課題 ①言語活動の充実が教科・総合・道徳等、全教育活動に関わるもので、公開授業を行い研修を深めた。授業づくり研修会の実施・充実を通して取り組み続ける。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 読書活動の推進	・図書館ボランティアを学校だより等を通して通して募っていく ・朝読書を推進していく ・見やすい掲示板をつける	・図書室を整備していく ・第二図書室を充実させる ・前年度の活動を見直して、充実させていく	①司書教諭・学校図書館指導員・学習支援ボランティアを活用し、読書活動を推進する。 ②お話会による読み聞かせ等の活動を行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・読書推進に努める子ができたが、おはなし会のボランティアの方との連携の引き継ぎと、図書館ボランティアの運営の仕方が今後の課題である	課題・おはなし会のボランティアの方と連携や引継ぎを密にし、計画的に進めることができた	成果と課題 ①年間を通し図書ボランティアを活用した(毎週火・木)。図書館指導員年間計画に基づき実施できた。 ②お話会による読み聞かせ等を計画通り年10回実施した。お話会ボランティアと図書指導担当の打ち合わせを一層密にすることが課題である
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	・校内組織を機能させ、他機関との連携を深めながら、チームの支援体制をつくっていく	校内組織及び、支援体制の機能を充実させていく	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、子どもたちのニーズに応じ具体的支援を行う。 ②教育研究所・児童相談所・子育て支援課等の外部機関と連携を深める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆外部の専門機関との連携を深めることができた。さらに、チームでの支援体制を充実できる校内組織を機能させていきたい。	課題教育相談コーディネーターや関係機関との連携を円滑に図り、チーム体制を充実し機能的に活動できた	成果と課題 ①校内支援体制が整備され、様々なケースに対応することができたが、子どもたちのニーズも多様化している現状から一層の取り組みが必要である。 ②各機関との連携が進んだ。継続した取り組みを続ける。

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切に使う」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む ・児童指導支援部が中心となり児童指導の年間計画を立て取り組みたい	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切に使う」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む	①学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行う。 ②学校・保健だより等を通して情報を発信する。 ③学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者と連携した取り組みを進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題・児童指導支援部の年間指導計画づくりに取り組み、教育相談コーディネーターとの連携を図りながら進めることができたがさらに充実を図る必要がある	課題・児童指導支援部が中心となり児童への呼びかけを図るとともに、PTA運営委員会、学校だより等でも話題として取り上げ、地域、保護者、学校と連携を図りながら進めることができた	成果と課題 ①日常的な指導の継続が必要である。 ②学校・保健だよりは計画的に発行できた。 ③についても継続的取り組みを行うが、保護者の理解に差があり、一層の努力が必要である。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める ・学校行事・児童会行事を通して児童の人間関係づくりに取り組む ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を進める	・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める ・学校行事・児童会行事を通して児童のよりよい人間関係づくりに取り組む ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を深める	①道徳教育全体計画に基づき、他の学習活動と関連させながら計画的・発展的な指導を行う。 ②あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・地域の教育力を活用したり外部教育力を活用したりして、地域・保護者・児童の関係を深めることができた。さらに充実を図りたい。	課題・昨年度に引き続き、地域教育力や外部教育力を活用し、地域・保護者・児童の関係を深めることができた	成果と課題 ①新教育課程に向けて道徳教育全体計画の見直し・検討を行った。実践を通じた検討が課題である。 ②については朝会、学級指導等を通し取り組んだ。保護者・地域へも協力を依頼した。継続した取り組みを行う。
③ 豊かな体験活動の推進	・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の充実を図りたい。	・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の一層の充実を図る	①稲づくり・大豆づくり等、地域と連携した体験活動を行う。 ②キャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化にふれあう体験を行う。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆地域の人々をはじめ、外部から講師を招くなど多くの交流場面を設定できた。更に、計画的・継続的に実施していくことで、一層の充実を図りたい。	課題・地域の人々をはじめとし、様々な体験をすることができた。また、多くの交流場面を設定できた。今年度は計画的・継続的に交流を増やし、充実を図ることができた	成果と課題 ①計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置付け、活動の定着を図りたい。 ②次年度よりキャンプを行う場所を変更し、一層の活動充実を図る。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う ・食教育、健康教育などを推進していく	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う ・食教育、健康教育などを推進していく ☆食教育の全体計画作成を進めたい	①保健安全年間計画・給食指導年間計画等に基づいた指導を進める。 ②校庭芝生化に取り組み、子どもの体力向上について検討を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆今年度は、自分の命も人の命も大切にするという、大きなくりの中で、健康教育について取り組むことができた。さらに食教育にも重点を置き取り組んでいきたい。	課題・基本的な生活習慣の育成については、年間を通して実践できるよう保健安全給食部や児童指導支援部より目標を出したり、PTA運営委員会で取り上げたりして内容の充実を図った	成果と課題 ①計画通り実施した。食育に関する取り組みの充実が課題となる。 ②校庭全面芝生化により校庭で遊ぶ子どもの数が倍増し、体力向上へ効果があった。今後、芝生の維持が課題となる。

II 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める ・地域のパトロール体制に協力する ・自然災害に対応した、施設面の整備	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める ・地域のパトロール体制に協力する ・児童参加型の不審者対応訓練の実施 ☆地域と連携した防災計画を検討する	①防犯教室・不審者対応訓練を行い、子どもたち、教職員の防犯意識を高める。 ② PTA・地域パトロール体制と連携し、子どもの安全確保に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆今ある防災計画を見直し、より緊急時に素早く対応できる取り組みを検討した。さらに、地域防災との連携を考えた計画づくりに取り組みたい。	課題・教師も子ども達も自分の命は自分で守れるように危機回避の方法を知ることができた。今年度は教職員の防犯、防災訓練により、不備な点を整備・改善を図ることができた	成果と課題 ①安全指導年間計画に基づき実施した。継続した取り組みが必要である。 ②地域の見守り隊を中心に登下校時の安全確保への取り組みができています。学校支援地域本部事業の一つと位置づけ、継続的取り組みを行う。



【久木小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる ☆ 教育相談コーディネーターを中心とした支援の充実を図る	①教育相談コーディネーターを中心とした支援体制の充実を図り、子どものニーズに応じ具体的支援を行う。 ②外部機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携を深める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	◆教育相談コーディネーターを中心とし、支援を進めることが出来た。今後さらに充実させていく必要がある。	課題・教育相談コーディネーターを中心とした支援体制づくりを進めることができた	成果と課題 ①ケースごとに支援体制を検討し、具体的支援を行った。子どものニーズの多様化に対応する取り組みが課題である。 ②各機関等との連携を取り、ケースに応じた対応を行った。一層の連携強化が必要である。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る ・交流計画の作成及び実施	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る ・就学前の教育・小学校教育の相互理解を図る	①小中の連携を目指し、協議しながら取り組む内容を明確にする。 ②幼稚園・保育園と連携し、情報収集を続ける
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆2月に「ようこそ久小集會」を開き、地域の幼稚園・保育園との交流の場をもった。次年度入学予定児童について、幼保との情報交換を行い、学級編成に役立てた。定期的に幼保間で交流を深めていきたい。	課題◆年度末の情報交換を次年度の学級編成にいかすことができた。また、授業参観や授業交流を積極的に行い、教師間の連携を図れた	成果と課題 ①中学生を招き合唱等を通じた交流をはじめとする取り組みを行った。また、外国語活動の授業参観により小中相互理解の場を設定した。一層の連携を図りたい。 ②幼保小連携推進委員会の活動を受け、交流と情報交換を行った。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 国際教育の推進	・英語を世界とふれあえる世界共通語にとらえ、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る	・担任が中心となり、IEAや英語ボランティアを活かした英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る ☆外国語教育の県指定研究を推進する	①小学校外国語活動の授業を通し、コミュニケーション能力の育成を図る。 ②国際教育指導助手の効果的な活用を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・従来の国際理解教育の成果を踏まえ、2011年度から実施される外国語活動のとらえ方に関して教師間の共通理解を図れた。国際理解教育支援員を積極的に活用し様々な異文化理解の機会を設け、英語を用いたコミュニケーション能力の育成に努めた。	課題・校内研究や外部講師を招いての学習会を行い外国語活動の捉え方について共通理解を図ることができた。また、国際理解教育支援員を積極的に活用し異文化理解やコミュニケーション能力の充実を図った	成果と課題 ①委託研究推進校として小学校外国語活動を中心とした研究に取り組んだ。次年度の研究発表会に向けて研究の充実を図る。 ②研究と関連させ効果的な活用に取り組んだ。一層の効果的な活用に取り組む。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	・児童会活動の活性化により当番・委員会の充実を図る ・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画を立てる	・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画をより充実させる	①子どもの発達段階に応じたキャリア教育のあり方について検討する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった
	課題◆少しずつではあるが、社会の一員であることを自覚してきている。さらにキャリア教育のねらいを明確にし、継続していきたい。	課題・清掃等の当番活動、委員会活動の活性化を図ると共に、学年では子ども達の発達段階に応じた内容の将来の生き方についての話を進めた	成果と課題 ①キャリア教育について学校全体での検討が十分できなかった。検討・研修等の時間確保が課題である。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	学習での体験をもとに、学校外でのボランティア活動など他機関や地域との連携のもと、人権・福祉に関する活動を推進していく	人権・福祉に関する取り組みについて見直し、さらに子ども達の生活に根ざした福祉教育を検討し開発していく ☆地域講師活用の推進を図る	①福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間等を通して福祉学習に取り組む。 ②福祉部・社会福祉協議会との連携を取り、福祉教育の推進を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・今後、学年・学級単位での体験学習だけでなく、更に、他学年や関係機関との連携や協力を仰いで活動の充実を図っていきたい。	課題◆子ども達の発達段階に応じた福祉教育や人権教育に計画的な学習が行えるよう、関係諸機関との連携や協力を仰ぎ内容の充実を図った	成果と課題 ①各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。実践の内容充実が課題となる。 ②福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。今後も連携を続ける。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	・環境教育の年間計画を作成する ・小中学校担当者による情報交換 ・マイアジェンダの登録検討	・環境教育の年間計画を作成する ・小中学校担当者による情報交換 ・マイアジェンダの登録	①教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組む。 ②逗子市の施策(グリーンカーテン等)を環境教育に活かす。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題◆日常の取り組みは、意識化出来つつあるが、引き続き整備を進めていきたい。	課題◆紙の裏面使用や節水節電は学校でおおよそ浸透してきている。今後も環境教育の年間計画等作成について充実を図っていきたい	成果と課題 ①総合的な学習全体計画に基づき実施した。全学年を通じた環境意識の向上に一層努めたい。 ②グリーンカーテン、サンパチェンス栽培等の活動を行い、環境教育推進を図った。次年度へも活動をつなげたい。

## 【久木小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	・情報機器の活用をさらに充実させ、情報を読み解く力の育成を図る	・情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行い、情報教育の授業を充実させる	①発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器活用能力の育成を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	課題・コンピュータ室も新しくなり、情報機器の活用は充実してきている。今後は機器を活用し、情報教育の授業も充実させたい。	課題◆情報機器を積極的に授業や行事に活用しようとする様々な場所に工夫が見られた。さらに充実させていきたい	成果と課題 ①全普通教室にプロジェクターが設置されたことにより活用が効果的に行われるようになった。PCルームでの機器活用も進んでいる。継続して活用能力育成を図る。

## Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・学校便り等で情報発信を進める ・ホームページを充実させ情報発信を進める ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める ・家庭、地域社会との連携を深める	・学校便り等で情報発信を進める ・ホームページを充実させ情報発信を進める ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める ・家庭、地域社会との連携を深める	①地域教育協議会を通して、地域に対して学校運営に関する理解を深める。 ②学校だよりやホームページ等で学校の情報を広く伝える。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・学校便り、ホームページ、掲示板等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。さらに地域への情報発信について充実を図りたい	課題・学校便り、ホームページ、掲示板活用等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。また、学校便りは地域にも回覧でより多くの情報を提示できた	成果と課題 ①学校支援地域本部事業と関連して学校運営へ理解と協力をいただいた。次年度も重点的に取り組んでいく。 ②学校だより、校長室だより、ホームページ等を通して多くの情報を発信できた。一層の充実を図りたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる	・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる ・地域の教育力再生と新たな地域の教育コミュニティづくりを推進する	①久木小サポーターシステムを活用し、学習支援・学校環境整備支援活動を進める。 ②校庭芝生化検討委員会を設置し、芝生化に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる事ができた。	課題・外部教育力の活用を年間計画を作成し計画的に進めることができた	成果と課題 ①学校支援地域本部事業の一環として学習支援、環境整備の活動が進んだ。事業の一層の充実が課題である。 ②校庭全面芝生化により子どもにとってよい環境となった。今後、芝生の維持が課題である。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	・教育活動全体を見通して外部アンケート ・児童アンケートの計画の見直しを行う ・年度末に学校関係者評価委員会を実施 ・PD③Aサイクルの整理構築	・年間2～3回の外部評価委員会を実施 ・年度末に学校関係者評価委員会を実施 ・PD③Aサイクルの整理構築 ☆学校評価結果の活用を図りたい	①学校関係者評価委員会の評価を学校運営に生かす。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	課題◆児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を昨年度と比較し、今後の課題等を学校便りに公表した。さらに内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていきたい。	課題・児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を学校便りに公表した。また、内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていくことができた。	成果と課題 ①年間3回の学校関係者評価委員会を開催した。評価委員会の助言を受け、よりよい学校運営を考えることができた。次年度も今年度同様の教育委員会の支援を期待する。

## Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	・校内研究を中心に、授業研究を活性化する ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する	・校内研究を中心に、授業研究を活性化する ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する	①研究的視点から掲げたテーマに迫るため、授業研究を中心とした校内研究を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	課題◆校内研究テーマに沿って学年研究を進め、各学年が研究授業を行い、全教職員で討議した。これからの実践に活かしたい	課題・学年協働と外部講師の参加により、授業研究の充実を図ることができた	成果と課題 ①学級担任全員が小学校外国語活動を中心とした公開授業を行い、研究を深めることができた。次年度の委託研究推進校研究発表に向けて研究を進める。

## 【久木小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価と連動した授業評価の在り方を検討する。</li> <li>・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる</li> <li>・校内組織に評価検討部を設けて今年度から活動することにした。授業評価のより充実を図りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価と連動した授業評価の充実をすすめる</li> <li>・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる</li> <li>・授業評価について学校評価を行い、その成果と課題について検証し、教育活動の向上を図る</li> </ul>	①作成された評価規準を活かした授業実践に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	課題◆今年度は、校内組織に評価検討部を設けて活動することができた。今後は、さらに授業改善や授業評価のより充実を図りたい	課題・校内研究と一体化した授業評価を行うため外部講師を招き検討した。校内組織に評価検討部を設けて次年度から活動することにした。授業評価のより充実を図ることができた	成果と課題 ①評価規準を活かした授業づくりに努めた。今年度の実践を踏まえ、規準の見直し、検討を行うことが課題である。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	収集した情報を基に、教材化に向けて検討する	素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用する	①地域素材を取り入れた授業づくりを進める。 ②研修会等の機会を利用し、地域素材の開発を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・生活科・図工で地域素材が活かされた。田植え、稲刈り体験ができた。今後も素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用していきたい。	課題・生活科・図工で地域素材が活かされた。今年は大豆作りや田植え、稲刈り、脱穀体験ができた。また、講師の方と実際に歩いて地域を探索することにより歴史、自然についての情報を収集した。	成果と課題 ①中学年の地域学習、6年の歴史学習・総合的な学習の時間において地域素材を活用した。 ②校内研修や教育研究所研修を通し地域素材開発に努めた。継続した取り組みが必要である。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる</li> <li>・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる</li> <li>・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる☆研修時間を確保していく</li> </ul>	①初任研、年次経験者研修において校内協力体制を作り、研修指導にあたる。 ②校内及び校外の研修会、研究会への参加を促進する。 ③逗子市教育指導員を積極的に活用する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題◆様々な企画で校内研修を進めることができた。校外での研修に参加した教職員が、その内容を校内に伝達するように努めた。	課題・校内研修の充実に努めると共にそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会に参加することができた。また、研修内容を校内で共有化することができた	成果と課題 ①計画的な研修が実施できた。 ②積極的に研修会・研究会に参加し、成果を校内に還元することができた。 ③臨任・非常勤教員の授業力向上に役立った。

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上

1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①「コミュニケーション力の向上」をめざした授業づくりをテーマとし言語活動の充実を図る。 ②「聴く・話す」の段階指導に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ・年間を通じて、どの学級でも継続的に課題を示し宿題として取り組みが定着した。 ・校内研究を継続し、聴いて考えつなげる授業の構築ができてきた。 ・先進校を視察した結果、学級ごとの取り組みに課題が残ることを認識した。 ・チーム小坪として年度当初の取り組みを統一する。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	・少人数指導やチームティーチング指導方法の工夫改善に取り組む ・個に応じた家庭学習の課題を持たせ取りまとめる ・家庭へも趣旨を伝え協力を依頼する ・年間を通して学年末診断テストを生かした指導を図る ・検討した結果を検証する	・少人数指導やチームティーチング指導方法の工夫改善の取り組みの総括 ・児童が自主的に課題学習の課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する ・自ら課題に取り組む学習方法の定着を目指す ・分析に基づいて、テスト内容の適否を検証する ・活用を年間の教育課程に位置づける	①児童が課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する。 ②家庭との連携をとりながら家庭学習の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	◆家庭学習の取り組みの依頼を積極的にする	◆一人学びの推進	成果と課題 ・全学級で基礎基本の定着に向けた取り組みをした。 ・毎日家庭で学習する習慣が身についた。 ・授業改善の取り組みの「一人学び」に通じる家庭学習にしていける必要がある。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	・学校独自の図書資料作成や収集を進める ・コミュニケーション力の向上をめざす授業を実践で検証する	☆学校独自の図書資料の作成を行う 授業に活用しやすい図書資料一覧を作成する ・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する。	①「PISA型読解力」についての理解を深め、その育成に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した
	◆独自の図書資料の作成までには至らなかった	◆図書資料は活用したが、一覧の作成には至らなかった。	成果と課題 ・高木教授の指導の下、職員全体でPISA型読解力についての理解が深まった。 ・高木教授により文部科学省の評価チームの検討結果を直接聞くことができた事により、正しい理解ができた。 ・新しい学力観に基づき、従来の評価の考え方を変えていく必要がある。
④ 読書活動の推進	・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続的に努める ・関係機関との連携を図る取り組みを進める ☆学級における読書活動の見直しをはかる。 ・改訂版の活用を積極的に推し進める・展示方法の工夫をさらに進める	・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続的に努める ・関係機関との取り組みの中で、読書活動の定着を図る ・活用事例を冊子にまとめる ・蔵書の充実を図る	①小坪小の特色であり、朝読書など日常活動を通して継続的に努める。 ②小坪選定図書を活用に取り組む。 ③一人ひとりの読書量の増加や多様化をめざす取り組みをする。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
		◆読書活動推進に児童の発想を生かしていきたい	成果と課題 ・学校図書館指導員と協力し、どの学年も取り組みを進めることができた。 ・市立図書館や地域の方々との連携を図ったり、子どもたちが活発に図書館を活用したりするシステムを立ち上げることができなかった。 ・学級担任による各学級の取り組みをいっそう進める必要がある。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	・具体的な支援教育体制について検討する ☆交流担当者会の計画的取り組み ・特別支援学級の役割を受け入れ学級だけでなく、学年学校の児童にも分かりやすく伝える。	・対外機関との連携の在り方を検討する ・特別支援学級の児童との交流の機会を増やす	①教育相談コーディネーターの活用を中心とした組織的対応に取り組む、体制を整える。 ②対外機関との連携の在り方を検討する。 ③校内支援シートの活用
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		◆普通級における支援を今後も検討していく	成果と課題 ・小坪小学校としての支援体制が確立できた。 ・教育相談コーディネーターを中心に、対外機関との連携を図り、支援を進めることができた。 ・校内支援体制が定着してきている。それに伴って担任や保護者との連携も密になってきている。支援シートの活用について具体的な支援の在り方を進めている ・職員の構成に合わせて、毎年体制を見直し、柔軟に対応できるようにする。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える</li> <li>使ってはいけない言葉について、児童の実態を把握し、指導の評価を行う</li> <li>行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う</li> <li>地域への広報を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階に応じた指導の工夫を図る・言葉遣い全体について考えて、検討してみる</li> <li>☆言葉遣いについての指導の評価を行う</li> <li>行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う</li> <li>保護者、地域との双方向の取組を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う。</li> <li>②健康3原則に沿った生活課題の改善に取り組む。</li> <li>③めざす子ども像を共有し、発達段階に応じた指導のあり方を工夫する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	◆言葉について指導の評価までは至らなかった	◆家庭の役割を積極的に提言したい	<b>成果と課題</b> ・学校目標やめざす子ども像などが保護者に周知されている事が、学校評価アンケート結果から読み取れる。 ・日頃から児童には指導をしてきている。今後は保護者向けに情報発信を積極的に進めていきたい。 ・今年度の重点目標として、学校全体で取り組んだ結果目指す子ども像の姿に近づくことができた。さらに子どもの姿をしっかりととらえ、発達段階に応じた指導を続けていきたい。 ・保護者と学校目標の共有化が図られたが、生活習慣の定着に向け家庭とのいっそうの連携が必要である。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える・コミュニケーションを高めるための具体的な手だてについて検討する</li> <li>行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う・地域への広報を図る・クラスでの「あいさつ運動」に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える</li> <li>・コミュニケーションを高めるための具体的な手だてについて実践する</li> <li>・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う・保護者、地域との双方向の取組を目指す</li> <li>・児童一人ひとりのあいさつ運動の具現化に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①道徳を始めとする日常的な学習の中で、発達段階に応じた規範意識や人権意識の育成に取り組む。</li> <li>②学校内における縦割り集団の活用や、学校外における体験活動により、異年齢交流を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	◆あいさつについては児童と大人の感じ方が異なる	◆保護者、地域への働きかけの継続	<b>成果と課題</b> 神奈川県の人権教育研究委託に取り組み、自己肯定感の育成に取り組む一定の成果を見た。 ・学校行事や児童会活動を通して、発達段階に応じた役割を設定し、楽しみながら異年齢交流を工夫している。 ・QU調査により児童の意識を把握することができた。結果を分析し次年度の指導に生かす事ができるようにする。
③ 豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る</li> <li>・福祉体験学習では、様々な障がいを持った方々とふれあいながら相互理解を深め、日常生活に生かしていけるようにする</li> <li>☆ふれあい活動を教育課程に位置づける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る</li> <li>・全校での取り組みの精選を図る</li> <li>☆ふれあい活動を系統立てて整理する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の見直しを図る。</li> <li>②様々な体験活動を通して、問題解決的な学習を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	◆実施内容を整理し、系統立てる必要がある	◆地域行事への積極的な参加をすすめる	<b>成果と課題</b> ・行事や体験学習等を活用して全学年で展開した。 ・計画通りの体験活動を実施した。年間計画に位置づけ、活動の定着を図りたい。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの学年で、実践検討する。</li> <li>・それぞれの学年としてのねらい</li> <li>・教科・方法等の検討をする・小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る職員との共通理解を図り、継続的な取り組みとなるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小坪小学校としての健康教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する</li> <li>・小坪小学校としての食教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する</li> <li>・小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る</li> <li>・内容の工夫改善を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小坪小の食育全体計画の活用と改善を図る。</li> <li>②小坪小の性教育全体計画の活用と改善を図る。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆食育を今後も積極的に推進していく	<b>成果と課題</b> ・全学年で食の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。 ・全学年で性教育の指導計画を示すことができ、各学年とも計画に即した取り組みを進めてきている。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする</li> <li>・不審者対応等の訓練を実施を全校で取り組む・マニュアルの見直しを図る</li> <li>・小坪小学区避難所組織と協働で、マニュアルに沿った訓練を実施し、意識を高める</li> <li>・地域の安全マップを生かした安全指導に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする</li> <li>・訓練内容の工夫改善を図りながら継続的に取り組む</li> <li>・マニュアルの徹底を目指す訓練を実施する。</li> <li>・マニュアルの見直しを行い、実質的なマニュアルを作成する</li> <li>・地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける</li> <li>☆メール配信システムを活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①PTA作成の地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける。</li> <li>②地域と連携し、現地検証しながら児童自身が地域安全マップを作成する。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	避難所組織との協働までには至らなかった	◆メール配信システムの推進	成果と課題 ・防災教育については計画的重点的に指導ができた。 ・学校支援地域本部やPTAと連携しながら地域安全マップを作成した。作成したものを見守り隊や地域の方にも紹介できた。 ・防災教育については特に、地震対応について指導の改善を図る必要がある。
② いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめチェックリスト」から見える気になる児童の対応の仕方を支援部で検討する</li> <li>☆いじめチェックリストの内容の見直しをはかる</li> <li>使ってはいけない言葉について子どもたちの実態を把握し、指導の評価を行う</li> <li>・コミュニケーション力の向上をめざす授業について実践で検証する</li> <li>・校内支援教育チームが組織的な取り組みになっているか検証しながら推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめチェックリスト」の項目の見直しを検討する</li> <li>・言葉遣い全体についても考えさせる。</li> <li>☆言葉についての指導とその評価を行う</li> <li>・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する</li> <li>・より実効的な取り組みができるように組織図の見直しを図り、改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①教育相談コーディネーターを中心とした校内支援体制の確立と改善</li> <li>②いじめチェックリストの改善と継続的な活用に取り組む</li> <li>③他機関やスクールカウンセラーの計画的活用</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	◆言葉について指導の評価までは至らなかった	◆組織的対応のいっそうの改善と引き継ぎ	成果と課題 ・小坪小の支援体制が確立できた。 ・支援の必要な児童の対応に全校体制で取り組むことができた。 ・いじめチェックリストを活用し計画的に取り組んだ。 ・他機関やスクールカウンセラーを計画的活用して児童指導支援を進めることができた。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や授業交流を計画的に行い、いわゆる、小一プロブレム・中一ギャップといった課題の共通理解・解消を図る</li> <li>☆児童生徒交流を計画的に行う。</li> <li>・活動のねらい・計画等の教育課程における単元のあり方を検討する</li> <li>・職業体験の活動のねらいを共通理解しキャリア教育の充実を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けた教育課程の授業・工夫といった取り組みをする。</li> <li>・教育課程上の関係を検討する</li> <li>☆キャリア教育の充実を図る</li> <li>・キャリア教育に関する単元開発を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活科を活用した子ども同士の交流や授業体験を推進する。</li> <li>②幼稚園、保育園、中学校との指導上必要な情報の共有に取り組む。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	◆実践しているがキャリア教育の充実までには至らなかった。	◆キャリア教育の計画計画作成の取り組みが必要	成果と課題 ・ようこそ小坪小集いに幼稚園、保育園児を招待し様々な体験活動を行い、交流を深めることができた。 ・幼稚園、保育園児による授業参観、中学校の先生との日常的な情報の共有により、入学前の交流の充実が図られた。
④ 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う</li> <li>・英語活動の単元開発を行う</li> <li>☆15時間の教員研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う</li> <li>・英語活動の全体計画の作成に取り組む</li> <li>☆年間指導計画を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業実践を通して外国語活動の年間計画を作成する。</li> <li>②「IEA」の効果的な活用を進める。</li> </ul>
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆23年度に向け年間計画を完成する	成果と課題 ・授業研究はできたが、70時間分のカリキュラム作成には至らなかった。 ・国際教室を設置し、休み時間にもIEAと子ども達との交流が図れるようにした。

## 【小坪小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	・教育課程の中からキャリア教育の視点で単元開発を行う ・身近な人材を生かしながら、生き方の指導を行う	☆キャリア教育の視点で単元開発を行う ・単元を授業実践していく ・地域の人材を生かしながら、生き方の指導を行う	①日頃の授業をキャリア教育の視点で見直し、学年の発達段階に応じたカリキュラムを作る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	①達成できなかった
	◆キャリア教育の視点が浸透していなかった	◆教員にキャリア教育の実施を意識させる	成果と課題 ・小学校におけるキャリア教育の視点を作ることは出来たが、カリキュラム作成には至らなかった。
⑥ 福祉教育の推進	・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う ・学年間の連携を図る	・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う ・全体計画作成に取り組む	①小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年の発達段階を生かした取り組みを行う。 ②関係諸機関との連携を図りながら福祉教育の体験的な活動を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆取り組みの記録を充実させ、継続を図る	成果と課題 ・各学年の年間計画に従って発達段階に応じた取り組みを行った。 ・福祉学習の計画・実施に関わって連携することができた。
⑦ 環境教育の推進	・授業を通してそれぞれの学年で実践可能な事例を整理する ☆委員会の取り組みの検討	・整理して実践事例を資料に残していく	①4年生の総合的な学習の時間を中心に、その活動への協力等を通して、環境に対する意識を育てる。 ②地域の人と連携し多様な環境教育に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
		◆活動の精選と充実	成果と課題 ・教科・総合的な学習の時間等を通して環境学習に取り組んだ。 ・地域との連携について進めることができなかった ・環境に関する授業を教育課程上に位置づけることができなかった。
⑧ 情報教育の推進	・年間指導計画の工夫改善をする ☆パソコン室の整備	・学年の段階を踏まえた年間計画を工夫する	①「ICT」を活用した授業を積極的に行う。 ②情報の発信者としてのモラルの育成を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	パソコン入れ替え後、慣れるのに時間がかかった	◆リテラシー獲得のための指導の充実	成果と課題 ・外部講師の出前授業でより専門性の高い授業を行うことができた。 ・情報リテラシーの育成とともに、校内研修を開催しネット上での情報交換の場における、エチケットやモラルの教育の推進を図った。

## Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

### 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・HPの内容について、職員で分担しながら精選を図る ・行動目標が保護者・地域の共感を得る方法を工夫する ・回覧したお便り等が双方向になるような方法を工夫する	・HPの内容について検討し精選を図る ・行動目標が保護者・地域の協力を得た取り組みになるよう工夫する ・地域の方々の学校への意見を取り入れる方法を工夫する	①ホームページの内容を精選し継続的な更新を図る。 ②研究会や授業公開を通して学校運営に対する理解を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆学校HPの内容の精選と継続性を図る	成果と課題 ・個人情報の保護に十分配慮しつつ、ホームページにおいて情報の発信ができた。ホームページの更新は2週間に1回行うことができた。 ・保護者の授業研究会への参加により学校教育への理解が図られた。
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部の設置～	・ふれあい活動の教育課程上位置づけを明確にし、単元開発をする ・図書ボランティア・クラブボランティア・花壇ボランティアの活動内容を検討する	・開発した単元を検証改善していく ・図書ボランティア・クラブボランティア ・花壇ボランティアを活動内容を改善する	①地域コーディネーターとの連携を図り、小坪地域の特色を生かした人材活用を進める。 ②地域の方々、児童、教職員が共に育ち合う活動に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆地域支援本部事業の充実を目指す	成果と課題 ・サマースクールや生活科等では、小坪地域の特色を生かした人材活用を進めることができた。さらに事業の一層の充実を図りたい。 ・小坪音頭、昔遊び、お話し会の方々との交流を深めることができた。今後は担当学年の幅を広げ、内容の充実を図りたい。

【小坪小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	・PDCAのサイクルを確立する ・外部評価委員会の設置を目指していく ☆学校評価委員会の設置・評価結果のとその活用について公開する	・PDCAのサイクルをより短期間にするため工夫改善する ☆学校評価委員会の活用 ☆第三者評価を試行校として実施 ・評価の公開について意見を求める方法を検討する	①視点を明らかにし、重点をしいった学校評価に取り組む ②評価の結果を次年度の活動に生かす
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
		◆第三者評価を次年度に生かしていく	成果と課題 ・今までの学校評価を生かし、重点的に行うことができた。 ・児童と保護者のアンケートに記述部分を設けたことで、職員全体でそれらの意見を把握することができた。 ・評価結果を見るだけでなく学校全体で学校評価に取り組む必要がある。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	・前年度の研究成果の上に「コミュニケーション力の向上を目指す授業」についてさらに共通理解を深め授業実践で検証する ☆外部講師を招き研究を進めると共に、研究の成果を公開する。	・コミュニケーション力の向上が図られているのかどうかの検証の在り方を検討することを通し、研究の総括をする	①校内研究に引き続き取り組み、コミュニケーション力の向上が図られているかどうかの検証する。 ②人権教育の指定研究に取り組む。 ③外部講師の活用を積極的に進行。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		◆評価の日常化をすすめたい	成果と課題 ・授業公開を通し、校内研究における成果が見られた。 ・校内研修を行い、児童に人権感覚を身につけることができるよう授業研究を行い指定研究のねらいに向けて具体的な取り組みができた。 ・外部講師を招聘し他校の様子や研究の進め方について学んだ。 ・コミュニケーション力を育むために、学級を共同体として創り上げる学級経営の工夫にいつそう取り組む事が必要。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	・一斉テストの結果の積み重ねから、テストの適正化について検討する ☆評価規準の見直しと指導要録の評定の検討	・一斉テストの結果を年間指導計画作成に生かす ☆評価規準の作成と指導要録の評定の検討	①参観の視点や協議の観点を明確にした授業研究を行う。 ②児童相互の授業参観を行い、教師と児童が一体となった授業改善に取り組む。 ③外部講師による授業評価の計画的な実施
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	◆評価規準については継続して取り組む	◆児童による授業評価に取り組む	成果と課題 ・年間を通じた取り組みを通して、授業研究方法の充実が図られた。 ・児童相互の授業参観などを通して、児童の主体的な活動を重視する授業づくりが図られた。 ・研究授業の際に指導講評の中でしていただいた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	・以前に作成した地域素材の教材化したものを見直し検討する	・地域素材を生かした授業を試みる	①地域素材活用のために講師を招き研修会を行う。 ②地域教材を使った単元開発に取り組む。 ③わたしたちの小坪風土記を積極的に活用する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した
		◆講師の招聘、郷土資料室の整理活用に取り組む	成果と課題 ・地域素材活用のための地域講師による研修を実施できなかった。 ・地域の特色を生かした新たな単元開発ができた。(矢の根井戸) ・4年生では、副読本として積極的に活用した。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	・現職研修の充実を目指し、校内での伝達講習を積極的に進め、指導力の向上を図る	・前年度に引き続き、現職教員の研修を計画的に行う	①校外の研修への参加を促し、専門的力量的の向上を図る。 ②現職教員の資質を生かした校内研修を計画的に行う。 ③引き続き児童指導に関する研修を行う。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
		◆研修と研究の一体化を目指す	成果と課題 ・計画的な研修が実施できた。 ・長年に渡り継続的に指導を受けている講師による研修は、職員の意欲を喚起する研修になっている。 ・ニーズを把握した研修をいかに実施するかが課題である。



平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①新学習指導要領の完全実施に向け、言語活動の充実を目指した教育課程を編成する。 ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、探求的な学習の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①年間指導計画を見直し、新指導要領で求められている言語活動の充実を意識して改善に努めた。 ②総合的な学習の時間の全体計画を見直し、教員の共通理解を図った。 ・今年度の実践を足跡カリキュラムとして残り改善を積み重ねていくように取り組む。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	* 19年度の取り組みとその成果を踏まえ、指導法の改善を図る。 * 学習評価や学習状況の伝え方を一層工夫し、学習支援に生かしていく。☆特に支援の必要な児童には学習支援日等を設定し、取り組みを進める。	継続 ☆単学級への対応、児童指導支援部との連携を進める。	①少人数指導やチーム・ティーチング、小集団など多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ②指導方法の工夫・改善、ICTの活用を図り、学び合う中で活用し、探求する力を養う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆児童の実態に応じた学習支援について一定の成果が見られたが、児童指導支援部と連携し、よりきめ細かな対応を進める。	課題 ◆児童指導支援体制の充実により支援の必要な児童への対応が進められた。単学級の学年へ多くの教師が関わる体制を一層進める。	成果と課題 ①多様な学習形態を活用し、基礎・基本の定着を図った。 ②教材提示装置等を活用し、自分の考えを発表したり、友だちの考えと自分の考えをつなげて考えたりする学習活動を多く取り入れた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	* 洗い出された学習面の課題を踏まえ、「逗子市読解力向上プラン」をもとに各教科・総合的な学習の時間を通して実践を行う。	継続 ☆新指導要領に示された言語活動の充実を目指す。	①「逗子市読解力向上プラン」に基づき、各教科、総合的な学習の時間等を通じて言語活動の充実を図る。 ②文章や資料を読む機会や自分の意見を述べる機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・調査結果を生かし、新指導要領の目標を意識して学力向上に取り組む。	課題・新指導要領のねらいを踏まえた校内研究の推進により言語活動の充実に向け成果があった。この取り組みを継続する。	成果と課題 ①各教科、総合的な学習の時間等を通じて、自分の考えを伝えることができてきた。 ②資料活用の機会を多く設定し、根拠を明確にして自分の意見をまとめる力の育成をめざした。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 読書活動の推進	* 19年度の内容を一層充実させると共に読書活動につながる教育内容・指導法の改善を図る。 ☆読書指導全体計画を作成する。	* 学校図書館と市立図書館との連携を深めたり、保護者・地域との連携を深めたりしながら、読書活動のネットワークを広げる。	①学校図書館の機能向上のため、蔵書のよりよいデータベース化を調査する。 ②保護者や地域との連携を図りながら、読み聞かせ等、子どもの発達段階に応じた読書活動を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆池子お話し会との連携を強め、読書推進活動の充実を進める。また、保護者との連携を進める。	課題 ◆池子お話し会の活動の他、保護者が朝の時間等に読み聞かせを行うボランティアの活用も進めることができた。継続した取り組みを進める。	成果と課題 ①データベース化の前段階として、蔵書の見直しを行い資料を新しいものに入れ替えるように努めた。理科や社会科・総合的な学習等の調べ学習に活用できるよう、資料がより新しい本を購入したり、複本のある学校に譲ってもらったりし、整備に努めた。 ②ボランティアによる「お話し会」を年間計画に位置づけ、読み聞かせの機会を確保した。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	継続 ☆幼保小中連携を深め、情報交換を密にする	* 引き続き校内児童指導支援体制の充実を図る。 * 幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。	①教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の機動性を高め、また関係機関との連携を推進する。 ②保護者と学校が子どものニーズに対して共通理解を深め、協働して支援の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆教育相談コーディネーターを中心とした組織的取り組みを一層進め、幼保小中連携・外部機関との連携を強化する。	課題 ◆学校運営の大きな柱として支援教育を位置づけ、教育相談コーディネーターを中心に支援体制の充実を継続的に進める。	成果と課題 ①何か問題が起きたとき、外部機関と関連しながら速やかに対処できた。 ②配慮を要する児童について職員で情報を共有するとともに、児童支援のあり方や保護者対応について事例に基づく研修を行った。そのことにより、保護者との連携のあり方を見直し、個人懇談等により連携を深めることができた。 ・6年間の学びの中での児童指導支援のあり方についてさらに研修を深め、学校全体での組織的な児童指導をより充実させていく。

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	* 継続	* 継続	①あいさつ運動を推進し、規律正しい生活の中で基本的な生活習慣の向上を目指す。 ②家庭と連携し、食習慣や家庭学習を含めた生活習慣の確立を目指す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・保健指導・食育を進め、生活習慣改善の努力を続ける。	課題 ・食育への取り組みが進んだ。保護者との連携を密にし、生活習慣改善を行う。	成果と課題 ①あいさつ運動は浸透し、子どもたちもあいさつができるようになってきたので、今後も継続していく。 ②懇談会、PTAの会合等、折に触れ基本的な生活習慣の確立の重要性を保護者に伝え、協力を呼びかけてきた。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	継続 ☆あいさつ運動について年間を通し積極的に進める。	* 20年度までの実践を踏まえ、より豊かな人間関係づくりを目指す取り組みを推進する。 ☆あいさつ運動を継続して積極的に行う。	①道徳教育を、道徳の時間を要して様々な学習活動の中で新学習指導要領の内容を計画的に推進する。 ②体験活動の充実を図り、体験を通した心に響く道徳授業の充実を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆あいさつ運動・ふれあい・たてわり活動の成果を生かし、取り組みの充実を図る。	課題 ◆ふれあい活動の成果が見られた。よりよい人間関係づくりのため取り組みの充実を図る。	成果と課題 ①各教科の学習の中で、計画的に行うことができた。 ②様々な体験活動の中で、心に響き生活に活かされる授業の充実を図っていく。
③ 豊かな体験活動の推進	* 小規模校の特性を活かしたキャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化に触れ合う体験を行う。 * 校内の文化活動、学年間諸行事の交流を進める。	* 20年度までの実践を踏まえ、豊かな体験活動を推進する。	①地域の特性を生かした自然体験や福祉体験学習、勤労体験を充実させ、社会性や協調性を養う。 ②集団宿泊活動を通して、規範意識の向上と、思いやり、信頼関係を高める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・行事実施時期を変更した2年目の取り組み充実を図る。	課題 ◆文科省の芸術家派遣事業等も生かし、体験活動の充実に取り組めた。一層の充実を目指す。	成果と課題 ①地域の教育力を活用し、充実させることができた。 ②キャンプ、修学旅行での5、6年たてわり活動を通し、集団生活のマナーや役割意識を育て、異学年とのふれあいの中で思いやりや信頼関係を育むことができた。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	* 児童の実態から課題を明らかにし、池子小学校の健康教育推進の方向性を検討する。	* 具体的な課題を持って健康教育の推進を図る。 ☆食育の充実を目指した指導計画を作成する。	①健康の基本である食生活をはじめとする食育や、スポーツを通じた体力づくりを計画的に推進する。 ②家庭との連携のもと、発達段階に応じた禁煙・薬物・性教育等の健康教育を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆食育の充実に向けて食育全体計画を作成する。	課題 ◆21年度、食育の充実に向けた取り組みが大きく進んだ。この成果を生かし、全体計画を基に実践を進める。	成果と課題 ①全校で食育に取り組むことができ、共通理解が図れた。今後は家庭と連携して行っていきたい。 ②性教育の全体計画をもとに、発達段階に応じた性教育を実施するとともに、6年生を対象に、薬物防止キャラバンカーでの学習を行った。養護教諭と担任が連携し、禁煙教育を推進した。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	* 防犯教室・不審者対応訓練を行い、児童・教職員の防犯意識を高める。 * 交通安全教室・自転車教室を行い、児童・教職員の安全意識を高める。 * 保護者・地域と連携し、児童の安全確保に取り組む。	継続	①保護者・地域と連携して、交通安全・不審者対応等の防犯に取り組み、また安全教室等を実施する。 ②防災教育・防災訓練を計画的に実施し、また緊急避難所としての施設・備品を整備する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 ・児童も参加する不審者対応訓練を実施し、防犯意識の向上を図る。	課題 ◆今年度進められた不審者対応訓練・サイバー犯罪防止研修・ケイタイ教室等を継続して行い、安全への意識を高める。	成果と課題 ①不審者対策は職員の役割分担を明確にし、訓練できた。来年度は児童の安心安全教室を実施する。 ②消防署等関係機関と連携し、計画的な防災訓練を実施するとともに、職員で校内の防災設備が使えるように研修をすすめた。避難所としての施設・設備を見直し、整備をすすめるよう取り組んだが、予算的な裏付けがなかったため、具体的にはすすんでいない。
② いじめ・不登校等への対応の推進	* 教育相談コーディネーターを中心とした校内児童指導支援体制の確立を図り、組織的取り組みができるようにする。 * 外部機関との連携を進めると共にスクールカウンセラー・うるフレの活用を積極的に進める。 ☆組織的取り組みの一層の充実を図る。	* 校内児童指導支援体制の充実を図る。 * 幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。	①心の教育相談員と情報を共有し、素早い対応を可能にする校内相談体制の改善を図る。 ②子どもたちの実態を正確に把握し、温かい人間関係と人権に配慮した学級・学年経営を目指す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆教育相談コーディネーターを中心とし、外部機関と連携した取り組みを進める。	課題 ◆今年度、長期欠席0の成果を踏まえ、児童指導支援体制の一層の充実を図る。	成果と課題 ①校内の支援体制は充実してきている。今後は現状把握を行い児童理解を図る。 ②児童指導研修会を年3回実施し、配慮を要する児童への指導法を学び、日常の対応についても共通理解を図った。個々の児童の状況について実態の捉えにばらつきがあったが、研修を深めることでより、正確な捉えができるようになった。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	* 小中連携について、できる内容から取り組みを進める。 ☆校長が逗子中学校評議員・学校評価委員として参加する。	* 小中の効果的連携を考え、教職員の交流やカリキュラムの工夫・改善を検討する。 ☆小中連携担当者会の活動充実を図り、連携を具体化する。	①個人情報の保護に十分配慮しつつ、幼保小中の連携を進め、学校生活の安心安全の向上を図る。 ②小中連携では、体育や外国語活動、行事等で交流を推進する中で、中1ギャップの解消を目指す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆逗子中との小中連携担当者会を通し、よりよい連携の在り方を検討する。	課題 ◆小中の教職員の交流や授業・行事を通じた交流を進める。	成果と課題 ①入学予定の児童が在園する幼稚園・保育園をほぼ全園訪問し、児童観察や保育士との情報交換を行い、指導の継続を図った。 ②6年生の中学校訪問を実施し、授業や部活の見学を行った。
④ 国際教育の推進	* 英語教育在り方検討委員会の成果と課題を踏まえ、池子小学校としての国際理解教育の方向を明確にする。 ☆新指導要領に位置づけられた英語活動に向け、取り組みを行う。	* 国際理解教育の年間指導計画作成を行い、実践化する。 ☆指導要領移行期間の英語活動充実に取り組む。	・異文化の理解では、外国語活動の授業の充実や池子ヒルズとの交流等を推進する。 ・IEAの活用を広げ、また学校行事等に地域の外国の方や海外生活経験のある方との交流を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 ◆今年度の実践を踏まえ、指導要領移行期間の英語活動に取り組む。	課題 ◆授業実践を一層進め、新指導要領本格実施に向け、取り組みを進める。	成果と課題 ①池子ヒルズのフィールドデーに参加するなど、交流の推進を図ることができた。 ②IEAの活用を広げ、各学年での国際理解の学習を充実させることができた。総合的な学習の中で、保護者に海外生活経験の豊富な方から情報を提供していただくことはできたが、交流までには広げることができなかった。
⑤ キャリア教育の推進	* 児童の発達段階に応じたキャリア教育の視点を教科・総合的な学習の内容に入れながら実践する。 ☆キャリア教育に関わる研修等に参加し、理解を深める。	継続	①子どもの発達段階に応じて、自己の生き方についての学習を、体験活動を取り入れる等、改善を図る。 ②保護者や地域の協力を得て、調べ学習や体験学習の改善を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・研修への積極的参加を促し、実践に向けて取り組む。	課題 ・キャリア教育の視点を学習内容に取り入れた実践を行う。	成果と課題 ①4年での「二分の一成人式」、5年での「高齢者との関わり」、6年での「卒業」等の体験的活動を通して自己の生き方について考えることができた。 ②理科ハウス、ゆめクラブ、高齢者センター等、地域で活躍している方々の協力を得て、調べ学習や体験学習が充実した。

【池子小学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	☆学校支援ボランティアの積極的活用を進め、福祉教育の充実を図る。	継続	①市の社会福祉協議会等の機関と連携を図り、発達段階に応じた体験的な福祉教育を実施する。 ②NPOなどの外部団体や保護者と連携し、発達段階に配慮した福祉教育・人権教育を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆学習支援ボランティアを活用を一層進め、取り組みの充実を図る。	課題 ◆学校支援地域本部事業の活性化を図り、ボランティアの活用を一層進める。	成果と課題 ①社会福祉協議会に相談し、高齢者福祉に視点を当てた単元開発を行うことができた。 ②福祉教育のねらいに沿って発達段階に応じた体験的活動が実践できた。来年度は低・中・高2学年ずつのスパンで系統立てた教育活動ができるよう、方向を持たせていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	*教科・総合的な学習の時間・特別活動を通して環境教育を進める中で、よりよい環境づくりの課題を探る。	*課題に基づき環境教育を進めると共にその成果を地域に発信する活動を検討する。 ☆逗子市の施策を環境教育に生かす。	①教職員が環境について研修し、共通理解を持ち、児童の発達段階に応じて計画的に環境教育を推進する。 ②環境に関係する外部機関と連携し、体験的な環境教育を目指す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・次年度、グリーンカーテン事業、生ゴミ処理機設置等を環境教育に生かす。	課題 ・今年度の取り組みを継続し、児童の環境への意識を高める活動を行う。	成果と課題 4年生での環境に関わる調べ学習や発表等を中心に取り組むことが学校全体で共有され、継続されている。また、4年生の環境学習に教員も参加し、研修を深めることができた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	*発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器の活用能力育成を行う。 *情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行う。	*発達段階に応じた情報機器の活用を行う。 *情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うと共に情報モラルの育成も図る。	①あふれる情報を取捨選択し、正しく利用する能力を養うとともに、情報の発信者としてのモラルの育成を図る。 ②情報リテラシーの育成とともに、教員も積極的にICTを活用した授業に取り組む。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 ・整備されたPC環境を活用し、情報活用能力の育成を進める。	課題 ・情報リテラシーの育成を目指し、取り組みを充実させる。	成果と課題 ①児童の発達段階に応じたICTの活用をすすめる、情報活用のモラルについても指導している。 ②ICT活用にばらつきがあるので、研修をさらに充実させることと、授業で活用しやすい環境の整備が課題である。ハード面では充実してきたが、校内ランが未整備のため、教室での活用がしにくく、その面での改善は学校単位では困難であった。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	*学校だよりやホームページ等を通して、学校の情報を広く伝える。 *定期的な授業参観日・学校へ行こう週間・休日参観を通して、学校の様子を保護者・地域に公開する。	継続 ☆ホームページ・学校だよりの一層の充実を図る。	①学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域と課題を共有することで学校運営の充実を図る。 ②個人情報の保護に十分配慮しつつ、学校だよりやホームページで情報の発信を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆学校よりの情報発信・情報提供の充実が図られた。次年度は、一層の取り組みを進める。	課題 ◆ホームページ・学校だより・学級だよりの充実を図る。	成果と課題 ①「学校へ行こう週間」に学校説明会を実施し、地域や保護者に対して、学校の教育活動を知らせる機会を増やした。 ②さらに、情報の内容の充実を図っていく。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	*学校支援ボランティアの積極的活用を図る。 *学校の行事、地域の行事等を通して教職員と保護者・地域との円滑なコミュニケーションの推進を図る。 ☆学校地域連携活性化委託を申請し、地域教育力の活用を進める。	継続 *地域に提供できる学校資源の整理・発掘を行い、地域との一層の連携を検討する。 ☆学校支援地域本部立ち上げへの取り組みを行う。	①地域コーディネーターを中心に、学校支援地域本部と連携を図り、学校教育の一層の充実を目指す。 ②保護者や地域にボランティア登録をすすめる、学校支援地域本部のネットワークづくりを推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆学校地域連携活性化事業の成果を踏まえ、地域教育力の活用を進める。	課題 ◆立ち上げた学校支援地域本部事業の充実を図る。	成果と課題 ①学校支援地域本部で、草刈り、塗装など学校の環境整備に積極的に協力していただいた。 ②学校支援地域本部の呼びかけで、地域の人材活用がすすんだ。 ・学校支援地域本部の実働化を図る。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	* 学校評価を学校運営に生かすと共に保護者・地域に積極的に情報発信する。 ☆学校評価委員会よりの意見・報告を学校運営に生かす。	継続 ☆学校評価委員会の活動を生かした学校評価を進め、学校運営の改善を図る。	①学校評価の項目や方法を改善し、自校の分析を行い、学校改善の効果を高める。 ②学校評価を生かして改善点を把握し、教育条件の整備を行い、それを保護者・地域に発信していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆今年度より行われた学校評価委員会での成果を踏まえ、学校評価を学校運営に生かす取り組みを進める。	課題 ◆学校関係者評価委員会と学校評議員会を整理し、より学校運営に有効な活動を検討する。	成果と課題 ①アンケートの項目や評価方法を検討し、改善を加えた。まだ分析が不十分であるので、さらに精度の高いアンケートの内容を検討していく。 ②評価の結果をもとに、職員間で今後の課題を共有すると共に、学校だよりで地域・保護者にも周知した。今年度より、地域のアンケートも実施し、その結果を学校支援地域本部等を通して発信し、主に環境整備面で地域の協力を得ることができた。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	* 研究テーマに迫るため、校内授業研究を活性化し、「わかる」「楽しい」学習の創造を目指す。(☆授業研究推進委託を受け、研究に取り組む。) * 教員の世代間交流を通して教員の資質・力量の向上を図る。	* 20年度までの成果と課題を踏まえ、より質の高い授業研究に取り組む。 * 市内外の研究協力者・講師を招き、充実した研究会を計画する。 ☆新指導要領のねらいを踏まえたテーマで研究を進める。	①学習指導案の事前研究、研究授業を実施、研究協議の方法の改善など、校内研究の充実を図る。 ②外部講師を招いて校内研究の内容の向上を図り、教員の授業力の向上を目指す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆新指導要領のねらいを踏まえ、研究テーマ「子ども同士が学び合う学習の創造」を追究する。	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえた授業研究を進め、学力向上及び教員の指導力向上を図る。	成果と課題 ①課題が明確になった。 ②ブロックでの研究体制が充実し、各学年とも年1回の研究 ②授業を実施し、講師の指導を受けながら授業力の向上をめざした。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	* 校内研究で作成された評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し・検討を行う。 * 授業分析を重ねながら、指導と評価の一体化を目指して授業改善に取り組む。	継続 ☆新指導要領を踏まえ、評価規準の検討を進める。	①授業評価を教員同士だけでなく保護者・地域にも依頼し、数値化して分析する等により授業改善を図る。 ②授業評価に対する教員の共通理解を深め、また評価項目・方法も改善していくことで、精度の向上を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成できなかった
	課題 ◆新指導要領のねらいを踏まえ、評価規準見直しを行うと共に授業分析を充実させる。	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえ、評価基準を検討すると共に授業評価に生かす。	成果と課題 ・授業評価に対する共通理解が不十分だった。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	* 地域素材を取り入れた授業研究を行い、教育課程への位置づけを検討する。(☆湘三教育課程研究会提案を地域素材で行う。) * 地域素材の掘り起こしを行う。 * 郷土資料室の整備・活用を進める。	* 地域素材を取り入れた授業研究を通し、教師の指導力向上を目指す。 * 各学校で開発した地域教材を共有財産とする取り組みを検討する。 ☆特色ある学校づくり事業において郷土資料室整備・活用を進める。	①地域素材・教材を取り入れた授業を推進する。 ②郷土資料室・地域の郷土資料館、児童用副読本を活用した授業を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆特色ある学校づくり事業において、郷土資料室整備と活用を進める。	課題 ◆今年度、郷土資料室の整備・活用を進めることができた。地域素材・郷土資料を生かした実践の推進を図る。	成果と課題 ①地域の公園での学習活動を計画したり、地域の高齢者施設を訪ねたりするなど、地域の素材を活用した単元開発をすすめた。 ②池子資料館の見学や、本校の郷土資料室を活用した授業を実施した。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	* 初任研・年次経験者研修において教職員の協力体制を作り、研修指導に当たる。 * 校内及び校外の研修会・研究会への参加を促進する。 * 年間計画の中に校内研修会を位置づける。	継続	①自主的な教員研修が行われるよう、時間の確保や機材等、環境の整備を図る。 ②学校内において、OJTを組織的に推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・校内研修会の内容を充実させ、学習指導に生かす取り組みを進める。	課題 ◆研究所や外部機関と連携した質の高い研修を行い、教員の指導力向上に生かす。	成果と課題 ①研修時間を確保できた。充実に向け、さらに環境整備を図る。 ②初任者に対し、学校全体で指導、支援していく体制がとられている。

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①教科毎、学年毎の年間指導計画・評価計画を作成する。 ②単元や題材、単位時間毎の具体的な評価方法・場面を設定する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ・新学習指導要領完全実施をふまえた年間指導計画、および評価計画を作成した。 ・新学習指導要領完全実施にともなう、単元ごとの評価方法の検討など、教科会を中心に取り組むことができた ・新指導要領実施に伴う、指導計画評価計画の変更を次年度中に行う。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	H20(2008)年度取組内容 少人数指導の工夫改善 生徒を励ます評価と実践 授業力の向上の研修と長期休業期間の有効活用	H21(2009)年度取組内容 少人数指導の充実 ☆学習支援シートを活用した評価の充実 ☆授業力の向上の研修・研究と子どもが主体的に学習を進めているような学習環境整備	H22(2010)年度取組内容 ①指導法の工夫改善を図り、基礎・基本や自ら学び考える力、読解力を育成していく。 ②学習支援シート(個人学習カルテ)を作成し、教科相談等の診断的支援体制を確立していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・少人数指導の一層の工夫改善 ・学習支援シートによるきめ細かい評価 ・生徒の意欲を引き出し考える授業の創造 ・夏季休業中の補習(逗子中oasis)の改善と教科相談の充実	課題・少人数指導のさらなる充実 ・学習支援シートを改善し、教科指導 教育相談に役立てる ・生徒の意欲の深化を図る。	成果と課題 ・校内研究会や研究授業を通して、基礎・基本の深化や自ら学び考える力、読解力の育成を目指した授業の充実に取り組んだ ・学習支援シートの更なる有効活用について、担当部会を中心に話し合いを進め、23年度は教科相談の充実を目指している ・言語活動の充実についてさらなる研究を深めていく
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	H20(2008)年度取組内容 文字文化の奨励の継続 横浜中との連携・研究 音読活動の重視 NIE(教育に新聞を)活動の研究と実践	H21(2009)年度取組内容 文字文化の奨励・発展 横浜中との連携・継続研究 音読活動の重視の継続 NIE活動の充実	H22(2010)年度取組内容 ①文章や資料などを正しく理解し、自分で判断し、評価しながら読みとる力を高める取り組みを進めていく。 ②文章や資料に基づいて論理的に考えを進めた後、自分の考えを書いたり、発信したりする力を高める取り組みを進めていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 音読活動とNIEについては「言語活動の重視」と関連して計画。	課題・言語活動との結びつきをさらに深めていく。	成果と課題 ・各教科の中で言語活動の充実を図るために、特に文章や資料を正しく読み取り、課題解決型の授業実践を推進していくことができた。生徒はその到達度を、自分と他者とを評価することによって、お互いの理解力や判断力を高め合っていくことができた ・学年ごとの総合的な学習の取り組みの中で、行事の個人研究発表について、自己表現活動の充実につとめることができた ・教科指導だけではなく教科外での活動も含めて実施していく
④ 読書活動の推進	H20(2008)年度取組内容 逗子中学校読書基本計画の実施 朝読書の継続 読み聞かせなどの工夫 集団読書の実践	H21(2009)年度取組内容 ☆逗子中学校読書基本計画の継続実施 朝読書の継続 読み聞かせなどの工夫 集団読書の充実	H22(2010)年度取組内容 ①学校図書館指導員(司書免許所有者)の活用と連携の方法を検討していく。 ②一人ひとりの読書量を増やすため、朝読書や教職員による読み聞かせを実践していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・図書館の蔵書1万冊のデータベース化を終え、学習への活用が求められる。	課題・教科での図書館利用の促進を通して計画的な利用を図る。	成果と課題 ・学校図書館指導員、司書免許所有者が中心となって委員会活動の充実(特に意識調査としてアンケートをとった)を図り、読書の楽しさを促した。 ・朝読書期間に、CDを使った読み聞かせの工夫を実践してみた。 ・生徒の読書をサポートする活動を充実させていく。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	H20(2008)年度取組内容 支援体制の改善 教育相談・ケース会議の機能強化 補習体制の改善 学習支援シートの改善・活用	H21(2009)年度取組内容 ☆支援体制の強化・見直し 教育相談・ケース会議の見直し 補習体制の見直し ☆学習支援シートの活用	H22(2010)年度取組内容 ①校内支援体制の構築に向けて、教育相談コーディネーター中心に個に応じた課題の共通理解を図り、解決に向けての手だてを工夫していく。 ②支援教育推進校として市内での情報提供していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・支援教育委員会を中心とした外部ネットワークづくりとケース会議の充実。 ・一次的援助サービスの視点に立った授業の工夫。	課題・支援教育委員会を中心として校内と校外を連携をすすめていく。	成果と課題 ・教育相談コーディネーターが全クラスの中から、支援を必要とする生徒に目を向け、個に応じた指導というものについて追及し、チームティーチングや取り出し授業などの方途を尽くした。 ・校内支援体制の基盤を確立し、個に応じた指導を追求していくことができた。具体的な成果を得たり、組織運営を進めたりしながら、その経過や結果について、教育相談コーディネーター担当者会を通じ、推進校として他校への情報提供を行ない、年度末には本校としてのまとめを発表することができた ・校内支援体制を確立させ、早い段階からの支援ができるようにしていく。

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	☆基本的な生活習慣についての地域連携・協働の模索 新標準服導入一年目	☆基本的な生活習慣についての地域連携・協働の実践 新標準服導入二年目	①学校でのきまりや暮らし方について、子どもたちの実態や発達段階に応じた計画的な指導をする。 ②学校便り・保健便り・給食便り等で積極的に学校から、家庭に向けて情報発信する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ・保護者、地域への協力の呼びかけが必要	課題・◆地域との協働により生徒の基本的な生活習慣について改善する。	成果と課題 ・学級指導を基本とし、必要に応じて学年・学校の臨時集会を持つことにより、生徒の心身の安全保持や学校生活の充実が図れるようにつとめた。年間計画における学校・学年行事の中で、各ねらいに迫るための心構えや努力・工夫点などを、集団生活を営む中で培っていきべき生きる力として、年間を通じて取り扱うことができた。 ・学校だより、学年だより、学級だより等を通じて、保護者・地域への情報発信につとめたが、メール配信については、今後の課題とする必要がある ・学校から家庭に向けた情報が家庭に届かないことが多い。 この点を改善していきたい。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	道徳の時間の工夫 家庭・地域との連携 逗子中あいさつ一新運動 人権学習実施	道徳の時間の工夫 家庭・地域との連携 逗子中あいさつ一新運動 人権学習実施	①全校道徳等、道徳の時間の工夫をする。 ②学校支援地域本部の協力による、地域人材活用による授業実践を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できていない
	課題 全校道徳の充実 ・生徒会を中心とした挨拶運動及び地域への波及	課題・地域講師による全校道徳を定期開催する。	成果と課題 ・学校の特色の一つとして、全校道徳の存在と価値が定着してきている。 ・今後の大きな課題点として受けとめている。 ・学校支援地域本部の協力による地域人材が学校のニーズと合わない場面があったので改善していきたい。
③ 豊かな体験活動の推進	自然体験活動の充実 福祉体験活動の充実 職場体験活動の充実 交流体験活動の充実 防災体験活動の充実	自然体験活動の見直し 福祉体験活動の見直し 職場体験活動の見直し 交流体験活動の見直し 防災体験活動の見直し	①逗子の豊かで恵まれた自然にふれるとともに、自然のすばらしさや大切さを学ぶ自然体験学習を実施していく。 ②発達段階に応じた勤労体験(職業体験)に取り組み、働くことや学ぶことの意義についての学習を進めていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	課題 ・単発に終わらない継続的な取組の必要性	課題・◆新教育課程実施に伴う体験活動を見直す。	成果と課題 ・逗子市内における自然体験については十分にできなかった。しかし、二年生における自然体験学習においては、年々、生徒の興味・関心を重んじた内容の充実と工夫が成されるようになってきた。その興味・関心の視点は、その地域ならではの自然の素晴らしさや価値として、課題解決型の取り組み方で進められている。それは事前調査(調べ学習)に始まって、実地調査といった学習経緯の末に、事後学習である実証結果として研究発表が行なわれ、充実した行事として定着してきている。 ・保護者・地域の協力により、選択幅の広い職業体験学習を行うことができた ・体験的な学習の回数が増やせるような工夫を行っていく。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	☆食育全体計画立案 ☆イキイキスクールの立案 ☆3033運動の立案 救命・救急法講習会実施	☆食育全体計画の実施 イキイキスクールの推進 ☆体力づくり運動の実施 救命・救急法講習会実施	①体力づくり、健康教育を授業や行事の中で実践していく。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用による食育の体系化を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 3033運動と体力づくり運動を関連付けた計画化	課題・◆食育全体計画による食育指導の実施 救命救急法講習会の実施	成果と課題 ・学年ごとに健康教育のテーマを年間計画の中で設定して、具体的には一年生たばこの害、二年生薬物乱用防止、三年生エイズの正しい理解と予防につき、講師を招いて授業が行なわれている。 ・食育の取り組みについては総合的学習や特別活動の自然体験学習でおこなうことが多いので本校の学校支援地域本部との関連をつけるようにしていく。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～	防犯と不審者対策の強化 CAP(子ども暴力防止プログラム)の実施 ☆地域防災への参画(準備) 防災体験学習の実施 登下校指導(逗子高と連携)の発展 安全点検日の充実	防犯と不審者対策の強化 CAPの実施 地域防災への参画・訓練 校外防災体験学習の実施 登下校指導(逗子高と連携)の発展 安全点検日の充実	①不審者対策・防災教育の強化を推進していく。 ②地域連携による防災強化を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・地域防災への参画は継続課題。	課題・地域防災行事への参加体制の確立	成果と課題 ・CAP、携帯電話教室など、入学時において情報モラルの基盤を培うことは、大変意義のある取り組みとして定着が図られてきている。 ・従来の防災計画につき、津波対策を含めた訓練を実施し、火災・地震・津波・風水害を含めた避難所運営訓練への生徒参加が実現した。 ・池子地区避難所運営訓練に生徒を参加させていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	人権学習 不登校の予防と早期対応 行事を利用した人間関係づくり	人権学習 不登校の予防と早期対応 行事を利用した人間関係づくり	①スクールカウンセラー・うるおいフレンド(心の教室相談員)を活用し、組織的に校内相談体制の確立を図る。 ②保護者と学校が子どもの支援ニーズに対する共通理解を図り、協働して支援していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・学校体制整備による不登校対応の必要性。	課題・不登校生徒や保護者に手厚く接する。	成果と課題 ・教育相談コーディネーター、SC、うるおいを中心とした校内相談・支援態勢が確立されている。 ・生徒への支援態勢として、そのニーズに応えられるよう外部機関との連携も、組織的な機能を果たすようになってきた。 ・外部機関とも積極的に連携していきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	出前授業の拡大 学区内の小中教職員の親睦会 部活交流の計画・実践(中高)	☆出前授業の拡大 学区内の小中教職員の交流 ☆小中連携担当者会の継続開催 ☆中高連携担当者会の定期開催 部活交流の計画・実践(中高)	①小学校と中学校間では、「体育」や「保健体育」、「外国語活動」や「国際教育」などを活用した授業や行事などの交流を推進していく。 ②小学校・中学校の連携では、教職員の授業等における交流や9年間を見通したカリキュラムの共同研修などの工夫・改善をしていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題・小学校との連携担当者会の継続。 ・逗子高校との定期的な担当者会の開催。	課題・小学校への出前授業を深化させる。 ・連携担当者会を定期的に開催する。 ・部活動の交流の実施	成果と課題 ・小学校との連携は出前授業や授業参観を通じて行なわれてきているが、情報提供という観点や年間計画の中での計画的実施という点では、今後の課題点の一つとして考えていく必要がある。 ・学区の小学校との、教職員の交流や共同研修については、時期的な接点というものを見出して調整していく必要がある。 ・各学校との連絡会を年間計画の中に入れて計画的に実施する。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 国際教育の推進	☆IEA(国際理解教育助手)、地域講師による授業 異文化理解・教材開発	☆IEA、地域講師による計画的な授業 異文化理解・教材開発	①異文化を理解し、多文化と共生するために、英語科の授業を通して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。 ②IEAの効果的な活用を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・IEAによる国際理解レポートの作成は終了したので、それを活用した授業が求められる。	課題・IEAによる教材作成をおこなった授業	成果と課題 ・英語科を中心に異文化理解の浸透を図り、豊かなコミュニケーション活動のもとに、プレゼン能力の向上につとめることができた。 ・様々な資料提示のもとに、IEAによる異文化理解への効果的な働きかけが顕著に行なわれた。 ・国際教育の推進のために他教科でも活用がはかれるようにする。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	地域講師による授業 職場体験活動の充実 自己理解・職業学習 進路選択・決定	☆地域講師による計画的な授業 職場体験活動地域の拡大 自己理解・職業学習 進路選択・決定	①職業体験学習を実施することで、将来のビジョンを描かせる。 ②学校行事・生徒会活動を利用し、社会性や集団性を育成していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題・地域講師を活用した計画的なキャリア教育	課題・キャリア教育のプログラム化をおこない、実施する。	成果と課題 ・二年生で職業体験学習を行うことにより、自己の将来について見つめる機会を得ることができた。 ・集団形成の意義や価値は、学校生活や生徒会活動を通じて得られるものの、社会性を身につけさせるためには、三年間をより見通した立案が必要だと考える。 ・公立高校選抜改革についても早めの対応を図れるようにしたい。



行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	福祉体験学習(小学校との連携) 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流	福祉体験学習の充実(小学校との連携) 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流	①福祉体験学習を実施する。 ②福祉の理解を深め、思いやりの心の育成していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・総合的な学習の時間の3年間を見通した計画に入れる。	課題・福祉体験学習と総合的な学習の時間のリンクをはかる。	成果と課題 ・三年生の卒業前に計画され、点字、手話、車いす、その他の福祉疑似体験学習が生徒の興味・関心を中心に、分野別選択で取り組むことができた。系統的に三年間を見通して、どの学年でどんな体験学習が望ましいか、そこをどこを検討していくことが今後の課題である(例…1年 高齢者介護体験、2年 視覚・聴覚障がい者の介護体験、3年疑似体験など)。 ・ねらいに即した取り組みができていないもの、その心の一般化、および実践化というねらいの深化を求めると、更なる内容の工夫と充実が求められる。 ・体験を通して、考えて行動する力を生徒に育成したい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	逗子市学校版環境ISO 取得準備計画実施	逗子市学校版環境ISO取得 ☆「虫の里づくり」運動の取組	①生徒会活動でホテルの里づくりの推進 ②牛乳パックリサイクルの実践を通して、環境教育の視点を明確化
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題・生徒会を中心とした取組の継続。	課題・学校地域支援本部と生徒会を中心とした生徒全員での取り組みとする。	成果と課題 ・まだまだ受け身的ではあるが、生態系の縮図について理解できるようになり、次に果たすべきことに興味・関心を持てるようになった。 ・牛乳パックのリサイクルについては、リサイクルに関する情報提供が少なく、なかなか意識が高まっていない。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進	情報モラルカリキュラムの見直し 教科センターへのLAN(ローカルエリアネットワーク)配線 情報活用能力の育成 (映像を活用したプレゼンテーションの推進)	情報モラルの推進 普通教室へのLAN配線 情報活用能力の充実(映像を活用したプレゼンテーションの充実)	映像を活用したプレゼンテーションを取り入れた授業を実践し、情報活用能力の育成を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) 達成した
	課題・ノートPCの保護者、地域からの提供を促す。	課題・映像を使ったプレゼンテーション能力を育成する。	成果と課題 ・発達段階に応じて、プレゼンテーション能力を育成し、深化させることができた。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	情報交換会・懇談会の充実 もてなしの心で迎える工夫 個人情報保護法研修会	HPIに「保護者の声コーナー」の設置 学校へ行こう週間の充実 個人情報保護の基本方針の検討 保護に関する規定の検討	①毎月初日の「学校公開日」を設定し、家庭・地域との連携を図っていく。 ②研究授業の保護者・地域への公開を実施する。 ③情報を積極的に発信していくために学校便りの工夫:目に見える教育活動の実施につとめていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成できなかった ③達成した
	課題・個人情報保護についての理解とリスク管理の一層の徹底。	課題・個人情報について、教職員だけではなく生徒保護者にとっても理解を深めていく。	成果と課題 ・以前から、その定着は十分に図られているものの、実際の来校者がいない状態が続いているため、その数を増やしたり実働を働きかけたりする、具体的な手立ての工夫は必要だと考える。 ・学校・学年だより等を通じて発信は試みているものの、実際の校数となると極めて限られた数や顔ぶれとなっているのが現状である。 ・学校・学年だよりはもとより、メール配信も利用したりする中で、教育活動の公開や広報活動について、リアルタイムに発信できる体制作りができていく。 ・学校公開日の参加者を増やすようにしたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～	職場体験活動の拡充検討 自治会との合同地域清掃 書初め・健康教育 コーディネーターの創設 ボランティア人数の拡充	職業体験の年間拡散型への検討 避難訓練での消防署による消火活動実施 ボランティアとともに創る図書室のコーディネーター	①地域の担い手としての生徒の育成を図っていく。 ②学校関係者評価委員・学校評議員・PTA・役員との連携を強化させる。 ③学校支援地域本部における、地域コーディネーターの役割の明確化していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
	課題・逗子中学校支援地域本部の設置。	課題・学校支援地域本部を活用した取り組みをおこなう	成果と課題 ・地域に根ざす存在感や、地域の担い手を意識した学校生活を送らせてきた。 ・いずれの会もその充実を図る中で、学校の教育活動の中に活かされていた。 ・池子地区の青少年育成団体が解散してしまったので池子地区に根付いたコーディネーターをお願いできるようにしたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	市内中学校との評価評定交流会 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表 ☆学校関係者評価の導入	横浜中との評価研究会 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表 (学校関係者評価の実施)	学校目標との関連を明確にしつつ、評価項目を設定して評価のポイントを絞り、自己評価に基づいた学校関係者評価を生かし、具体的な学校改善を行うとともに、開かれた学校づくりの推進を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) 達成した
	課題・異校種間連携を視点とした学校評価の可能性を追求する。	課題・異校種間連携を行いながら、学校評価を進められるようにしていく。	成果と課題 ・学校目標と評価項目との関連で、学校運営の中へ具体的に活かし、開かれた学校づくりを目指すことができた。

③ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	テーマ別研究授業(少人数) ☆横浜中との授業交流(横中と逗中) 学校研究の中間発表 (少人数学級研究、他)	テーマ別研究授業(教材教具) 横浜中との評価研究会 学校研究の発表会(研究紀要)	①研究授業の積極的実践(1人年2回)を実施していく。 ②保護者・外部者による授業評価を実施していく。 ③教科会の充実を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題・校内研究(テーマ「学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業」)の発表。	課題・研究発表会の実施を通してわかった課題を次年度に生かす	成果と課題 ・前期・後期で各一回の研究授業において、指導案に自分が授業者としての考えをまとめることは、とても深い意義を感じている。 ・授業参観や学校公開日が中心となるが、授業評価についてその項目内容を精選していけると、今後更に活かせるものになっていくものと考えている。 ・毎週一時間の教科会が時間割の中で保証されており、それぞれが目的意識をもった会の運営がなされると、有効で能率的な授業改善につながっていくものと考えている。 ・授業評価を通じて授業改善につなげていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用	学習サイクルの定着 授業評価シートの研究	学習サイクルについての学習会 授業評価シートを活用した研究授業の実践	①多様な観点から授業評価を行い、評価の幅や精度の向上を図っていく。 ②「生徒による授業評価」と「教員相互による授業評価」から、視点や観点を明確にし、授業研究の充実を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・学習の振り返りの一層の推進。	課題・全職員の授業評価や学習支援シートの効果的な利用	成果と課題 ・各教科とも三人体制が主流であるが、特に少人数担当者同士では、授業案の検討や実践例の工夫を話し合うことができていない。 ・授業は、授業者と生徒の双方の協力により創られ、その充実が図れることをお互いが十分な認識のもとに、授業評価結果を活かそうとしている。 ・教科会を通じて研究授業の事前研究会事後研究会を実施させていきたい。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	地域素材の発掘・蓄積 田越川支流の教材化	☆地域環境の教材化とその授業実践	①地域教材のデジタル化を推進していく。 ②地域素材発掘のため、講師を招き研修会の実施していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題・フィールドワークの実施から教材化への過程にある。	課題・地域素材の教材化について対象学年を絞り込む	成果と課題 ・豊かな自然環境に囲まれた立地条件下にある本校では、一年生の理科教材作りとして、植物や虫の生息状況や生態系の変化を観察してきた経緯がある。その結果、「ホタルの里づくり」と「珍しい野鳥」についてのデジタル資料づくりが始まっている。 ・地域素材の講師を招いての研修を行えなかった。なかなか適した講師を見つけることができない。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実	校内講師の発掘 ☆横浜中との授業交流(横中と逗中) 研修情報の意見交換会	校内講師による研修会 評価評定意見交流会 研修情報のデータベース化(共有フォルダ)	①校内研修会を通して、研修参加時の報告の共有化を図っていく。 ②研修・研究会・担当者会等へ積極的に参加するよう、教職員の意識の高揚を図っていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題・研修会の還流は図ったが、校内講師による指導技術の継承を計画的に行う。	課題・研修会や担当者会での内容を共有化を図る	成果と課題 ・月一度の顔合わせであるが、全体主題を達成させるために、四つの分野に分かれて基盤になる研究がすすめられ、実践的な方法が話し合われている。 ・希望参加の研究会については、グループウェアを使って能率よく紹介・提示をすることになっている。 ・グループウェアを利用して研修会などで配られた資料を共有化し素材として利用できるようにする。

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み			①数学・理科に加え、他教科に関しても可能な範囲で授業時数を増加する。 ②学習指導要領の総則や道徳、総合的な学習の時間、特別活動については新学習指導要領の規定を着実に実施する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
			成果と課題 ①については英語・保健体育・社会も一部の学年で実施できた。 ②については全職員で研修を行い認識・確認ができた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	①学習調査から課題を分析し、指導方法の工夫・改善をする。 ②少人数・習熟度別指導、TTなどの指導方法の工夫・改善を研究する。 ③個人用のカルテを検討、試行する。 ④放課後の補習、学習相談の試行をする。 ☆評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。	①指導方法の工夫・改善を継続する。 ②理科の1年生一部のTT授業の実施をする。 ③個人用のカルテを活用する。 ④放課後の補習、学習相談を実施する。 ☆評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。	①指導法の工夫改善を図る。 ②少人数指導での習熟度別指導の充実と成果の明確化。 ③個人カルテの利用の推進。 ④補習体制の充実。＝長期休業中及び日常的な実施の工夫 ⑤英検・数検・漢検等への積極的な支援。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した ④ 達成した ⑤ 達成した
	課題 ・放課後の補習を計画的に行う必要がある。	課題 ・日常的及び長期休業中の計画的な補習体制が必要である。 ・更なる指導法の工夫と改善が必要である。	成果と課題 ①・②については授業のユニバーサル化を含めて更に推進していく。 ③については⑤の支援教育と連携して更に推進していく。 ④については実施方法を見直し推進していく。 ⑤については補習を含め推進していく。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 「読解力」向上の取り組みの推進	①読解力向上検討委員会で各学習調査の課題を分析する。 ②「読解力向上プラン」をもとに各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践を検討する。 ☆一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす	①「読解力向上プラン」をもとにした各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践をする。 ☆一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす。	①国語科を始めとし各教科、総合的な学習の時間を通じて言語活動の充実を図る。 ②様々な文章や資料を読む機会や、自分で意見を述べたりする機会を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆新指導要領になり読解力向上のための取り組みを教科指導の中でどのように生かすか検討する。	課題 ・全教科において言語活動の充実を実践できる授業実践が必要である。	成果と課題 ①・②については道徳・総合的な学習の時間・各教科の学習の中にテーマについて班で話し合う環境作りを行った。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 読書活動の推進	①日課の工夫を含め朝読書の充実した定着化、PTAと図書委員会との共同活動を試行する。 ②授業での図書室利用を含めた読書活動の実施をする。 ③読書記録カードの充実をめざす。 ☆地域やPTA等を活用した読み聞かせを実施する。	①PTAと図書委員会との共同活動の定着化を図る。 ②授業での図書室利用を含めた読書活動の充実をめざす。 ③読書記録カードの活用をめざす。 ☆地域やPTA等を活用した読み聞かせを実施する。	①学習情報センターとしての学校図書館の機能を高める。 ②学校図書館指導員、学校支援ボランティアを活用し学校図書館の機能を活性化させる。 ③朝の読書を推進する。(全職員による読み聞かせを取り入れる)
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した
	課題 ◆地域やPTAを利用した読み聞かせを計画的に行う事ができなかった。	課題 ・学校支援ボランティアやPTAを活用し学校図書館の機能を活性化し、読書の推進をすすめる。	成果と課題 ①については総合的な学習との連携を持ち生徒が調べ学習がしやすい環境作りを行った。 ②については学校支援ボランティアとの連携ができなかった。 ③については担任以外の教職員がクラスを回り読み聞かせにも取り組んだ。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進	①教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ③個人用カルテの活用を試行する。 ④支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。	①教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ③個人用カルテの活用をする。 ④支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。 ☆学校全体で教育支援の取り組みをする。	①生徒の正しい見立てに基づき、一人ひとりの生徒の状況に応じた支援方法、指導法、指導体制の研究を進める。 ②生徒が安心して学べる学習集団を形成するとともに生徒が授業に意欲的に参加でき「わかった」と思える授業づくりを進める。 ③学校支援地域本部などとの連携を進め、学校支援ボランティアの協力を得る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 ・教育コーディネーターの後追いの県費非常勤も配属され推進できたが、さらなる研修が必要である。	課題 ・生徒の正しい見立て方、状況に応じた支援・指導の仕方の研究・研修を引き続き行う。	成果と課題 ①については支援教育委員会を中心に全職員が支援を要する生徒を理解し支援できる体制作りをしている。 ②については授業のユニバーサル化と連携して取り組んでいる。 ③については地域の連携・協力により進めることができた。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成	①課題を分析し、指導の工夫・改善をする。また、家庭への協力要請、PTA・地域と学校が連携して取り組む。積極的な情報発信を行う。 ②継続 ☆学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての共通化などの工夫をする。	①家庭・地域・学校がそれぞれの役割分担を決め活動をする。 ②授業規律の確立・集団生活のルールを守る等の基本的態度の育成を徹底する。 ☆学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての工夫をする。	①家庭・学校・地域との連携の基に基本的な生活習慣の育成を図る。 ②学校から情報発信をはじめとする保護者・地域間での情報の共有化、課題の明確化により課題解決のための家庭・学校・地域の協働の取り組みを進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・共通理解のための生徒指導マニュアルを作成した。	課題 ・生徒指導マニュアルの見直しを行い全職員の共通理解が必要。	成果と課題 ①については基本的な生活習慣の育成が図れた。 ②については学校だより・メールサービス・各たよりにより共有化が図れた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 豊かな心を育む道徳教育の推進	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。また、ブロック活動の拡大と試行をする。 ②あいさつ運動の定着化と、生徒会活動から学年活動への担当の拡大を図る。 ③継続	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。ブロック活動の定着化を図る。 ②あいさつ運動の定着化を図る。 ③ブロック活動の発展として、奉仕活動の充実を図る。	①道徳教育を道徳の時間を要した学校の教育活動全体で行う。 ②発達段階に応じた指導内容の重点化を行い道徳推進教師を中心に全教師が協力して道徳教育を推進する。 ③体験活動を重視するとともに地域講師の採用、生徒が感動を覚える題材の開発と活用を行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題 ・あいさつ運動を全校体制へ押し進めることが課題である。	課題 ・教科と道徳の関連性を進める。 ・体験学習に地域講師の活用を進める。	成果と課題 ①については全ての学校生活の中で取り組みを行った。 ②については3年間という流れの中からの取り組みを行っている。 ③については準備不足であり課題を要する。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 豊かな体験活動の推進	①課題を分析し、3年間を見通した指導計画の作成および指導の工夫・改善をする。 ②～③継続	①課題を分析し、計画の定着を図る。 ②環境学習＝1年、福祉学習・職業体験学習＝2年、保育士体験＝3年、ボランティア活動、ディベート大会等への積極的な参加を図る。 ③青少年指導員や地域の団体との連携体制づくりをする。	①行事や生徒会活動の特別活動や、総合的な学習の時間における体験的な学習を進める。 ②地域との連携による体験的な学習を積極的に進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
		課題 ・地域との連携による体験的な学習を推進する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練等)	成果と課題 ①については修学旅行・野外合宿・横浜めぐり等で進めることができた。 ②については職業体験学習、進路学習等での協力を得ることができた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進	①健康教育・安全教育・性教育・食育の新しい指導計画の試行をする。 ②継続 ③地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。	①指導計画の実施および定着化を図る。 ②地域講師による健康教育・安全教育の定着化を図る。(喫煙防止・薬物乱用防止・エイズ教育・不審者対策) ③地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。 ☆食育委員会の設置	①食育の推進のための特別委員会を設置し、従来より行っている各教科の学習に基づき、久木中学校としての食教育について指導方針を明確にする。 ②飲酒・喫煙・薬物乱用に関する問題などについても、家庭と学校との連携を基にして外部機関等との連携により健康教育を積極的に進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆かながわいきいきスクールとの関連からの食育指導が計画的に行うことができなかった。	課題 ・食育委員会を設置し外部団体と連携のもと食育全体計画を作成・活用。 ・外部講師を招いての健康教育の推進と充実。	成果と課題 ①については食育全体計画に基づいて各教科で取り組み、推進できた。 ②については地域や外部機関との協力連携により進めることができた。今年度は水の安全や携帯電話教室・情報モラル等についても取り組みができた。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進～防災教育の推進～	①安全管理マニュアルの完成、職員の周知を図る。 ②～④継続 ☆昨年度作った生徒の緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る。	①安全管理マニュアルを活用する。 ②授業中、休み時間等校舎巡回をする。 ③家庭、地域、関係機関との連携を強化する。 ④事故防止研修会を開催する。 ☆緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る	①CAPをはじめとする安全教育や防犯教室などに加え携帯電話、パソコンに関する新たな課題に関して積極的に取り組んでいく。 ②従来の学校防災計画を見直し、市との連携を密接にする。 ③校内の避難訓練を計画的に行うとともに、地域避難所訓練に積極的に参加する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した
	課題 ◆危機管理意識の更なる向上が必要である。	課題 ・安全教育や防犯教育に積極的に取り組んでいく。 ・市との連携を密とした学校防災計画の見直しが必要。	成果と課題 ①についてはCAP携帯電話教室・情報モラル教室等実施した。 ②については逗子市学校防災計画に基づいた防災計画の手直しを図った。 ③については火災・地震等を見据えた計画的訓練を行うことができた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	①マニュアルを作成し、試行する。 ②～④継続	①マニュアルを活用し、迅速に対処する。 ②アンケートや個人ノートを活用し、生徒理解を図る。 ③全教育活動を通しての人間尊重教育の推進を図る。 ④SC、心の教室相談員、外部機関との連携を図り活用する。	①生徒指導を充実させ、生徒の規範意識を高め、全職員がいじめを許さない姿勢で臨む。 ②生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となって、管理職・学年と密な連携を取りながら、組織的な指導体制を確立する。
	評価 ⑤・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題	課題 ・生徒の規範意識を高め、学校全体でいじめを許さない姿勢で挑む。 ・教育相談CDを中心に組織的指導体制の確立が必要。	成果と課題 ①については学校全体での取り組みにより生徒・教職員の意識改革が図れた。 ②については毎日の打ち合わせの中に生徒支援について連絡し全教職員で問題解決にあたることができた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。 ②引継ぎ支援シートの活用を試行する。 ③継続 ☆支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるような協力が必要である。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、ねらい等を検討し連携を充実する。	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。 ②引継ぎ支援シートの活用をする。 ③各行事や教科における交流を積極的に図る。(保育士体験・合唱発表・運動会・英語・保体) ☆支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるようにする。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、教科等での連携を図る。	①小学校から入学してくる生徒が、スムーズに中学校生活のスタートがきれ、安心して学校生活を送れる。また、一人一人の生徒の成長を支え、個に応じた指導を進めるために必要な情報の共有と連携を積極的に図る。 ②義務教育9年間を見通したカリキュラムの工夫、授業交流、部活体験など体験活動を進め、小中学校の密な連携のもと、児童生徒の成長を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった
	課題 ◆教科における授業交流が遅れている。	課題 ・義務教育9年間での継続的なカリキュラムの工夫、授業交流などの計画的推進を進める。	成果と課題 ①について教育相談CDが学区小学校を巡回し6年生の情報提供を行い、中学校での指導に役立たせている。 ②については学区小学校が3校係わるために3校一貫した連携ができず、3小学校一緒の調整が必要。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 国際教育の推進	①年間指導計画の推進を図る。 ②IEAを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。	①年間指導計画の推進を図る。 ②IEAを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。 ④国際交流センターの利用した異文化体験学習を計画する。	①国際社会に生きる日本人として資質の向上を目指し、現在派遣されているIEAの様々な教育活動において積極的な活用を進める。 ②総合的な学習の時間や特別活動において、外国人留学生や海外の団体との交流を行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆IEA講師が計画的に配置されているにもかかわらず変わってしまい計画通りに進まない。	課題 ・IEA講師の様々な教育活動での積極的な活用を行う。 ・学習において外国人留学生や団体との積極的な交流を行う。	成果と課題 ①については英語の授業だけでなく普段の生活からIEAを活用した。 ②については韓国人留学生等を活用した国際理解教育を行った。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進	①進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③職業・進路講演会の充実を図る。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、教育課程全体の検討の中から、キャリア教育の意義を明確にする。	①進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③職業・進路講演会の充実を図る。 ④職業体験日数の検討をする。 ⑤職業体験学習の時期の検討を始めていく。	①職業の選択を始めとし、自分の未来ビジョンを描いたり、有意義な人生のあり方を自ら体験的に学ぶために、3年間の指導計画を作成する。 ②既に、地域・保護者による講師を活用した授業、地域での職業体験学習を行っているが更に充実したものにしていく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題	課題 ・「生き方の学習」について3年間を見通した指導計画が必要。	成果と課題 ①については総合的な学習の時間の中で3年間を見通した進路指導計画を作成している。 ②については職業体験学習や進路学習を地域・保護者・卒業生を活用した取り組みを図っている。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進	①～②継続 ③コーディネーターの活用を試行する。 ☆実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成を検討、作成する。	①福祉に対する理解と関心を高める学習会を開催し意識の向上を図る。 ②福祉体験学習の充実を図る。 ③コーディネーターを活用する。 ☆実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成をする。	①社会福祉について理解を深める。 ②思いやりの心、社会奉仕の精神などの育成をする。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・コーディネーターを十分に活用することができなかった。	課題 ・教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。 ・地域と連携した体験学習を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。	成果と課題 ①については理解・関心を深めるための福祉体験学習を開催した。 ②については生徒会を中心とした地域清掃活動や募金活動を通して意識向上を図った。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進	①～③継続 ☆指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にした教育課程の編成を検討、作成する。 ☆グリーンカーテンの取り組みを通して環境学習についての意識の高揚を図る。	①地域の環境問題に関心を高める。 ②生徒会が中心となつての身近な環境について取り組む。(MIX用紙の回収・用紙のリサイクル見学・生徒大会での取り組み等) ③ディベート等で環境問題を考える。☆指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にする。 ☆グリーンカーテンの取り組みから意識の高揚を図る。	①環境に対する意識、熱意、見識を育てる。 ②指導計画に基づく環境学習を充実する。 ③身近にある太陽光発電についての理解を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成できなかった
	課題	課題 ・生徒会中心に身近な環境保護の実践活動を実施する。 ・地域講師による環境学習の実施。	成果と課題 ①については水質検査を通して環境意識を育てることができた。 ②については理科・保健体育の教科での取り組みの中で逗子市環境会議に講師をお願いし充実を図った。 ③についてはデータの活用が生かされていない。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	①～③継続 ☆管理マニュアルを作成し情報管理に活用する。	①3学年を見通した、情報モラル教育の充実を図る。 ②情報活用能力を高める実践の工夫をする。 ③教職員の情報教育モラル向上のための研修会を開催する。 ☆管理マニュアルを作成し活用する。	①情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成する。 ②情報モラルの育成を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ◆管理マニュアルの作成が遅れている。	課題 ・「情報活用能力」育成のための指導計画の育成。 ・ICTを活用した指導法の研究。	成果と課題 ①については指導計画上及び普段の生活の中で指導を図った。 ②については携帯電話教室や情報モラル教室の実施を行った。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	①～③継続 ☆ホームページの計画的な更新を図る。	①久中だより、HPIについて時期、内容、目的等を調査し、充実した情報発信に生かす。 ②メールサービス等の体制づくりと実施をする。 ③学校説明会・授業参観・学校へ行こう週間等で地域や家庭への学校経営について情報提供・公開をする。☆ホームページの計画的な更新を図る。	①学校だよりを地域へ配布する。またホームページの構成を見直すとともに、更新を積極的に行う。 ②青少年育成推進の会を始めとする地域の団体との関係を深め、学校への理解を深めていただく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成できなかった ② 達成した
	課題 ・前年度よりは充実したが更なる充実を計画的に図る必要がある。	課題 ・ホームページの構成を見直し更新を積極的に行う。 ・地域団体との関係を深め学校への理解を得る。	成果と課題 ①については更新は行う事ができたが構成については見直しが遅れている。 ②については青少年育成推進の会が3地区、体育会が4地区に参加でき関係が深められた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用～学校支援地域本部の設置～	①～③継続 ④定期的に地域協力者を開催し、地域と協働の授業展開を考える。 ☆ボランティアの活用場面を検討し、教育課程の中に位置づけていく。	①人材バンクの整理、活用の仕方。 ②長期にわたり安定した地域組織との連携づくりをする。 ③教師の専門性を生かした地域交流のあり方を考える。 ④定期的に地域協力者を開催し、地域と協働の授業展開を考える。	①学校評議員会を学校支援地域本部の組織に整理統合し、地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。 ②学校関係者評価委員会、学校評議員会、保護者・地域個々の意見を十分に把握し、教育活動に反映する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・人材バンクの活用がうまくなされなかった。	課題 ・地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。	成果と課題 ①については整理統合し体制づくりができた。 ②については委員会を年3回計画し実施した。反省・意見は次年度に反映できるようにした。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	①外部評価を導入し課題検討と改善を図る。 ②継続 ☆学校評価を見直し、改善していく。 ☆関係者評価の検討	①外部評価の導入を再検討する。 ②評価後の改善点を明らかにし、評価方法を検討する。 ☆学校評価を見直し、改善していく。 ☆関係者評価の活用	①生徒・保護者にアンケートを実施し、自己評価に取り入れる。 ②自己評価に対する保護者、学校評価委員会、学校評議員会、地域等から改善の指摘を、次年度の学習運営に反映する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した
	課題 ・関係者評価を十分検討できなかった。	課題 ・自己評価の内容を見直しわかりやすいものとする。 ・行事ごとにアンケートを実施し自己評価に取り入れる。	成果と課題 ①については行事ごとに生徒・保護者・地域の方々に実施している。 ②については意見について精査し次年度に反映していく。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実	<p>研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。</p> <p>①～③継続</p> <p>☆指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしなが授業研究を継続する。</p>	<p>研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。</p> <p>①全員による授業公開を行い、外部指導者を招いての研究会の充実を図る。</p> <p>②個人、教科テーマを設定し授業力向上を推進する。</p> <p>③教員の世代間交流を通じて、教員の資質・力量の向上を図る。</p> <p>☆指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしなが授業研究を継続する。</p>	<p>①研究授業の積極的な実践・課題研修レポートの作成。</p> <p>②指導助言に適切な講師を依頼し、研究会における研修の充実を図る。</p> <p>③教科会を充実する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>
	<p>課題◆授業中の全教師による公開授業なのでその時間にあいている教師のみの授業参観なのが課題。</p>	<p>課題</p> <p>・研究授業の積極的な実施、課題研修レポートの作成を行う。</p> <p>・研究会の実施、適切な助言者の依頼を図る。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については年2回の研究授業とレポート提出の義務化。</p> <p>②については外部講師を招いての研修会が4回、実施された。</p> <p>③については授業のユニバーサル化や新指導要領の取り組みで充実した。</p>
② 授業評価の活用	<p>①～②継続</p> <p>③外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。</p> <p>④評価基準の公表をする。</p> <p>☆関係者評価の導入を進める。</p>	<p>①評価規準の見直しと検討を行う。</p> <p>②授業評価シート項目の検討する。</p> <p>③外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。</p> <p>④評価基準の公表をする。</p> <p>☆関係者評価の導入を進める。</p>	<p>①校内研究における授業を中心として授業評価を進める。</p> <p>②学校評価の重要な部分として、生徒、保護者、外部関係者による授業評価を行い、よりよい授業づくりに学校全体として取り組む。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した ② 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>外部講師等の専門家を活用した授業評価が十分できなかった。</p>	<p>課題</p> <p>・校内研究における授業を中心とした授業評価の推進。</p> <p>・生徒、保護者、外部関係者の授業評価を生かした授業づくりの推進。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については全教員が意識を持って取り組むことができた。</p> <p>②については評価をして頂き次年度に生かしていきたい。</p>
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<p>①地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。</p> <p>②行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。</p> <p>☆地域教材の開発に取り組む。</p>	<p>①地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。</p> <p>②行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。</p> <p>☆地域教材の開発に取り組む。</p>	<p>①保護者・地域の外部人材の積極的な活用を推進する。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>
	<p>課題</p> <p>・地域教材の開発が十分できなかった。</p>	<p>課題</p> <p>・保護者、地域の外部人材の積極的な活用の推進。</p> <p>・地域団体の行事、学校との協働などの連携推進。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①については地域団体を積極的に活用できた。</p>
④ 研修事業の充実	<p>①～③継続</p> <p>④研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。</p>	<p>①初任者研修や年次経験者研修等、経験年数や職務内容に応じた各種研修の積極的な参加を促す。</p> <p>②参加体制づくりを確認する。</p> <p>③研修会および研究会への参加を推進する。</p> <p>④研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。</p>	<p>①学校で行う教育活動全体において、教師が身につけておく必要性の高いものの研修を計画的に進める。</p>
	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>評価 S・A・B・C</p>	<p>(評価)</p> <p>① 達成した</p>
		<p>課題</p> <p>・教育活動全体において、教師が身につけるべきものの校内研修の計画。</p> <p>・県、市などの主催する研修会への参加を促す。</p> <p>・校内研究の計画的実施。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①について授業のユニバーサル化と係わって計画的に研修を行うことができた。</p>

平成20年度～平成22年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 新学習指導要領の全面実施に向けた取り組み(教育課程部)			①選択授業の時数の削減と数学・理科時数の拡大を図る。 ②全教科における言語活動・体験活動のあり方を視野に入れた授業実践を行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成した 成果と課題 ①については、3年では選択授業時数を年間17時間削減する等、理科授業数年間35時間拡大した。 ②については、次年度も校内研究会で研究を進め、より日常的な授業実践に結びつけていくことが、課題である。
② 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実(支援・教育課程部)	H20(2008)年度取組内容 ・小学校おさらいテスト、学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を分析し、学習面での課題を洗い出し、放課後(火)、定期テスト前、教育相談期間の支援を系統的に行う。 ・夏季休業期間中の補充・発展学習を強化。	H21(2009)年度取組内容 ・全校生徒一人ひとりの3年間継続の個人学習支援シートを作成し、9教科を総合的に捉えた学力の向上を図る。 →読解力、思考力、発表力等	H22(2010)年度取組内容 ①生徒一人ひとりの能力に応じた補習を定期試験前や夏休み、さらに定期的実施する。 ②生徒一人ひとりの学習状況の把握とそれに対応する授業を工夫する。 ③個人学習カルテの改善を行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した 成果と課題 ①については、支援部が中心となり、サマーチャレンジ10日間、テスト前補習年4回4日間を学校体制で実施することができた。 ②については、学習状況把握を校内研究会のテーマの1つに掲げ、研究授業を実施し、講師の助言を仰ぎ、日常の授業に生かした。 ③については、評定や観点別学習評価との違いが明確になるよう記号を変え、保護者・生徒の理解しやすいよう改善できた。 ・学習意欲の向上に努め工夫も重ねたが、生徒の理解力向上にややつながっていなかった。さらに努力が必要である。
③ 「読解力」向上の取り組みの推進(教育課程部)	H20(2008)年度取組内容 ・全教科で読解力向上推進プランを作成するなど、授業研究に取り組む。	H21(2009)年度取組内容 ・読解力向上について、さらに発展と向上を図る。	H22(2010)年度取組内容 ①各教科における「読解力」とはどのような能力か周知を図る。 ②教科外での「読解力」育成が可能な内容を洗い出す。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ① 達成した ② 達成できなかった 成果と課題 ①については、今後は新学習指導要領における言語活動との整合性を図るところから再検討する必要がある。 ②については、読解力に焦点を当てた校内研修会をもったが、「内容」の洗い出しには至らなかった。 ・事前の取り組みが不十分だった。逗子市の捉え方、新学習指導要領における捉え方の周知を図るとともに、沼間小学校での実践についても周知をはかるために研修会を設定する必要がある。
④ 読書活動の推進(図書委員会)	H20(2008)年度取組内容 ・新たな読書推進活動を図書委員会と国語科が連携して提案し、実践していく。 ・朝読書をカリキュラムに組み入れ習慣化する。 ☆ボランティアを活用した読み聞かせ等に取り組む	H21(2009)年度取組内容 読書週間を中心に ・朝読書を生徒自らの活動で充実させる。 ・朝読書を充実させるためにブックトークの取り組みも積極的に取り入れる。	H22(2010)年度取組内容 ①保護者や地域との連携をとりながら、図書委員会を中心とした読書活動を検討する。 ②「学校版子どもの読書活動推進計画」を検討する。 ③司書教諭・学校図書館指導員・学校支援ボランティアを活用した学校図書館機能の活性化を検討する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した 成果と課題 ①については、保護者・地域の協力を得て、県図書館教育研究会で本校の取り組みを発表し、図書委員会指導の課題を洗い出すことができた。 ②については、「学校版子どもの読書活動推進計画」の検討はまだ中途なので、来年度も継続する。 ③については、学校支援ボランティアは試行できたので、来年度本格実施する。
⑤ 校内支援体制の構築による支援教育の推進(支援部)	H20(2008)年度取組内容 ☆様々な教育活動の中における教育相談の充実と、担任による計画的な生徒全員との二者面談の実施。他機関との連携の推進。 ・ADHD、LD等の研修をし、特別支援教育についての具体的対策をつくる。	H21(2009)年度取組内容 ・特別に支援が必要な生徒への具体的な支援方法を学習面、メンタル面両輪で体系的に実践する。	H22(2010)年度取組内容 ①生徒一人ひとりの状況把握に努め、その支援のあり方を共通理解する。 ②教育相談コーディネーターが中心となり、校内支援体制の構築を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した 成果と課題 全教職員の意識が向上し生徒の支援のあり方を共有することができた。体制は概ね構築できたが、円滑に実働させていくことが課題であるので、来年度も継続したい。



I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 基本的な生活習慣の育成(支援部)	・毎週水曜日に校門指導(あいさつ運動)を生徒会活動を中心として推進する。 ・アンケート結果を受けて、改善点を明らかにし、保護者・地域からの協力も得て改善を図る。	・服装、食生活、時間、マナー面等、義務教育終了後、規範意識の高い社会人の育成を目指す。	①学活、道徳の時間における教師による意識改革と呼びかけや、地域講師等の講演会を通しての指導の充実を図る。 ②挨拶、言葉遣い等の日常的指導を継続する。 ③生徒会活動としてのルールを守る呼びかけを行うよう助言していく。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成できなかった
	課題 生徒会、保護者の協力で毎週水曜日と定期試験の週5日間実施した。保護の協力のもと、朝のあいさつ運動は定着したが、遅刻者や服装の乱れの改善が十分ではなかった。	課題 ◆ 生徒会、保護者、地域の方、職員で登校指導を行ったが、服装、マナー面の指導について徹底できなかった。	成果と課題 ①については、教師が朝会等あらゆる機会に規範意識の熟成を図るとともに、弁護士、客室乗務員をはじめ、多くの地域講師を招聘し指導の徹底を図った。 ②については、挨拶については一定の指導の効果は得られたが、言葉遣いについてははたらきかけをしたものの、生徒の問題行動が多く意識向上への支援が難しかった。来年度はさらに組織的な取り組みをしたい。 ③については、教職員の意識の熟成は図れたものの、生徒の自主的な活動を十分に引き出す指導にまでは至れなかった。
② 豊かな心を育む道徳教育の推進(教育課程部)	・地域協力者を招聘し、人権問題を生徒自らの課題として認識させる。 ☆人権フェスタの実施(全学年)	・人権問題の課題を日常生活の中に見つけ、その解決に向けて行動できる力を生徒が身につけられるよう支援する。	①道徳担当教諭がリーダーシップを取り、豊かな心を育む道徳教育を全教科・領域において推進する。 ②学校支援地域本部の協力による地域人材活用授業を実践する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	課題 人権フェスタの実施(全学年)、道徳の公開授業(人権教育、1年)を実施し保護者、地域の方にも参加いただいた。今後はテーマを決めて実施したい。	課題 1学年はCAP(暴力防止)カリキュラムの実施。外部講師の全学年対象の人権講話も実施した。	成果と課題 ①については、生徒指導に時間がかかり、道徳教育については学年ごとにばらつきがあったので、来年度は、教育課程部で計画的かつ組織的に進める必要がある。 ②については心の教育としては、鎌倉ユネスコ、逗子葡萄の木等の協力を得て、3学年合わせて、10時間程度の実践ができた。
③ 豊かな体験活動の推進(指導部)	☆新学習指導要領を見通した体験学習の見直し。 ・職業体験日数を2日に増やす。	☆1年生は、環境教育を年間指導の柱とし逗子海岸での清掃活動等を実施する。 ☆2年生では、自然体験学習(1泊)において、環境教育に関わる取り組みを計画・実践する。	①生徒の実態を把握し、さまざまな活動に取り組むことができるように体験活動を計画する。 ②様々な活動に自主的に取り組めるように学習を進める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 今年度2日間にし、実施したが、2日間受け入れてくれる事業所を探すのが難しかったので課題となった。	課題 2学年対象の自然体験学習(1泊)、職業体験学習(1日)を実施したが、職業体験学習の期間については受け入れ先及び学校事情等が許せば2日間が望ましい。	成果と課題 ①については、3年修学旅行・2年自然体験学習・1年ビーチコーミング等、発達段階に応じて実施できた。 ②については、しっかりできればシールを貼る等、自主的に取り組める工夫に努め、その結果、生徒の意欲を喚起することができた。
④ 食育の体系化と体力づくり・健康教育の推進(教育課程部)	☆かながわイキイキスクール研究指定校として保護者・地域の協力も取り入れ、学校全体で健康教育を推進する。	・健康教育全体計画にしたがって、体系的に実践する。	①家庭、地域などとの連携により食べ物に興味関心を持ち、食事が社会生活においても重要であることを理解させる。 ②運動そのものに対して自らの能力に応じて興味、関心を持てるようにする。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 県指定で2年間のイキイキスクールを行い、食育授業で地域の方を講師に招いて調理実習を行った。健康教育で県から表彰を受けた。	課題 今年度も食育で地域の方を招いて調理実習を行った。さらに充実を図りたい。	成果と課題 ①については、地域協力者による調理実習等実践することができ、理解を促すことができた。 ②については、体育の授業では自己評価カードを有効に利用することにより、興味・関心を促すことができた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育的課題への対応

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進 ～防災教育の推進～ (総務部)	・19年度の反省にたち、月末の『安全点検』のより効果的な方法を検討する。 ☆防犯、救急研修(職員対象)の実施。	・生徒も参加する月末の『安全点検』のより効果的な方法を検討する。	①校舎危険箇所、修繕箇所等を複数職員体制で点検し、改善を図る。 ②教職員の防災研修を実施し、地域の避難所運営訓練に生徒を参加させる。 ③防災安全管理マニュアルを試作する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 生徒の安全確保のための安全点検を複数で行うことができた。また、校内の防災、防犯研修を行ったが、定期的な安全点検の徹底とともに日常的な安全に対する意識の向上が必要である。	課題◆ 学校の安全確保のため安全点検は不可欠なので、複数職員で点検する日を年間3回実施した。今年度は生徒参加の安全点検までは実施できなかった。	成果と課題 ①については、総務安全担当の下に、校舎内外の徹底的な危険箇所の洗い出しを行い、速やかに修繕等実施した。 ②では、予行、本番あわせて生徒延べ、50人を参加させることができた。 ③では、教職員役割分担として住民対応・避難所支援班を新設し、試行できた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② いじめ・不登校等への対応の推進(支援部)	・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、支援部長が中心となり学年・学級との連携を密にし、教育相談を必要とする生徒への早期対応が可能な支援体制を立ち上げる。 ☆一般公開による人権フェスタの実施(全学年)	・生徒が学級活動の中で互いに支え合えるような学級集団を実現する。 ・教育相談を必要とする生徒への支援体制の充実を図る。	①生徒本人、家庭との相談、連絡を密にとることにより、学校との信頼関係を構築する。 ②道徳、学活などの授業を通して自己肯定感の啓発を図る。 ③生徒間の問題解決能力を培える方法を模索する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった
	課題 支援委員会で支援が必要な生徒の全職員による把握、情報交換、共有の充実。人権教育の充実。1年生にCAP人権教育(暴力防止)実施。	課題 人権教育の実施、支援委員会での支援が必要な生徒の把握、全職員の情報の共有、校内研修等で職員間の共通理解は深まった。	成果と課題 ①については、教師の情報交換、保護者との連絡はよくとれたが、生徒の理解がやや深まらなかった。さらに来年度は学級づくりを基盤とし、取り組みの強化をはかりたい。 ②については、校内研究会等で、リフレーミングの視点やコミュニケーションを取り入れた研究授業を行うなど、生徒の自己肯定感啓発を行った。 ③については、授業の中で生徒が互いに高めあい、問題解決に向かって論理的な筋道を立てて説明しあうことができる場面を、多く設定していくことが課題である。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進(総務部)	・小中教職員研修を実施したり、研究会に乗り入れる等により、相互理解を図る。 ・中学校教諭が小学校にて交換授業を行う。 →体育だけではなく、英語、数学等に広げていく。	・教科毎に連絡会をもち、小中一貫カリキュラムの在り方を模索する。	①小中合同研究会を設定し、できるだけ多くの教職員が参加する。 ②全教科で小学校のカリキュラムを学び、小学校での体育・英語の交流授業や新入生対象体験学習を実践する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 沼間小学校との連携で小学校に出向いて授業、クラブ指導を実施。連携の充実。	課題 沼間小学校小中連携で小学校に出向いて授業を実施した。小中連携の充実。	成果と課題 ①については、逗子市の研究を受けていたので、小中職員の合同情報交換会を新たに実施した。 ②については、小学校の交流授業はできなかったが、今年度新入生対象体験学習は実施した。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 国際教育の推進 (教育課程部・英語科)	・地域講師(海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等)を迎えての授業実践を導入する。	・地域講師(海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等)を迎えての授業実践をカリキュラムの中に位置づける。	①小学校外国活動を受けるにあたって、IEAの積極的な活用方法を課題として掲げ、その改善方法を模索する。 ②修学旅行において、日本文化を理解するとともに、様々な国からの旅行者との交流を促し、生きた国際理解教育を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった
	課題 人権フェスタで海外支援活動の講話及び国際教育指導助手の自国文化の講話を授業に取り入れた。	課題 今年度は特に海外在留経験者等の講師を迎えての授業は実施できなかった。来年度は実施したい。	成果と課題 ①については、IEAが積極的に生徒たちと会話する機会を多く設ける工夫を行った。 ②では、修学旅行での総合的な学習の時間における課題設定を再検討する必要がある。

行動プラン	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑤ キャリア教育の推進 (支援部)	・職業体験日数を2日に増やす。 ☆キャリア教育について新学習指導要領を見通して検討を加える。	☆職業体験学習では内容の充実を図ることと生徒に日程及び内容の選択を広げる。	①地域講師を迎えての授業を通して、働く人々の生きた教材により学習のねらいを深化させる。 ②職業体験学習の2日間の実施を実現させる。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 今年度初めて職業体験を2日間にした。2日間の体験場所確保が課題。	課題 新型インフルエンザ及び学級閉鎖による授業時数確保のため、職業体験を今年度は、1日で実施した。次年度以降2日日程で実施したい。	成果と課題 ①については、ふれあいディの地域講師を迎えての授業では2・3年でキャリア教育の地域講師を招聘して授業を行った。延べ15人を導入できた。 ②については、2年において、2日間受け入れ事業所30箇所を探し、2日間実施できた。

## 【沼間中学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑥ 福祉教育の推進 (指導部)	・2年夏休みに個人選択で福祉体験学習に参加するよう学年で取り組む。	・全校の発表の場を設け、福祉体験を共有して	①小学校でのカリキュラムとの連携を図り、福祉体験学習を定着させる。 ②地域講師を迎えての授業実践を推進する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 2学年で夏期休業中に総合学習の体験学習を実施。	課題 今年度の福祉体験学習は個人選択で夏休みに実施。	成果と課題 ①については、小学校との授業の重なりを避け、本校では、キャリア教育を視点に据えた福祉教育を定着させることになり、その一環として、サービス業より地域講師を招聘し、マナー講習会等実施することができた。 ②については、小学校カリキュラムとの重複をさけるため、今年度は福祉を勤労や法秩序という観点まで拡大し、実践することができた。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑦ 環境教育の推進 (指導部・環境局)	☆学校版ISO取得に向けて具体的に取り組む。 ・逗子メダカの飼育を全校の課題として意識させ、一人ひとりが環境問題に取り組めるよう促していく。	☆学校版ISO取得に向け環境局を中心に全校で取り組む。	①地域の環境改善の取り組み(ビーチコーミング・地域清掃等)を実施する。 ②地域・保護者との共同参画による企画も導入する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ISO取得に向けて活動中。メダカの飼育は難しかった。また、全校生徒への環境に対する意識の向上が不十分であった。	課題 生徒会(総務会)、環境局等と取り組んだが、ISO取得には至っていないので、引き続き取り組む必要がある。	成果と課題 ①については、地域・保護者の協力を得た全校生徒参加の年2回の地域清掃を始めとして、1年では地域講師の指導の下にビーチコーミングを行い、調べた結果を発表することができた。 ②については、学校支援地域本部の協力を得て、美術部・環境局の生徒が中心となって昇降口前の花壇をレンガで造り、メダカの飼育を始める準備をした。 ・少し保護者や地域への呼びかけが弱かった。来年度は地域清掃以外にも地域・保護者との共同参画による企画を増やしていきたい。
行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
⑧ 情報教育の推進 (教育課程部)	☆総合的な学習等での発表において、情報機器を活かしたプレゼンに取り組む。 ・他機関と連携して情報モラル向上に取り組む。	・情報モラル等についても生徒に課題を投げかけながら、日常の授業に生かしていく。 ☆情報モラル向上を図りつつ、インターネットを含めた情報機器の活用を広げる。	①授業でICTを活用できる環境整備する。 ②小学校と連携し、情報機器の活用状況を知る。 ③ネット、メールなどの被害事例を知り、対策を考える
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 情報モラルの更なる向上を図り、ICTを活用した授業づくりをめざす。	課題 情報モラルについて、技術・家庭科の授業で実施。インターネットのマナー等。	成果と課題 ①については、ICT支援員を活用した校内研修を3回設定し、教職員のスキルアップを図り、その結果、プロジェクター等多くの授業で活用された。 ②については、沼間小学校との授業参観を共有し、発達段階にあった使用方法を共有した。 ③では、警察等の地域講師を招いて保護者・地域にも呼びかけ研修会をもつことができた。

## Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

## 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫 (地域連携部)	・評議員に授業参観の機会を設定し、より多くの情報が共有できるよう評議員会を開く。 ・学校公開日を毎月指定し、地域・保護者が来校する機会を作る。	・学校へ行こう週間や公開日を利用して保護者・地域来校者の増加を図る。研究会は地域、保護者の参加を募り、意見反映を促す。	①P&Tのあり方を検討(PTAへの移行の提言)していく。 ②学校公開等におけるあらゆる場面での地域・保護者との学校課題の共有を図る。 ③情報発信(学校だより、HP、メール配信等)の充実に向けた計画を作成する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した ③達成した
	課題 学校評価委員・評議員の来校日は授業参観してから会を行った。学校公開日は特に指定せず何時でも授業参観できるようにしているが参観者はほとんどない。	課題 授業参観年間3回実施。全教師の授業研究を実施。さらに、外部講師を招いての講演会等に保護者、地域の方にも参加いただいている。	成果と課題 ①についてはP&T活動の活性化を図ることはできたが、PTAへの移行を検討課題として視野に入れるまで進めることができたものの、具体的な検討に至るには時期尚早であった。 ②については、6月には地域・保護者・教職員の茶話会、9月に臨時保護者・教職員の懇親会を学年ごとに開き、学校の現状の課題とその解決策を話し合った。 ③についてはメール配信制度を導入、HPでの情報拡大等工夫し、有効な活用方法の施行に至った。

## 【沼間中学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 地域教育力の活用 ～学校支援地域本部 の設置～(地域連携部)	・継続的に地域講師の協力を要請していく。 ・学校外の地域行事にも、生徒が積極的に参加するよう取り組む。	・個別な学習支援・図書館に地域協力者の参加を定着させる。 ・地域講師参画型の授業づくりを継続的に実施する。	①地域講師を迎えての授業のあり方を提示し、共通理解の下に実践する。 ②地域教育協議会(評議員会)の一体化を視野に入れながら、より機能的な運営を行うことで、学校支援地域本部の活動を軌道に乗せる。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 創立20周年だったので、卒業生を含めた地域講師授業を行った。逗子市民祭り清掃ボランティアや地域のお祭りで見こしをかつぐ等の行事に参加。	課題◆ 地域講師授業の実施。食育では地域の方を招いて家庭科で調理実習を実施したが、園芸でも実施していきたい。	成果と課題 ①については、地域コーディネーターが教職員と密な打ち合わせを持つことで、学校のニーズを的確に把握し、生徒に有意義となる授業実践ができた。 ②については、生徒を地域行事に参加させることで、学ばせる機会も積極的に提供できた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善(地域連携部)	・学校評価結果で重要度、実現可能度等を検討し、全職員の共通理解を得て、最優先課題として解決を図る。	・客観性のある学校評価も一部取り入れ、その結果を真摯に受け止め検討し、最優先課題として解決を図る。	①学校の実態の把握・分析と評価活動とのつながりについての具体的検討を行う。 ②学校評価に基づいた改善・支援・公開等の整備・基盤づくりを行う。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆評価項目を見直し新しい評価アンケートで生徒、保護者、学校評価委員、評議員の学校評価を受けてポイントを絞り来年度以降にいかす方向で検討。	課題 生徒、保護者、地域の方、学校評価委員、評議員、職員のアンケートを実施し、課題を見つけ、優先課題から解決を図った。	成果と課題 ①については、学校評価の質問項目を再検討し、学校経営方針との整合性を図った。 ②については、学校経営方針に沿った学校評価集計結果であったため、学校関係者評価委員会での評価を、的確な改善案として学校経営方針に反映させることができた。さらに、年間行事では予定していなかった保護者懇談会を設定し、学校運営についての生の声としての要望を聞く機会を持って学校運営に反映させた。

### Ⅲ 教員の指導力向上

#### 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
① 授業研究の充実 (教育課程部)	・19年度を継続、発展 ・学習状況調査や全国学力学習状況調査の結果を分析し、指導の改善を図る。	☆基礎・基本の定着を基盤に、活用する力の育成を目指した授業研究に取り組む。	①授業改善のための校内研究組織の強化と研究時間の確保を実行する。 ②小学校カリキュラムの研究を取り入れ、生徒の関心・意欲を高める。 ③校内研究会充実のために適切な講師を招き、授業力向上を図る。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した
	課題 ◆校内公開研究授業を実施し授業力を高めるにあたってより成果を高めるため、お互いに見合う時間の確保が課題である。	課題 ◆校内研究は全教師が授業参観以外に外部講師を招いて研究授業を実施したが、さらに、校内研究会を充実させ、機会を増やしていく必要がある。	成果と課題 ①については、教育課程部と総務部の連携の下、年間10回の校内研究会を実施できた。 ②については、小学校との連携が不十分だったが、来年度は県学びづくりの研究指定を柱に、強力に推進を図る必要がある。 ③については、講師を年間6回招聘し、学級づくりを礎とした学力向上の方法を研究・研修した。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
② 授業評価の活用 (教育課程部)	☆全教科、全学年授業評価を行い、校内研究会でその結果を分析し、改善していく。	☆授業評価を授業改善に生かして、授業力向上を目指す。	①教師相互の授業評価、及び、生徒による授業評価を行う。 ②評価結果を考察し、自らの授業の弱点を認識する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した
	課題 ◆生徒、保護者による授業評価を実施し、結果を教職員に公開し授業にいかす。	課題◆ 全教科、全学年の授業評価アンケートを実施し、課題解決の方針を出したが、授業に反映させるところまでには至らなかった。	成果と課題 ①、②については、自ら考察し認識するに留まらず、校内研究会で発表し、共有することができた。

【沼間中学校】

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進(地域連携部)	・各教科指導においても地域教材を授業に積極的に取り入れ、地域にも授業公開し、協力を呼びかける。	・地域教材を活用して、授業の充実と公開を積極的に行う。	①小学校との連携を利用し、教科・学年などで、地域素材の活用の工夫について検討する。 ②保護者・地域講師の活用について、学校としての経過をまとめ、今後の課題を提示する。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成できなかった ②達成した
	課題 地域講師による食育の調理実習を実施し、身近な食材の活用をはかった。	課題 食育で地域講師を招いての調理実習授業を実施した。地元の食材を使用(地産地消)した。	成果と課題 ①については、小学校との連携については、より具体的実践につながるよう検討していく必要がある。 ②については、学校支援地域本部が組織として動き始め、それぞれの教科・部活動・委員会活動が積極的に地域講師導入に動き出した。また、本校では地域活動そのものを教材と捕らえ、休日にも生徒を地域ボランティアとして、送り出す体制もできた。

行動プラン	H20(2008)年度取組内容	H21(2009)年度取組内容	H22(2010)年度取組内容
④ 研修事業の充実(総務部)	・学校現場における人権の課題研修会を設定する。 ☆新学習指導要領の研修会を実施し、先取りを含めた移行を検討する。	・危機管理意識、情報モラル等の高揚等、今日的な課題についての研修会を実施。	①小中合同研修会を実施し、相互理解を深める。 ②支援教育等、生徒理解・人権に関する研修を積極的に計画する。 ③ICT研修に積極的に参加し、技術の向上に努める。
	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	課題 人権フェスタを実施し、生徒、保護者、地域の方、職員ともに参加し研修の場とした。移行期間に向けての各担当での検討。特に先行実施する道徳、特活、総合は3つの関連も考えて検討。	課題 危機管理(安全な学校)研修として、防災では全職員対象で火災報知器等が作動した場合の対応。防犯研修では外部講師を招いての不審者対応訓練研修を行った。	成果と課題 ①については、研究会相互乗り入れや合同研修会等実施し、小学校・中学校の違いや共通点等明らかにすることができ、その結果、教職員の相互理解が深まった。 ②については、支援教育研修会及び全体会を全教職員参加で5回以上もつことができた。 ③については、全職員参加での、ICT研修会を3回実施できた。

## ○ 参 考 资 料

## 平成22年度の教育委員会の活動状況

### 1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	村松 邦彦（平成 19. 6. 26～23. 6. 25）【2期目】
委員長職務代理者	竹村 史朗（平成 19. 11. 13～23. 11. 12）（職務代理者 H21. 11. 19～）
委員	山西 優二（平成 20. 12. 17～24. 12. 16） 桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～25. 11. 30）
教育長	（平成 22. 4. 1～22. 6. 20 欠員） 青池 寛（平成 22. 6. 21～26. 6. 20）

### 2 教育委員会開催状況（平成22年度実績）

定例会 12回開催

臨時会 3回開催

### 3 教育委員会審議案件

4月定例会	平成22年4月19日（月）
日程第1	2月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長職務代理者報告事項について
日程第3	報告第4号 教育委員会職員の人事について
日程第4	報告第5号 逗子市教育委員会事務決裁規程の一部改正について
日程第5	報告第6号 平成22年度逗子市奨学金受給者の給付決定について
日程第6	議案第6号 平成22年度工事計画の策定について
日程第7	議案第7号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について
日程第8	請願第1号 教科書採択についての請願
日程第9	その他
5月定例会	平成22年5月24日（月）
日程第1	3月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長職務代理者報告事項について
日程第3	議案第8号 平成23年度逗子市立小・中学校使用教科用図書の採択方針について
日程第4	その他
第1回臨時会	平成22年6月21日（月）
日程第1	議案第9号 教育長の任命について
6月定例会	平成22年6月30日（水）
日程第1	4月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第7号 議案（平成22年度逗子市一般会計補正予算（第1号））作成に関する逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	報告第8号 教育委員会職員の人事について
日程第5	議案第10号 教育財産の用途廃止について
日程第6	その他
7月定例会	平成22年7月21日（水）
日程第1	5月定例会会議録の承認について
日程第2	第1回臨時会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	議案第11号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第5	議案第12号 教育財産の用途廃止について
日程第6	その他

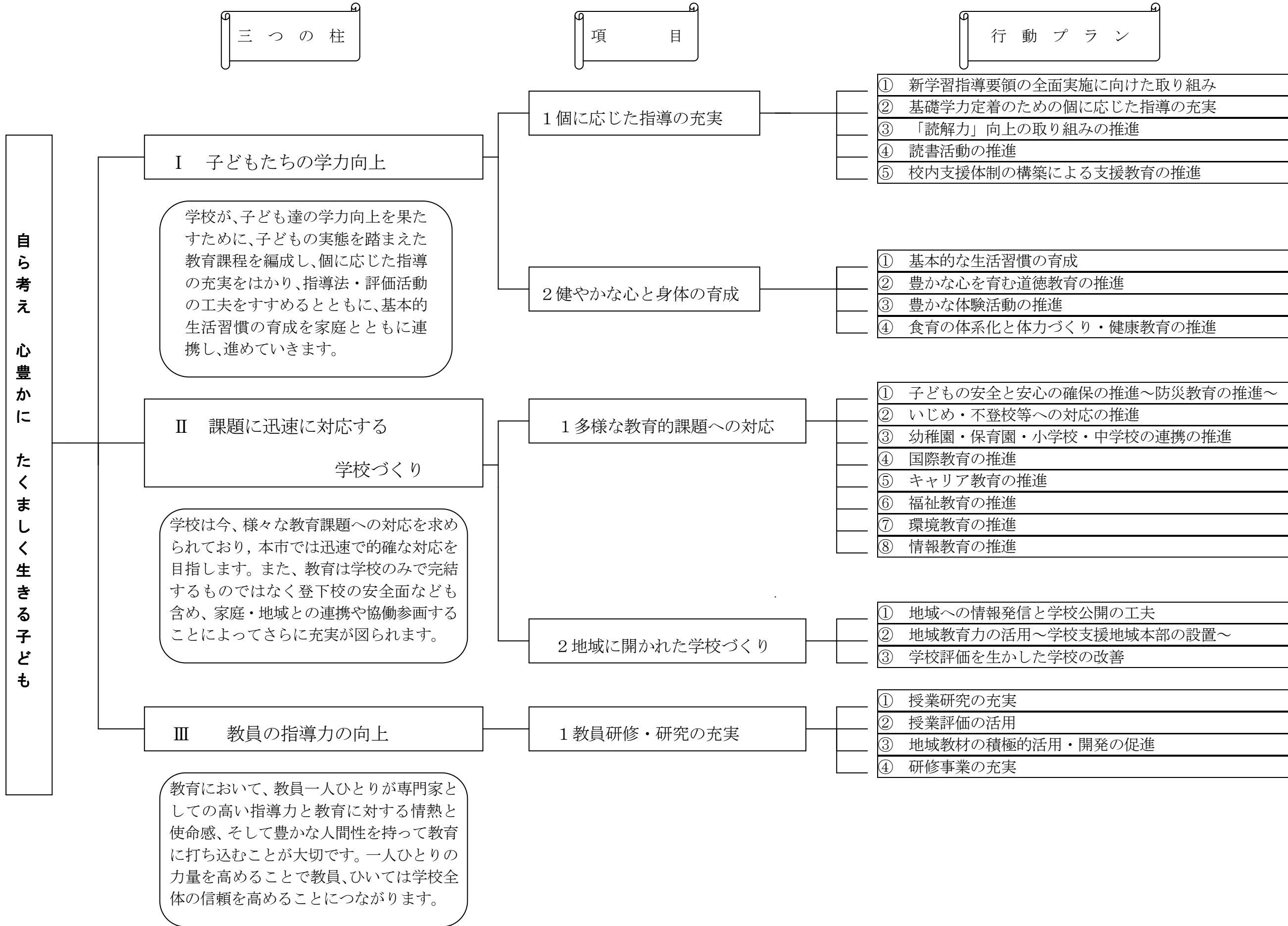
第2回臨時会	平成22年8月2日(月)
日程第1	議案第13号 教科用図書の採択について
8月定例会	平成22年8月16日(月)
日程第1	6月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	その他
9月定例会	平成22年9月15日(水)
日程第1	7月定例会会議録の承認について
日程第2	第2回臨時会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	その他
10月定例会	平成22年10月18日(月)
日程第1	8月定例会会議録の承認について
日程第2	9月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	報告第9号 教育委員会職員の人事について
日程第5	議案第14号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第6	議案第15号 逗子市文化振興基本計画策定等検討委員会設置規則の一部改正について
日程第7	その他
11月定例会	平成22年11月15日(月)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	報告第10号 議案(平成22年度逗子市一般会計補正予算(第3号))作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第3	委員長の選挙について
日程第4	委員長職務代理者の指名について
日程第5	その他
12月定例会	平成22年12月22日(水)
日程第1	10月定例会会議録の承認について
日程第2	11月定例会会議録の承認について
日程第3	教育長報告事項について
日程第4	その他
1月定例会	平成23年1月17日(月)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	報告第1号 平成23年度全国学力・学習状況調査の実施について
日程第3	議案第1号 逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について
日程第4	その他
第1回臨時会	平成23年2月9日(水)
日程第1	報告第2号 逗子市就学支援会議規程の制定について
日程第2	議案第2号 逗子市立中学校給食実施方針について
2月定例会	平成23年2月21日(月)
日程第1	12月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第3号 議案(平成23年度逗子市一般会計予算)作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	報告第4号 議案(平成22年度逗子市一般会計補正予算(第5号))作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第5	報告第5号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第6	議案第3号 逗子市文化振興基本計画策定等検討委員会設置規則の廃止について
日程第7	議案第4号 逗子市文化振興基本計画策定について



日程第8	議案第5号	逗子市立図書館協議会委員の任命について
日程第9	その他	
3月定例会	平成23年3月22日(火)	
日程第1	1月定例会会議録の承認について	
日程第2	第1回臨時会会議録の承認について	
日程第3	教育長報告事項について	
日程第4	報告第6号 逗子市教育委員会会議規則の一部改正について	
日程第5	議案第6号 逗子市教育委員会教育長に委任する事務等に関する規則の一部改正について	
日程第6	議案第7号 逗子市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部改正について	
日程第7	議案第8号 逗子市立体育館条例施行規則の一部改正について	
日程第8	議案第9号 逗子市スポーツ振興審議会委員の任命について	
日程第9	その他	

#### 4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会 (4/19)	神奈川県市町村教育委員会連合会 (4/9)
5月	定例会 (5/24)	勉強会 (5/17)
6月	臨時会 (6/21) 定例会 (6/30)	小学校運動会 (6/5) 市長との懇談 (6/14、30) 勉強会 (6/14)
7月	定例会 (7/21)	勉強会 (7/12、28)
8月	臨時会 (8/2) 定例会 (8/16)	
9月	定例会 (9/15)	中学校体育祭 (9/18) 小学校運動会 (9/25)
10月	定例会 (10/18)	勉強会 (10/6、25) 小・中学校「学校へ行こう週間」 (10/18~31) 逗子市文化祭 (10/22)
11月	定例会 (11/15)	勉強会 (11/1) 神奈川県市町村教育委員会連合会研修会 (11/5) 学校訪問 (11/12)
12月	定例会 (12/22)	勉強会 (12/6)
1月	定例会 (1/17)	市内一周駅伝 (1/9) 成人式 (1/10)
2月	臨時会 (2/9) 定例会 (2/21)	手作り絵本コンクール表彰式 (2/12)
3月	定例会 (3/22)	中学校卒業式 (3/9) 小学校卒業式 (3/18) 市長との懇談 (3/25)



## 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

### （事務の委任等）

第二十六条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。

四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

五 次条の規定による点検及び評価に関すること。

六 第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

### （教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### （教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）  
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

## 第一 改正法の概要

### 1 教育委員会の責任体制の明確化

#### (3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。  
（法第 27 条）

## 第二 留意事項

### 1 教育委員会の責任体制の明確化

#### (3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail [kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp](mailto:kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp)